

令和元年度
学校体育のあしあと



新潟市教育委員会

新潟市の子ども



確かな学力



豊かな心



健やかな体

目 次

表紙			01
巻頭言	学校支援課長	齋藤 純一	02
I 新潟市児童生徒の体力向上を図る取組			
1 令和元年度児童生徒の体力等調査結果			03
2 体力向上を目指す指導実践例 (令和元年度体力向上指導者養成研修から)			04
○ 小学校「体づくり運動系」	早通南小学校	三宮 真澄	
○ 小学校「器械運動系」	大形小学校	三上 賢二	
○ 中学校「ボール運動（ネット型）」	松浜中学校	阿部 健	
○ 幼稚園・小学校低学年「幼児の運動遊び」	学校支援課	門倉 純一	
II 教育研究協議会の研究			
1 小学校教育研究協議会体育部の研究			05
○ 研究の概要	内野小学校	藤本 拓矢	
○ 5年 器械運動（マット運動）	葛塚小学校	本間 伸吾	
○ 1年 マットを使った運動遊び（よじのぼり逆立ち）	竹尾小学校	内山 紗希	
○ 4年 マット運動（壁倒立）	南中野山小学校	千葉 広靖	
○ 5年 マット運動（補助倒立）	江南小学校	米山 陽	
○ 3年 表現（表現）	万代長嶺小学校	鈴木健太郎	
○ 2年 表現リズム遊び（表現遊び）	浜浦小学校	大澤 一樹	
○ 3年 表現運動（表現）	有明台小学校	山田 雄一	
○ 5年 表現運動（表現）	笹口小学校	澤野 太郎	
○ 6年 陸上運動（走り高跳び）	結小学校	塩田健太郎	
○ 2年 走・跳の運動遊び（高く跳ぶ運動）	新津第三小学校	田辺 久人	
○ 4年 走・跳の運動（高跳び）	大通小学校	坂上 克也	
○ 6年 陸上運動（走り高跳び）	亀田東小学校	小川 海輝	
○ 6年 ボール運動（フラッグフットボール）	小針小学校	三本 雄樹	
○ 2年 ゲーム（ボール投げゲーム）	越前小学校	武田 東佳	
○ 4年 ゲーム（ハンドボール）	青山小学校	小瀬 保夫	
○ 6年 ボール運動（ハンドボール）	真砂小学校	中川あい香	

2 中学校教育研究協議会保健体育部の研究			06
○ 研究の概要	新津第五中学校	中山 智司	
○ 2年「E球技 ネット型 バドミントン」	山の下中学校	梅津 雅史	
○ 2年「C陸上競技 長距離走」	曾野木中学校	平松 広幸・田中 実子	
○ 3年「A体づくり運動 体力を高める運動」	白根第一中学校	羽田野 浩	
○ 3年「E球技 ゴール型 サッカー」	西川中学校	新井 慧真	

Ⅲ 体育連盟の活動 07

1 小学校体育連盟の活動	沼垂小学校	菅原 知昭
2 中学校体育連盟の活動	小針中学校	藤田 淳

Ⅳ オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業 08

- 1 実施計画
- 2 推進校実施報告書
 - 南浜小学校
 - 岡方第二小学校
 - 鏡淵小学校
 - 山潟小学校
 - 笹口小学校
 - 新津第一小学校
 - 荻川小学校
 - 大鷲小学校
 - 月潟小学校
 - 西川中学校

オリンピック・パラリンピック教育

新潟市教育委員会
学校支援課長 齋藤 純一

日頃より、各学校において体育・保健体育の指導について熱心に取り組みいただき、感謝申し上げます。

さて、令和元年12月にスポーツ庁から発表された「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果によると、新体力テストの体力合計点の順位が、新潟市の小学校5年生の男女、中学校2年生男女すべてにおいて20政令指定都市の中で第1位となりました。また、「運動が好き」「体育の授業中にたくさん体を動かしている」等の項目で、肯定的な回答の児童生徒の割合が全国平均値を大きく上回りました。運動面でも意欲面でも新潟市の児童生徒が十分に力を付けていることについて、各学校及び小体連、中体連、市小研、中教研の日々の取組の成果であると認識しております。

ところで、この夏に迫った東京オリンピック・パラリンピックについて、各種イベントが計画・実施され、本番に向けての気運が一層高まっています。

学校現場においては、中学校学習指導要領に「オリンピックやパラリンピック及び国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」や、小学校学習指導要領の指導計画の作成と内容の取扱いにオリンピック・パラリンピックに関する内容があり、指導が求められています。

このことを受け、新潟市では、平成30年度よりオリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業に取り組んでいます。推進する10校は、外部講師からの講演や実技指導などを通して、オリンピックやパラリンピックそのものについての学びを進めてきました。さらには、オリンピック・パラリンピックを通じた学び（スポーツの価値、参加国・地域の文化等、共生社会、持続可能な社会等）も取り入れ、その結果、学習の効果が大きいことが明らかになりました。

オリンピック・パラリンピック教育は、児童生徒の健全な育成に重要な役割があることから、東京2020大会が終了しても、新潟市内の各学校でレガシー（遺産）として引き続き実践が広がることを願っています。

終わりに、「学校体育のあしあと」の発刊に当たり、寄稿いただいた皆様にお礼を申し上げますとともに、本冊子が政令市新潟の学校体育の充実・発展のために活用されることを願い、発刊の言葉といたします。

I 新潟市児童生徒の体力向上を図る取組

【令和元年度児童生徒の体力調査結果】—小学校5年，中学校2年の結果より—

今年度も小・中学校ともに高い水準を維持！

小学校は，ソフトボール投げ以外は全国平均以上

中学校は，全種目で全国平均以上



小学校5年生

- ◇ 男女とも，8種目中7種目が全国平均より高い。
- ◇ 男女とも上体起こし，反復横跳び，20mシャトルランで全国上位である。
- ◆ 体力合計点は55.08で，昨年度より低くなっている（H30は55.98）。
- ◆ 経年変化をみると，男子のソフトボール投げは平均20.69mで下降傾向にある（H30は21.61m）。



【今後の取組】

- ・「ジャンプアップ」に示した各校の方策を選択と集中の観点で継続する。
- ・さらに，投能力の向上を目指し低・中学年の運動の仕方を工夫することと併せて日常化を進める。
- ・計画訪問，要請訪問を通して，「新潟市の授業づくり」が体育の授業においても着実に進んでいることが分かる。今後も，全ての児童に分かりやすく，充実感が得られる授業づくりを地道に進める。

中学校2年生

- ◇ 男女の全種目で全国平均よりも高い。合計点は全国平均を大きく越えている。
- ◇ 男女とも全国平均との差が大きく，さらには男女の長座体前屈，男子の立ち幅とび，女子の上体起こしは数値が上昇している。
- ◇ 運動やスポーツが好きな生徒が増えている。
「好き，やや好き」男子90.8%（H30 90.5），女子80.3%（H30 79.8）
- ◆ 日々の授業で，学習課題とまとめ，振り返りのある授業が減っている。
「授業の始めに目標（目当て，ねらい）が示されている」55.4%（昨年比-2.7）
「授業の最後に学んだことを振り返る活動がある」50.7%（昨年度比-5.9）



【今後の取組】

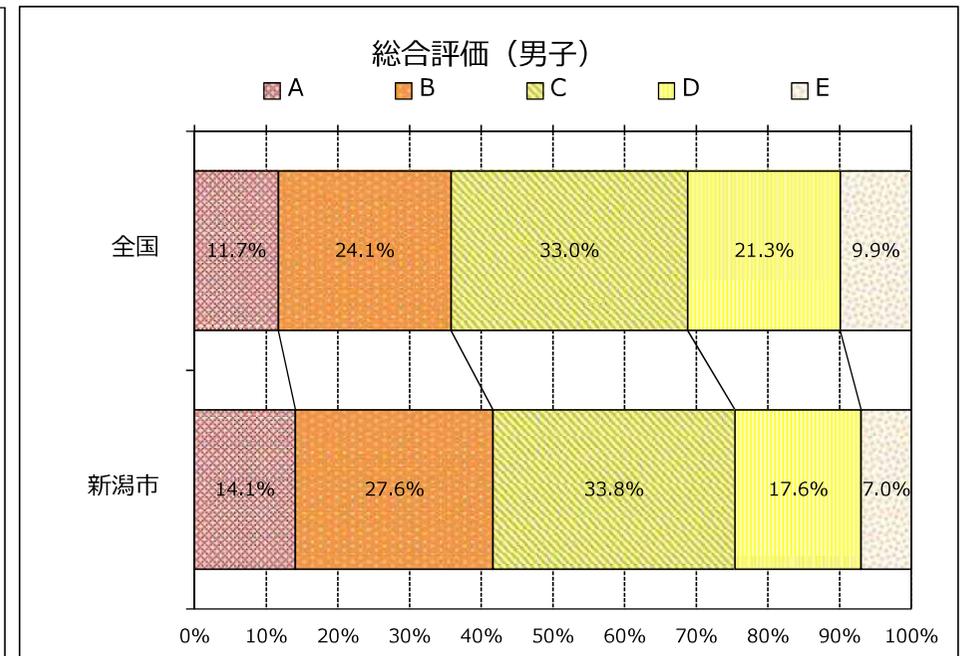
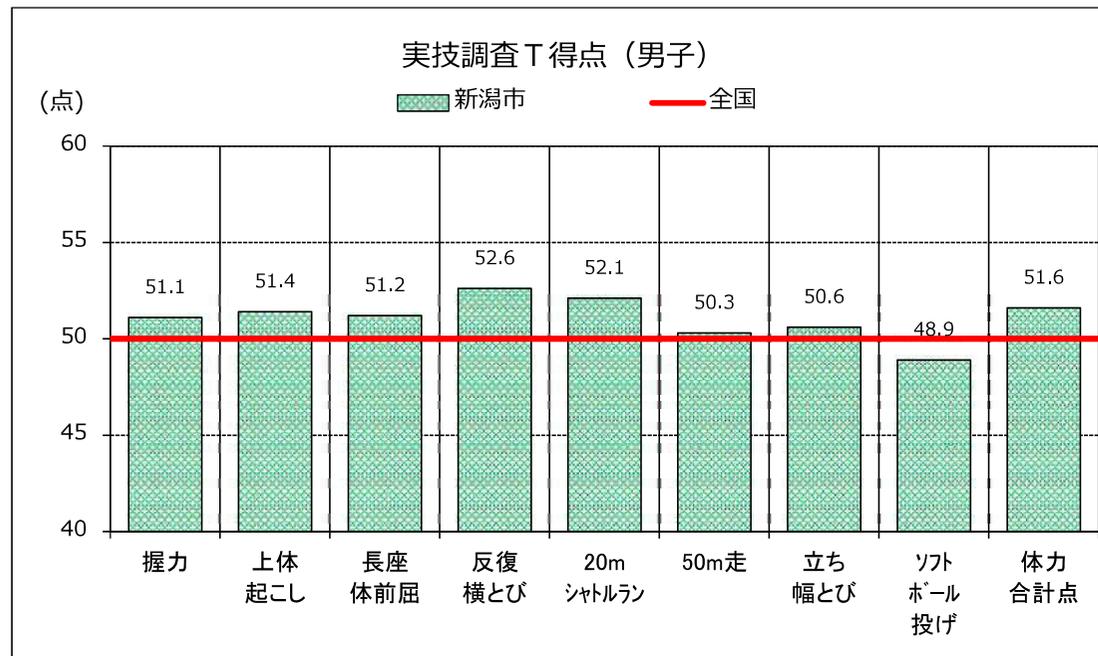
- ・運動やスポーツが好きな生徒を更に増やすために，「新潟市の授業づくり」の推進を継続する。特に，目指す姿をイメージできる学習課題の提示や，振り返りの工夫を進める。

■ 実技集計

小学校 5年男子	握力(kg)				上体起こし(回)				長座体前屈(cm)				反復横とび(点)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	522,539	16.37	3.77	50.0	520,994	19.80	6.00	50.0	521,166	33.24	8.28	50.0	519,520	41.74	7.99	50.0
新潟市	3,248	16.80	3.82	51.1	3,247	20.66	5.99	51.4	3,247	34.25	8.01	51.2	3,237	43.81	7.78	52.6

小学校 5年男子	20mシャトルラン(回)				50m走(秒)				立ち幅とび(cm)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	516,726	50.32	21.09	50.0	518,462	9.42	1.03	50.0	519,558	151.45	22.06	50.0
新潟市	3,231	54.80	21.13	52.1	3,238	9.39	0.97	50.3	3,245	152.83	21.51	50.6

小学校 5年男子	ソフトボール投げ(m)				体力合計点(点)				総合評価(%)					
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	A	B	C	D	E
全国	519,180	21.61	8.19	50.0	495,427	53.61	9.22	50.0	495,427	11.7%	24.1%	33.0%	21.3%	9.9%
新潟市	3,248	20.69	7.39	48.9	3,144	55.08	8.77	51.6	3,144	14.1%	27.6%	33.8%	17.6%	7.0%

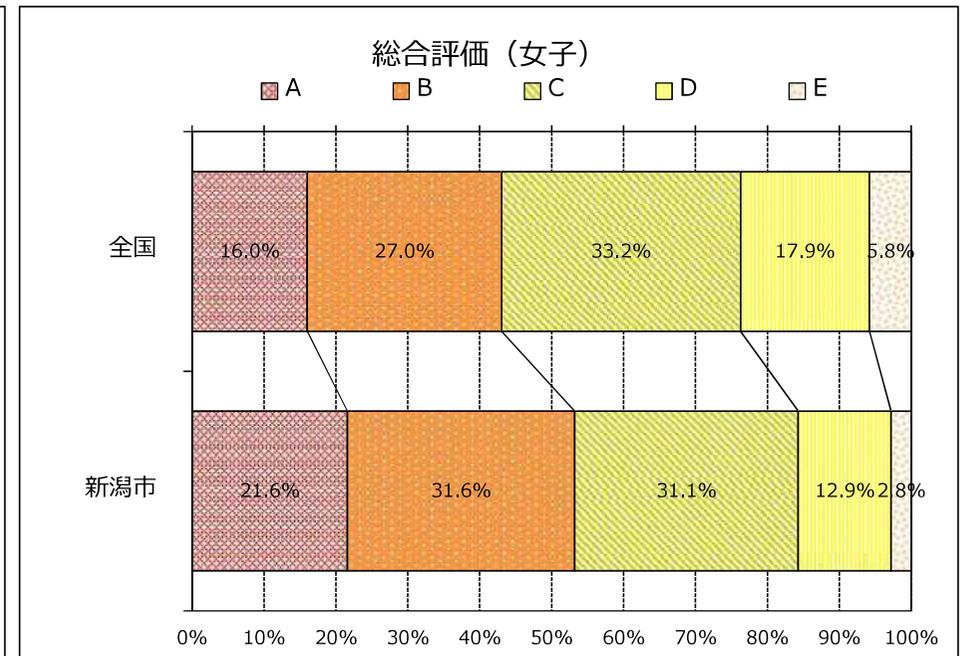
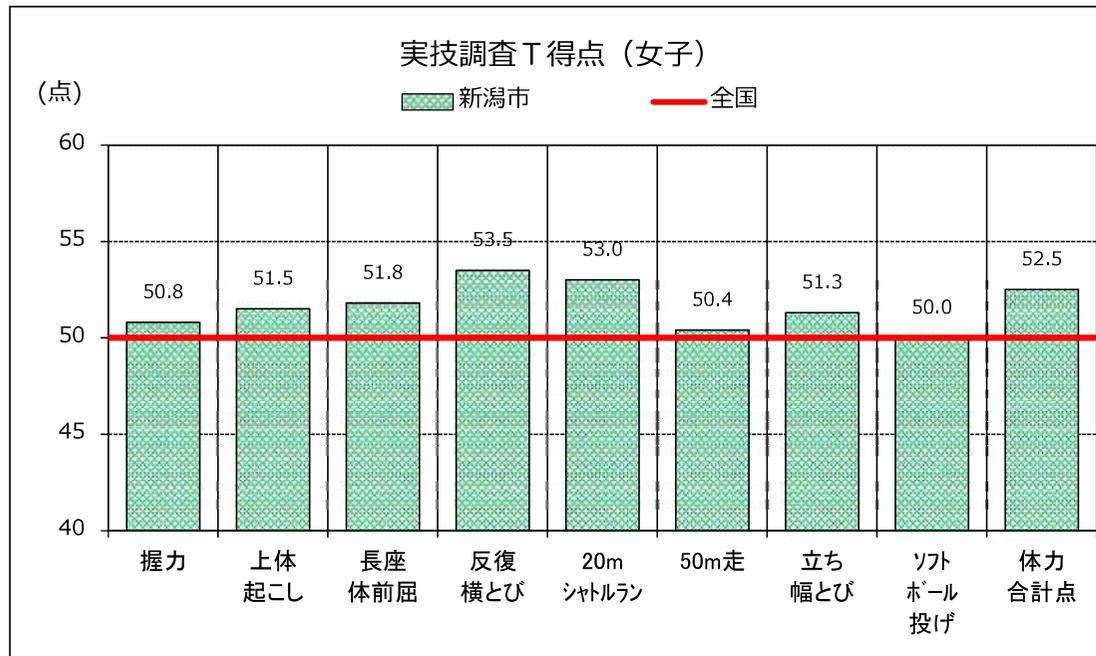


■ 実技集計

小学校 5年女子	握力(kg)				上体起こし(回)				長座体前屈(cm)				反復横とび(点)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	503,966	16.09	3.80	50.0	502,351	18.95	5.41	50.0	502,618	37.62	8.49	50.0	500,961	40.14	7.17	50.0
新潟市	3,119	16.40	3.70	50.8	3,105	19.79	5.25	51.5	3,112	39.16	8.35	51.8	3,099	42.66	6.52	53.5

小学校 5年女子	20mシャトルラン(回)				50m走(秒)				立ち幅とび(cm)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	498,049	40.79	16.48	50.0	499,329	9.64	0.86	50.0	500,778	145.68	20.70	50.0
新潟市	3,080	45.70	16.44	53.0	3,101	9.60	0.83	50.4	3,092	148.33	19.83	51.3

小学校 5年女子	ソフトボール投げ(m)				体力合計点(点)				総合評価(%)					
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	A	B	C	D	E
全国	500,310	13.61	4.78	50.0	479,536	55.59	8.72	50.0	479,536	16.0%	27.0%	33.2%	17.9%	5.8%
新潟市	3,101	13.58	4.31	50.0	3,027	57.75	8.14	52.5	3,027	21.6%	31.6%	31.1%	12.9%	2.8%

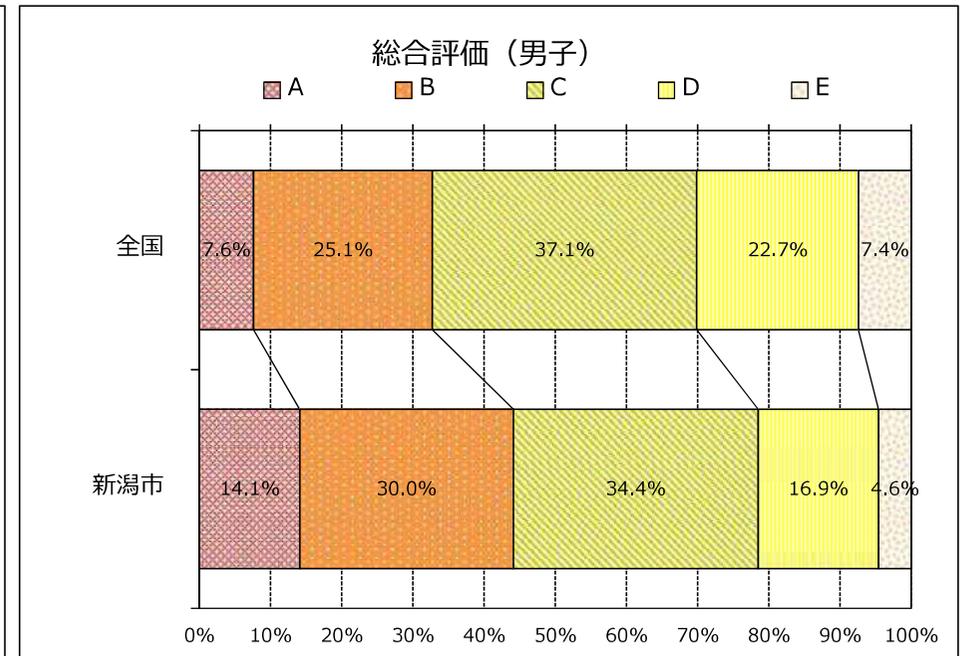
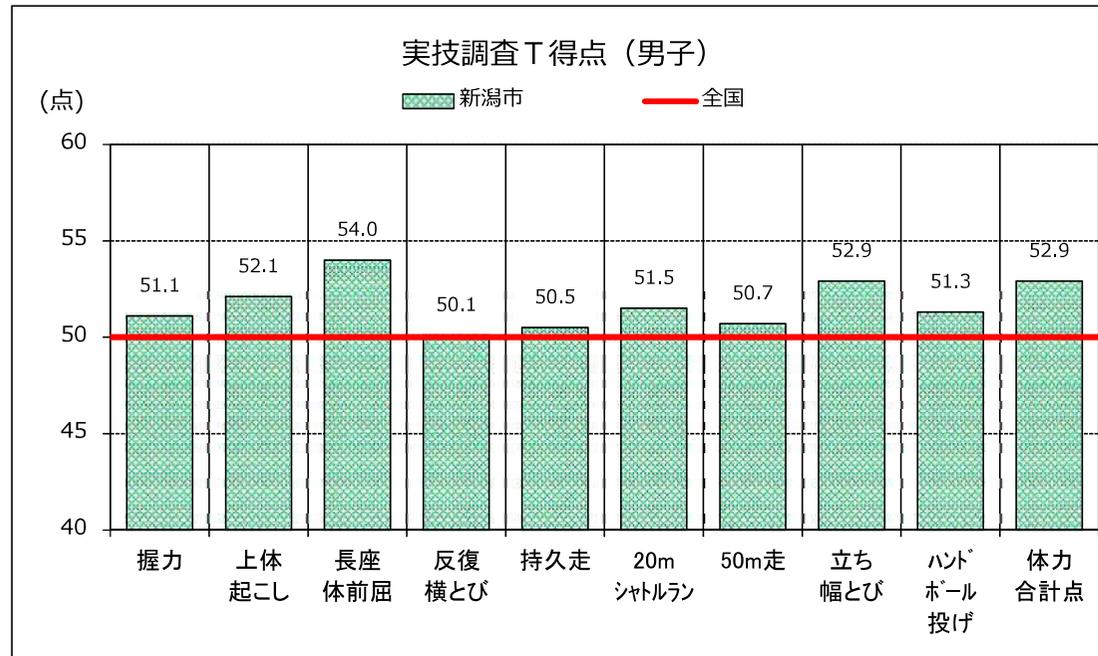


■ 実技集計

中学校 2年男子	握力(kg)				上体起こし(回)				長座体前屈(cm)				反復横とび(点)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	454,582	28.65	7.14	50.0	451,835	26.96	6.17	50.0	452,170	43.50	10.70	50.0	449,124	51.91	8.17	50.0
新潟市	3,074	29.42	7.17	51.1	3,064	28.24	6.63	52.1	3,073	47.83	11.17	54.0	3,068	51.97	8.55	50.1

中学校 2年男子	持久走(秒)				20mシャトルラン(回)				50m走(秒)				立ち幅とび(cm)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	212,932	398.98	66.82	50.0	298,851	83.53	24.57	50.0	445,956	8.02	0.88	50.0	448,573	195.03	28.30	50.0
新潟市	135	395.36	55.33	50.5	3,039	87.34	24.11	51.5	3,050	7.96	0.84	50.7	3,048	203.33	28.33	52.9

中学校 2年男子	ハンドボール投げ(m)				体力合計点(点)				総合評価(%)					
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	A	B	C	D	E
全国	447,599	20.40	5.75	50.0	417,526	41.69	10.27	50.0	417,526	7.6%	25.1%	37.1%	22.7%	7.4%
新潟市	3,052	21.18	5.86	51.3	2,924	44.67	10.62	52.9	2,924	14.1%	30.0%	34.4%	16.9%	4.6%

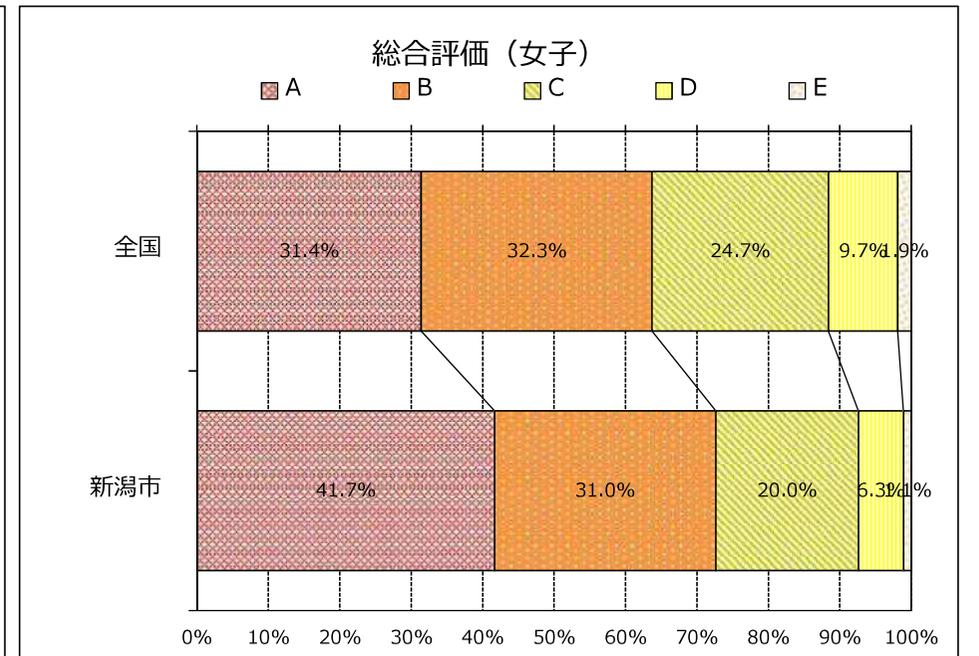
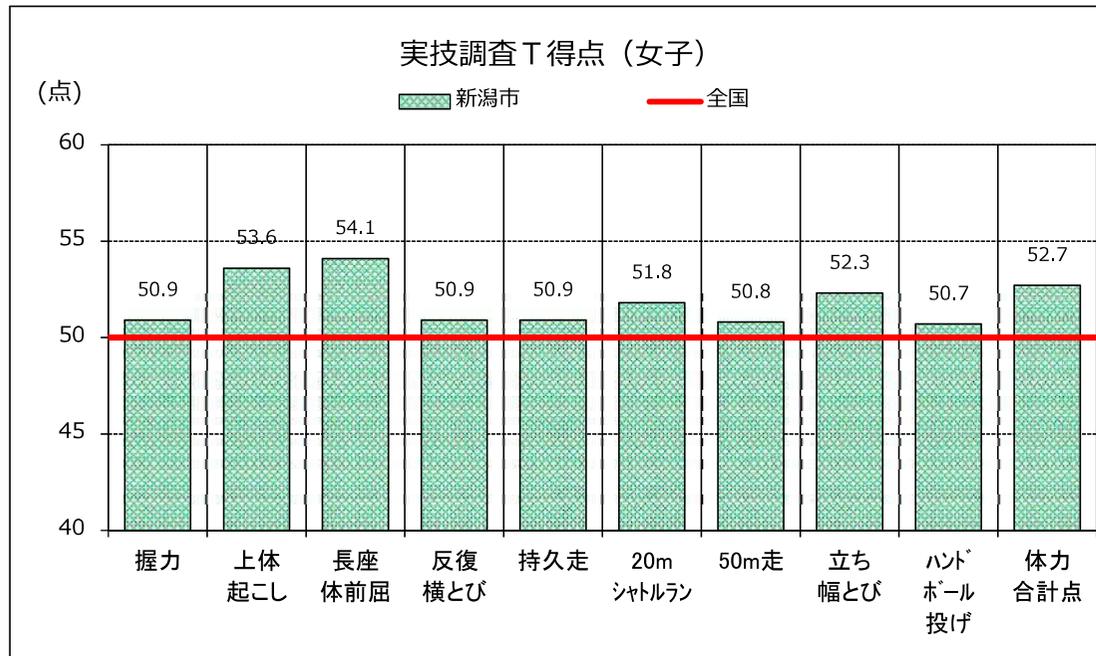


■ 実技集計

中学校 2年女子	握力(kg)				上体起こし(回)				長座体前屈(cm)				反復横とび(点)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	435,539	23.79	4.61	50.0	433,249	23.69	5.85	50.0	434,004	46.32	9.99	50.0	430,667	47.28	6.76	50.0
新潟市	2,878	24.19	4.60	50.9	2,869	25.81	6.38	53.6	2,873	50.39	9.96	54.1	2,864	47.92	6.52	50.9

中学校 2年女子	持久走(秒)				20mシャトルラン(回)				50m走(秒)				立ち幅とび(cm)			
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点
全国	201,472	289.82	43.25	50.0	285,628	58.31	19.95	50.0	426,344	8.81	0.80	50.0	430,258	169.90	24.34	50.0
新潟市	95	286.03	51.45	50.9	2,838	61.92	19.53	51.8	2,842	8.74	0.75	50.8	2,857	175.47	23.09	52.3

中学校 2年女子	ハンドボール投げ(m)				体力合計点(点)				総合評価(%)					
	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	平均値	標準偏差	T得点	標本数	A	B	C	D	E
全国	430,442	12.96	4.18	50.0	401,891	50.22	11.04	50.0	401,891	31.4%	32.3%	24.7%	9.7%	1.9%
新潟市	2,864	13.24	4.16	50.7	2,748	53.23	10.91	52.7	2,748	41.7%	31.0%	20.0%	6.3%	1.1%



令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

※ 数値は肯定的回答の概算

		Q1.運動が好き	Q11.体育の授業は楽しい	Q12.体育の授業で動く	Q13.体育授業の目標が示されている	Q20.体育授業で学んだことを授業以外の時にも行ってみようと思う	Q21.体育授業で学んだ内容は将来役に立つ	Q22.体力向上の目標を立てている
小学校 5年男子	全国	93.3%	94.7%	96.5%	83.9%	76.1%	81.9%	74.5%
	新潟市	94.1%	95.1%	97.2%	84.6%	78.4%	81.6%	78.4%
小学校 5年女子	全国	87.6%	91.3%	94.9%	83.9%	78.9%	77.0%	74.2%
	新潟市	89.5%	90.9%	95.5%	86.4%	80.9%	77.7%	78.3%
小学校	全国	90.5%	93.0%	95.7%	83.9%	77.5%	79.5%	74.4%
	新潟市	91.8%	93.0%	96.4%	85.5%	79.7%	79.7%	76.3%
H30		90.9%	92.7%	95.9%	84.0%	81.2%	78.8%	75.5%
		Q1.運動が好き	Q11.保健体育の授業は楽しい	Q12.保健体育の授業で十分に体を動かしている	Q13.保健体育授業の目標が示されている	Q20.保健体育授業で学んだことを授業以外の時にも行ってみようと思う	Q21.保健体育授業で学んだ内容は将来役に立つ	Q22.体力向上の目標を立てている
中学校 2年男子	全国	89.4%	89.4%	91.5%	89.7%	66.2%	80.5%	67.8%
	新潟市	90.8%	88.7%	92.4%	87.7%	68.5%	79.2%	72.6%
中学校 2年女子	全国	79.2%	83.6%	91.5%	89.1%	63.7%	74.1%	66.3%
	新潟市	80.3%	81.6%	93.6%	86.9%	65.0%	72.5%	70.0%
中学校	全国	84.3%	86.5%	91.5%	89.4%	65.0%	77.3%	67.1%
	新潟市	85.6%	85.2%	93.0%	87.3%	66.8%	75.9%	69.5%
H30		85.2%	85.7%	93.3%	89.6%	64.3%	71.8%	73.2%

※ 男女の合計については、母数から計算し直したのではなく概数値である。

		Q1.運動が好き					Q2.運動やスポーツを行って楽しいと感じたとき (複数回答可)														Q3.運動は大切					Q4.中学校で授業以外でも自主的に 運動したい				
		標本数	1.好き	2.やや好き	3.ややきらい	4.きらい	標本数	1.勝った	2.記録が伸びた	3.上手にできた	4.できなかったことができた	5.教えてもらいできた	6.教えてもらい良かった	7.大人に褒められた	8.友達に褒められた	9.応援されて活動	10.上手な人と一緒に活動	11.友達が上手にできた	12.仲間と一緒に活動	13.体を動かさずつきりした	14.感じたことはない	標本数	1.大切	2.やや大切	3.あまり大切ではない	4.大切ではない	標本数	1.思う	2.思わない	3.分らない
小学校5年男子	全国	516,317	71.2%	22.1%	4.6%	2.0%	521,482	79.9%	73.5%	75.3%	66.5%	48.0%	31.7%	52.9%	43.2%	35.6%	31.8%	33.0%	46.7%	43.0%	1.3%	519,357	71.4%	22.8%	4.5%	1.3%	510,179	77.3%	5.6%	17.1%
	新潟市	3,246	72.6%	21.5%	4.5%	1.4%	3,265	79.8%	74.1%	77.3%	67.2%	49.8%	33.0%	53.2%	45.7%	39.6%	31.9%	34.1%	49.5%	42.8%	1.2%	3,244	72.8%	22.2%	4.1%	0.9%	3,203	79.1%	5.5%	15.4%
小学校5年女子	全国	499,842	55.5%	32.1%	9.0%	3.3%	502,969	68.2%	77.9%	78.9%	75.5%	54.6%	31.4%	54.8%	50.6%	39.8%	25.5%	38.3%	49.3%	40.4%	1.0%	501,486	62.7%	30.0%	6.1%	1.2%	494,986	71.5%	6.3%	22.3%
	新潟市	3,107	56.4%	33.1%	8.4%	2.2%	3,122	67.6%	76.7%	79.8%	75.1%	55.6%	32.5%	55.5%	52.8%	43.0%	26.3%	38.9%	51.1%	38.9%	0.8%	3,114	65.7%	28.5%	4.9%	0.8%	3,086	74.1%	5.2%	20.7%

		Q5.体育の授業以外の運動やスポーツの時間																												
		標本数							曜日ごとの運動時間																					
		月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
小学校5年男子	全国	518,261	518,169	517,838	518,011	517,927	517,252	516,801	514,020	55.2	59.5	64.5	59.9	59.7	135.4	129.4	558.1													
	新潟市	3,244	3,245	3,243	3,244	3,245	3,239	3,237	3,227	52.1	56.8	61.3	57.0	56.0	107.6	100.5	487.3													
小学校5年女子	全国	500,314	500,304	500,139	500,220	500,162	500,045	499,948	498,808	38.9	40.5	46.0	41.5	42.9	76.2	65.7	349.6													
	新潟市	3,105	3,107	3,106	3,105	3,105	3,108	3,106	3,102	36.1	38.8	42.8	38.5	41.8	63.0	53.2	312.5													

		Q6.朝食を食べる					Q7.1日の睡眠時間						Q8.平日の視聴時間							Q9.運動部やスポーツクラブの所属 (複数回答可)				Q10.運動部やスポーツクラブ以外で 運動をすること						
		標本数	1.毎日食べる	2.食べない日もある	3.食べない日が多い	4.食べない	標本数	1.10時間以上	2.9時間以上10時間未満	3.8時間以上9時間未満	4.7時間以上8時間未満	5.6時間以上7時間未満	6.6時間未満	標本数	1.5時間以上	2.4時間以上5時間未満	3.3時間以上4時間未満	4.2時間以上3時間未満	5.1時間以上2時間未満	6.1時間未満	7.まったく見ない	標本数	1.運動部	2.地域のスポーツクラブ	3.入っていない	標本数	1.よくある	2.ときどきある	3.あまりない	4.まったくくない
小学校5年男子	全国	521,304	82.2%	14.5%	2.6%	0.7%	519,070	9.8%	26.6%	31.7%	19.6%	8.8%	3.5%	519,574	15.5%	9.4%	14.2%	20.2%	24.2%	14.2%	2.2%	521,209	29.6%	48.2%	33.3%	521,618	43.3%	35.1%	14.2%	7.4%
	新潟市	3,265	87.3%	10.6%	1.8%	0.3%	3,252	7.2%	27.3%	37.3%	18.1%	8.0%	2.1%	3,250	13.9%	9.5%	15.9%	25.0%	24.3%	10.1%	1.3%	3,254	20.0%	45.0%	40.4%	3,262	39.9%	37.6%	14.6%	7.9%
小学校5年女子	全国	502,685	82.3%	15.0%	2.3%	0.4%	500,580	9.4%	29.6%	33.9%	18.2%	7.1%	1.9%	501,117	9.3%	7.6%	12.0%	18.1%	26.4%	23.2%	3.5%	501,957	19.7%	31.5%	53.8%	502,845	32.7%	42.2%	17.9%	7.2%
	新潟市	3,123	87.7%	11.0%	1.1%	0.2%	3,110	7.8%	28.9%	40.3%	16.2%	5.7%	1.1%	3,112	8.7%	8.5%	13.8%	21.4%	28.2%	17.3%	2.0%	3,106	13.6%	28.1%	61.1%	3,120	30.5%	42.1%	20.3%	7.1%

		Q11.体育の授業は楽しい					Q12.体育の授業で動く					Q13.体育授業の目標が示されている					Q14.体育授業で振り返る活動					Q15.体育授業で助け合う活動				
		標本数	1. 楽しい	2. やや楽しい	3. あまり楽しくない	4. 楽しくない	標本数	1. たくさん動く	2. だいたい動く	3. あまり動かない	4. まったく動かない	標本数	1. 示されている	2. とくとき示されている	3. あまり示されていない	4. 示されていない	標本数	1. 行っている	2. とくとき行っている	3. あまり行っていない	4. 行っていない	標本数	1. 行っている	2. とくとき行っている	3. あまり行っていない	4. 行っていない
小学校 5年男子	全国	521,529	73.8%	20.9%	3.8%	1.5%	520,568	69.0%	27.5%	3.1%	0.4%	519,041	49.4%	34.5%	11.1%	5.0%	518,828	31.5%	35.0%	20.9%	12.6%	519,177	49.7%	36.9%	10.4%	3.0%
	新潟市	3,259	73.2%	21.9%	3.7%	1.3%	3,252	70.4%	26.8%	2.6%	0.3%	3,252	49.1%	35.5%	10.9%	4.4%	3,246	23.1%	39.6%	23.8%	13.5%	3,248	51.1%	38.2%	9.0%	1.8%
小学校 5年女子	全国	502,954	60.2%	31.1%	6.8%	2.0%	502,028	58.0%	36.9%	4.8%	0.3%	500,426	47.4%	36.5%	12.1%	4.0%	500,443	30.2%	37.7%	22.0%	10.0%	500,993	53.8%	36.3%	8.3%	1.6%
	新潟市	3,121	57.9%	33.0%	7.2%	1.9%	3,121	60.4%	35.1%	4.2%	0.3%	3,115	49.7%	36.7%	10.0%	3.7%	3,112	23.1%	41.5%	25.9%	9.5%	3,114	55.9%	36.1%	7.0%	0.9%

		Q16.体育授業で話し合う活動					Q17.できないことができるようになったきっかけ (複数回答可)										Q18.体育授業で動きを撮影して活用する活動					Q19.体育授業で自分で練習や場を選んで活動					Q20.体育授業で学んだことを授業以外の 時にも行ってみたいと思う					
		標本数	1. 行っている	2. とくとき行っている	3. あまり行っていない	4. 行っていない	標本数	1. ボールやフットボールを教える	2. 授業中に先生に個別	3. 授業中に自分で工夫	4. 先生や友達の手本を	5. 友達に教えてもらった	6. 授業中に自分の動き	7. 授業外に先生に教え	8. 授業外に自分で練習	9. 授業外に本や動画を	10. できるようなこと	標本数	1. 行っている	2. とくとき行っている	3. あまり行っていない	4. 行っていない	標本数	1. 行っている	2. とくとき行っている	3. あまり行っていない	4. 行っていない	標本数	1. 思う	2. やや思う	3. あまり思わない	4. 思わない
小学校 5年男子	全国	517,046	52.2%	34.5%	10.2%	3.1%	516,863	49.1%	42.3%	14.9%	51.0%	54.0%	8.0%	11.0%	30.8%	18.4%	3.9%	517,961	7.2%	13.2%	19.3%	60.4%	516,551	36.1%	32.2%	19.1%	12.6%	517,179	42.2%	33.9%	16.2%	7.7%
	新潟市	3,239	48.7%	38.3%	11.0%	2.0%	3,235	50.4%	43.0%	12.8%	52.5%	53.7%	5.9%	10.2%	30.4%	18.0%	3.0%	3,241	4.5%	10.2%	14.7%	70.7%	3,226	38.6%	31.7%	17.8%	11.8%	3,234	43.1%	35.3%	15.5%	6.1%
小学校 5年女子	全国	499,015	48.8%	38.4%	10.5%	2.2%	500,875	46.1%	39.1%	11.8%	60.1%	68.3%	6.5%	9.3%	38.4%	16.1%	2.0%	499,882	5.4%	13.2%	21.4%	60.0%	498,890	35.4%	33.9%	20.7%	10.1%	499,353	42.1%	36.8%	15.7%	5.4%
	新潟市	3,103	44.2%	44.3%	9.9%	1.5%	3,118	47.2%	36.1%	10.7%	62.0%	69.1%	4.5%	8.6%	35.2%	14.8%	1.7%	3,108	3.0%	8.3%	17.1%	71.6%	3,105	38.5%	33.2%	19.5%	8.9%	3,109	43.1%	37.8%	14.8%	4.3%

		Q21.体育授業で学んだ内容は将来役に立つ					Q22.体力・運動能力向上の 目標			Q23.オリンピック・パラリンピックへの気持ち (複数回答可)								次のことは、あなたにどれくらい当てはまるか															
		標本数	1. 思う	2. やや思う	3. あまり思わない	4. 思わない	標本数	1. 目標を立てている	2. 目標は立てていない	標本数	1. 競技種目を自分も	2. 内容・歴史を知りたい	3. 選手として出場してみたい	4. 試合を見に行ってみたい	5. 大会ボランティアをしてみたい	6. 分からない	7. その他	標本数	1. 当てはまる	2. どちらかといえば当てはまる	3. どちらかといえば当てはまる	4. 当てはまらない	標本数	1. 当てはまる	2. どちらかといえば当てはまる	3. どちらかといえば当てはまる	4. 当てはまらない	標本数	1. 当てはまる	2. どちらかといえば当てはまる	3. どちらかといえば当てはまる	4. 当てはまらない	
小学校 5年男子	全国	512,994	51.3%	30.6%	12.5%	5.6%	507,388	74.5%	25.5%	518,595	39.3%	37.4%	31.8%	35.7%	62.7%	22.5%	14.9%	11.4%	518,564	70.7%	23.1%	4.2%	2.1%	518,253	44.4%	39.2%	12.6%	3.7%	518,080	44.1%	34.3%	13.1%	8.5%
	新潟市	3,207	49.9%	31.7%	13.4%	5.0%	3,164	78.4%	21.6%	3,247	40.6%	37.6%	31.6%	34.8%	64.2%	23.7%	14.6%	12.6%	3,245	74.2%	20.3%	3.8%	1.7%	3,242	47.6%	38.7%	11.0%	2.7%	3,241	49.0%	33.4%	11.0%	6.6%
小学校 5年女子	全国	495,488	42.0%	35.0%	17.1%	6.0%	491,698	74.2%	25.8%	500,979	30.8%	30.4%	31.7%	21.0%	60.5%	28.4%	17.0%	10.0%	501,047	72.5%	22.8%	3.5%	1.2%	500,813	37.1%	43.8%	15.8%	3.3%	500,714	36.9%	40.6%	15.3%	7.2%
	新潟市	3,088	42.5%	35.2%	17.1%	5.2%	3,072	78.3%	21.7%	3,113	32.8%	30.6%	30.7%	20.1%	60.4%	31.5%	16.4%	10.5%	3,116	73.8%	22.0%	3.5%	0.7%	3,115	38.5%	44.6%	14.3%	2.6%	3,114	41.3%	39.1%	13.8%	5.8%

R1全国運動習慣等調査結果【新潟市中学校】

		Q1.運動が好き					Q2.運動やスポーツを行って楽しいと感じたとき (複数回答可)														Q3.運動は大切				Q4.中学校卒業後、自主的に運動したい				Q5.部活動やスポーツクラブの所属 (複数回答可)						
		標本数	1.好き	2.やや好き	3.やや嫌い	4.嫌い	標本数	1.勝った	2.記録が伸びた	3.上手にできた	4.できなかった	5.教えてもらいできた	6.教えてもらい良かった	7.大人に褒められた	8.友達に褒められた	9.応援されて活動	10.上手な人と一緒に活動	11.友達が上手にできた	12.仲間と一緒に活動	13.体を動かさずつきりした	14.感じたことはなかった	標本数	1.大切	2.やや大切	3.あまり大切ではない	4.大切ではない	標本数	1.思う	2.思わない	3.分らない	標本数	1.運動部	2.文化部	3.地域のスポーツクラブ	4.所属していない
中学校 2年男子	全国	451,279	62.9%	26.5%	7.1%	3.5%	456,856	79.9%	60.9%	73.3%	56.1%	38.8%	22.2%	39.7%	29.8%	26.5%	23.1%	22.0%	41.7%	32.1%	2.1%	457,038	69.0%	24.4%	5.0%	1.6%	453,818	70.8%	8.4%	20.8%	456,451	76.0%	9.1%	18.4%	7.3%
	新潟市	3,035	64.7%	26.1%	6.2%	3.0%	3,069	76.5%	54.5%	71.7%	51.6%	33.8%	19.6%	37.4%	28.1%	23.9%	21.2%	18.9%	41.6%	30.4%	2.2%	3,075	69.1%	24.2%	4.9%	1.8%	3,055	70.4%	9.0%	20.6%	3,075	76.8%	8.9%	16.1%	6.4%
中学校 2年女子	全国	434,297	46.9%	32.3%	14.3%	6.6%	437,228	74.7%	66.5%	75.5%	68.7%	49.6%	23.8%	49.0%	38.5%	35.2%	19.2%	28.7%	49.6%	33.3%	1.9%	436,917	57.4%	32.5%	8.2%	1.9%	434,169	59.7%	10.8%	29.5%	436,658	57.9%	31.5%	10.8%	8.3%
	新潟市	2,868	46.4%	33.9%	14.5%	5.2%	2,883	72.0%	60.5%	74.2%	65.7%	46.2%	21.1%	45.2%	37.1%	28.9%	16.3%	25.4%	52.3%	29.0%	1.0%	2,878	57.0%	34.2%	7.4%	1.4%	2,858	58.3%	10.5%	31.2%	2,877	58.4%	31.6%	10.3%	7.1%

		Q5-2.曜日ごとの運動実施 ※部活動														Q6.曜日ごとの運動実施																	
		標本数							曜日ごとの運動時間							標本数							曜日ごとの運動時間										
		月	火	水	木	金	土	日	3月(月)間総運動時間	月	火	水	木	金	土	日	3月(月)間総運動時間	月	火	水	木	金	土	日	3月(月)間総運動時間	月	火	水	木	金	土	日	3月(月)間総運動時間
中学校 2年男子	全国	344,244	344,239	344,229	344,231	344,204	344,093	344,094	343,895	87.6	112.8	89.1	107.8	117.3	191.7	106.7	812.8	450,596	450,591	450,583	450,581	450,576	450,274	450,249	450,124	86.8	107.1	92.2	103.5	110.1	197.9	137.4	834.7
	新潟市	2,352	2,352	2,351	2,352	2,351	2,352	2,352	2,350	94.8	107.2	82.0	104.4	114.3	169.0	88.3	759.1	3,024	3,024	3,023	3,024	3,024	3,024	3,024	3,023	94.1	103.4	86.6	101.8	109.6	172.4	109.8	777.5
中学校 2年女子	全国	251,567	251,562	251,565	251,560	251,561	251,442	251,447	251,355	89.7	113.9	89.4	108.7	118.8	201.8	98.9	821.1	429,139	429,138	429,136	429,137	429,139	429,014	429,021	428,920	67.3	81.0	69.0	78.6	84.8	144.8	84.6	609.9
	新潟市	1,675	1,675	1,675	1,675	1,675	1,675	1,675	1,675	92.5	108.2	86.5	111.1	118.3	192.4	101.0	810.1	2,829	2,829	2,829	2,829	2,829	2,829	2,829	2,829	69.5	79.4	65.8	80.2	85.6	136.2	80.6	597.3

		Q7.朝食を食べる					Q8.1日の睡眠時間						Q9.平日の視聴時間							Q10.運動部やスポーツクラブ以外で運動をすること						
		標本数	食1食べる毎日	あな2あるいい日食もべ	多な3いい日食がべ	な4い、食べ	標本数	時1間以上0	未1間満0以上9時	時間2間以上8時	時間3間以上7時	時間4間以上6時	時間5間以上5時	間6未満6時	標本数	間1以上5時	時間2間以上4時	時間3間以上3時	時間4間以上2時	時間5間以上1時	間6未満1時	見7ない全く	標本数	あ1る、よく	ど2き、あとる	り3ない、いま
中学校 2年男子	全国	457,010	81.6%	13.4%	3.4%	1.6%	456,846	2.1%	6.1%	21.0%	37.3%	25.7%	7.9%	456,979	12.2%	8.6%	16.9%	27.0%	26.3%	8.1%	1.0%	418,108	33.1%	34.5%	20.0%	12.3%
	新潟市	3,076	87.4%	9.3%	1.6%	1.6%	3,076	2.2%	6.1%	23.3%	39.2%	23.2%	6.0%	3,070	8.6%	8.0%	14.9%	29.3%	29.5%	8.7%	1.1%	2,817	30.4%	32.7%	22.9%	14.0%
中学校 2年女子	全国	437,117	78.2%	17.3%	3.3%	1.2%	437,017	1.1%	4.5%	17.5%	35.9%	31.3%	9.6%	437,190	10.4%	8.5%	16.5%	25.8%	26.9%	11.1%	0.9%	414,627	18.0%	35.6%	29.2%	17.2%
	新潟市	2,881	86.4%	11.3%	1.8%	0.6%	2,880	0.7%	4.5%	19.2%	43.4%	25.9%	6.2%	2,877	6.3%	6.5%	15.7%	28.4%	31.6%	10.3%	1.1%	2,745	16.3%	33.3%	31.7%	18.7%

R1全国運動習慣等調査結果【新潟市中学校】

		Q11.保健体育の授業は楽しい				Q12.保健体育の授業で十分に体を動かしている				Q13.保健体育授業の目標が示されている				Q14.保健体育授業で振り返る活動				Q15.保健体育授業で助け合う活動				Q16.保健体育授業で話し合う活動									
		標本数	1・楽しい	2・やや楽しい	3・あまり楽しくない	4・楽しくない	標本数	1・思う	2・やや思う	3・あまり思わない	4・思わない	標本数	1・示されている	2・ときどき示されている	3・あまり示されていない	4・示されていない	標本数	1・行っている	2・ときどき行っている	3・あまり行っていない	4・行っていない	標本数	1・行っている	2・ときどき行っている	3・あまり行っていない	4・行っていない	標本数	1・行っている	2・ときどき行っている	3・あまり行っていない	4・行っていない
中学校 2年男子	全国	453,018	52.8%	36.6%	7.6%	3.0%	453,178	58.2%	33.3%	6.7%	1.8%	453,223	62.4%	27.3%	7.4%	2.8%	453,650	43.6%	31.7%	17.0%	7.6%	453,534	54.0%	35.5%	8.2%	2.3%	451,243	49.8%	36.2%	11.0%	3.0%
	新潟市	3,035	50.9%	37.8%	8.5%		3,032	60.7%	31.7%	5.8%	1.8%	3,027	56.3%	31.4%	9.0%	3.4%	3,031	52.1%	29.4%	13.1%	5.3%	3,032	57.5%	33.7%	7.0%	1.7%	3,012	47.5%	36.6%	12.5%	3.5%
中学校 2年女子	全国	433,919	40.7%	42.9%	12.6%	3.8%	434,433	53.7%	37.8%	7.1%	1.4%	434,678	60.6%	28.5%	8.6%	2.4%	434,991	45.5%	32.1%	16.7%	5.6%	434,986	61.0%	31.9%	5.9%	1.1%	433,370	48.4%	38.6%	11.0%	2.0%
	新潟市	2,846	37.0%	44.6%	15.0%	3.4%	2,865	55.2%	38.4%	5.2%	1.2%	2,855	54.5%	32.4%	10.2%	2.9%	2,864	49.3%	33.1%	14.7%	2.9%	2,866	63.3%	30.7%	5.6%	0.5%	2,846	43.1%	41.2%	14.4%	1.3%

		Q17.できないことができるようになったきっかけ (複数回答可)											Q18.保健体育授業で動きを撮影して活用する活動				Q19.保健体育授業で自分で練習や場を選んで活動				Q20.保健体育授業で学んだことを授業以外の時にも行ってみようと思う				Q21.保健体育授業で学んだ内容は将来役に立つ							
		標本数	1. 授業中に先生と話をした	2. 授業中に先生と話をした	3. 自分が考えた	4. 先生や友達の話	5. 友達に教えてもらった	6. 授業中に先生の動きを見た	7. 授業外に先生に教わった	8. 授業外に自分で練習した	9. 授業外に先生や友達の話を見た	10. その他	11. その他	標本数	1. 行っている	2. ときどき行っている	3. あまり行っていない	4. 行っていない	標本数	1. 行っている	2. ときどき行っている	3. あまり行っていない	4. 行っていない	標本数	1. 思う	2. やや思う	3. あまり思わない	4. 思わない	標本数	1. 思う	2. やや思う	3. あまり思わない
中学校 2年男子	全国	449,519	46.6%	42.6%	6.2%	45.5%	52.1%	5.8%	4.9%	12.2%	7.5%	5.3%	452,880	10.1%	16.2%	20.0%	53.7%	451,085	31.4%	36.8%	20.5%	11.3%	452,525	28.6%	37.6%	22.9%	10.8%	452,168	41.3%	39.2%	14.3%	5.2%
	新潟市	3,004	39.9%	42.9%	5.7%	41.2%	50.1%	5.1%	4.2%	9.9%	6.4%	5.9%	3,035	10.6%	18.5%	24.1%	46.8%	3,015	37.7%	35.5%	17.4%	9.4%	3,032	32.5%	36.0%	21.7%	9.8%	3,029	43.0%	36.2%	15.1%	5.7%
中学校 2年女子	全国	433,888	49.2%	36.7%	5.7%	53.1%	69.4%	6.5%	4.2%	15.1%	6.8%	3.3%	434,427	8.7%	18.0%	22.1%	51.2%	432,519	29.7%	38.0%	23.0%	9.3%	434,214	23.1%	40.6%	26.5%	9.8%	433,888	31.2%	42.9%	20.0%	6.0%
	新潟市	2,851	39.7%	37.6%	4.7%	48.3%	67.8%	6.0%	2.9%	10.5%	3.9%	3.2%	2,860	9.9%	19.9%	24.1%	46.2%	2,838	31.5%	38.1%	21.8%	8.7%	2,860	25.8%	39.2%	26.1%	8.9%	2,855	30.4%	42.1%	22.1%	5.5%

		Q22.体力向上の目標		Q23.オリンピック・パラリンピックへの気持ち (複数回答可)								Q24.最後までやり遂げようとしたことがある				Q25.失敗を恐れずに挑戦する				Q26.自分には、よいところがある							
		標本数	1. 目標を立てている	2. 目標を立てていない	1. 内容・歴史を知りたい	2. 競技種目を自分も行ってみたい	3. 選手として出場してみたい	4. 試合を見に行きたい	5. 大会・ボランティアをしたい	6. 分からない	7. その他	8. その他	標本数	1. 当てはまる	2. どちらかといえば	3. どちらかといえば	4. 当てはまらない	標本数	1. 当てはまる	2. どちらかといえば	3. どちらかといえば	4. 当てはまらない					
中学校 2年男子	全国	446,887	67.8%	32.2%	19.2%	14.4%	16.3%	55.2%	11.4%	20.6%	8.8%	453,072	73.4%	21.4%	3.4%	1.8%	452,896	38.3%	41.4%	16.4%	3.9%	452,804	37.2%	38.5%	16.0%	8.2%	
	新潟市	2,978	72.6%	27.4%	30.1%	33.2%	16.2%	12.2%	15.0%	53.0%	11.5%	21.3%	8.1%	3.032	74.1%	20.1%	3.8%	2.0%	3,029	43.9%	37.8%	15.0%	3.4%	3,031	43.5%	36.7%	12.6%
中学校 2年女子	全国	431,583	66.3%	33.7%	19.2%	14.7%	6.9%	57.0%	18.3%	22.8%	8.0%	434,995	76.1%	20.0%	2.9%	1.0%	434,878	28.0%	47.1%	21.3%	3.6%	434,634	24.5%	44.1%	22.2%	9.3%	
	新潟市	2,829	70.0%	30.0%	28.5%	26.4%	13.0%	12.3%	5.3%	54.6%	15.2%	23.1%	7.0%	2,860	75.9%	20.6%	2.8%	0.6%	2,858	33.1%	46.7%	18.1%	2.1%	2,858	31.7%	44.2%	18.4%

令和元年度 新体力テスト 測定値 (男子)

【凡例】

◎	前年比大幅に向上(1%で有意な差)
○	前年比やや向上(5%で有意な差)
△	前年比やや低下(5%で有意な差)
×	前年比大幅に低下(1%で有意な差)

(注)平成30年度の新潟県の測定値と令和元年度の新潟県の測定値の比較

区分	N:標本数 X:平均 SD:標準偏差	握力		上体起こし		長座体前屈		反復横とび		20mシャトルラン 折り返し数		50m走		立ち幅跳び		ソフトボール投げ ハンドボール投げ		
		H30	R1	H30	R1	H30	R1	H30	R1	H30	R1	H30	R1	H30	R1	H30	R1	
小学校	6歳	N	5801	5729	5633	5572	6147	5998	5830	5665	5939	5691	8907	8507	5972	5927	8919	8449
		X	9.37	× 9.24	12.16	× 11.76	27.25	× 26.80	29.29	× 28.61	22.17	22.47	11.41	× 11.58	116.82	115.01	8.21	8.22
		SD	2.68	2.31	5.52	5.50	6.80	7.40	5.71	5.76	12.70	11.14	2.22	1.63	6205.00	18.99	3.20	3.28
	7歳	N	6028	6014	5920	5819	6390	6360	6128	5960	6286	6139	9018	8859	6205	6106	8903	8823
		X	11.19	11.13	15.07	× 14.55	28.73	28.68	33.69	× 33.32	34.38	× 33.03	10.60	× 10.71	127.55	127.25	11.60	× 11.34
		SD	2.66	2.70	5.71	5.55	6.91	6.66	6.63	6.63	15.49	14.98	1.87	2.13	18.53	18.92	4.41	4.30
	8歳	N	8858	9125	8840	9096	8852	9104	8834	9090	8821	9081	8835	9099	8840	9103	8808	9094
		X	13.06	× 12.84	16.85	× 16.51	30.58	30.57	36.81	36.95	41.95	× 40.83	10.21	10.20	136.98	136.58	15.27	× 14.93
		SD	3.08	3.01	6.00	5.87	7.33	7.31	7.76	7.62	18.02	17.74	1.12	1.10	19.67	19.51	5.56	5.47
	9歳	N	9207	8858	9183	8843	9185	8841	9159	8832	9164	8822	9183	8853	9173	8835	9136	8826
		X	15.04	× 14.81	19.06	× 18.70	32.61	× 32.22	41.53	× 40.89	51.19	× 49.03	9.73	× 9.78	146.43	× 145.25	18.95	× 18.31
		SD	3.41	3.51	6.00	6.09	7.53	7.59	7.71	7.98	20.08	20.11	1.06	1.57	20.28	23.75	6.54	6.50
10歳	N	9315	9200	9287	9165	9296	9188	9275	9153	9247	9140	9292	9163	9280	9160	9234	9168	
	X	17.23	× 16.94	20.81	△ 20.65	34.67	× 34.34	45.09	× 44.54	58.12	× 55.73	9.38	× 9.42	155.23	× 154.52	22.57	× 21.81	
	SD	3.95	3.92	5.95	5.87	7.90	8.05	7.59	7.65	21.83	21.24	1.13	1.38	21.41	21.64	7.60	7.47	
11歳	N	9334	9318	9298	9299	9313	9308	9293	9284	9272	9269	9302	9302	9285	9298	9231	9291	
	X	20.23	× 19.99	22.60	× 22.40	37.46	36.53	47.72	47.66	64.42	× 62.80	8.96	× 9.02	166.86	◎ 168.23	26.32	× 25.43	
	SD	4.93	4.87	5.85	5.94	47.26	8.65	7.62	7.60	22.42	22.55	1.02	1.25	25.16	176.52	8.90	8.81	
中学校	12歳	N	8826	9071	8791	9047	8796	9039	8785	9025	8723	8946	8741	8974	8782	9021	8765	9008
		X	24.51	× 24.29	25.00	× 24.43	43.12	× 42.58	49.63	× 48.97	74.38	× 71.79	8.53	× 8.58	185.58	× 184.79	18.19	18.15
		SD	6.48	6.43	6.35	6.26	10.63	10.79	8.01	8.24	23.47	23.41	1.01	1.48	7.31	7.58	5.11	5.12
	13歳	N	9142	8681	9117	8664	9124	8662	9085	8640	9026	8577	9034	8576	9097	8636	9085	8612
		X	29.97	× 29.72	28.25	× 27.98	46.56	46.77	53.20	× 52.36	89.22	× 86.47	7.93	△ 7.95	203.60	× 203.08	21.53	× 21.33
		SD	7.25	7.37	6.18	6.46	10.63	11.05	7.92	8.19	24.40	24.21	0.88	0.86	7.91	8.31	5.60	5.68
14歳	N	9382	9043	9334	9017	9348	9031	9310	8995	9263	8951	9204	8975	9319	9006	9309	8995	
	X	34.69	34.64	30.61	× 30.05	49.89	× 49.58	55.72	× 54.90	94.78	× 93.13	7.56	7.56	215.83	× 215.08	24.07	24.14	
	SD	7.56	7.53	6.40	6.24	11.13	11.06	8.10	8.19	24.97	24.75	0.81	0.83	8.86	8.42	5.97	5.98	
高等学校	15歳	N	6803	6954	6793	6942	6797	6944	6790	6934	6778	6909	6759	6917	6796	6939	6784	6937
		X	37.00	× 36.69	29.11	× 28.66	47.73	47.88	55.86	× 55.43	89.50	× 87.48	7.53	7.54	220.51	× 218.81	23.35	23.31
		SD	7.24	7.08	5.87	5.91	11.10	11.01	6.83	7.42	23.19	23.35	0.69	0.69	24.79	25.96	5.53	5.60
	16歳	N	7347	6615	7332	6606	7345	6612	7335	6601	7321	6581	7275	6585	7335	6604	7331	6599
		X	39.13	× 38.83	30.70	× 30.49	48.70	○ 48.98	57.10	× 56.70	93.68	△ 92.91	7.40	7.40	225.32	225.01	24.78	24.78
		SD	7.53	7.39	6.11	6.07	11.21	11.22	7.29	7.12	25.28	25.06	0.87	0.71	25.50	25.05	5.86	5.76
	17歳	N	7338	7164	7329	7155	7333	7161	7325	7154	7278	7137	7308	7136	7329	7159	7321	7152
		X	40.73	△ 40.52	32.13	× 31.56	50.09	49.95	57.67	× 57.21	94.48	× 91.99	7.32	7.33	227.52	× 226.07	25.73	△ 25.57
		SD	7.62	7.73	6.46	6.22	11.16	11.12	7.55	7.42	26.28	25.77	0.75	0.69	25.84	26.82	6.13	6.06
	18歳	N	53	55	53	55	52	55	52	54	49	53	52	56	53	55	53	54
		X	39.77	39.29	23.58	21.78	40.88	39.87	47.50	44.91	58.39	54.79	8.15	8.33	200.94	194.98	21.08	20.89
		SD	8.45	5.63	7.20	8.05	12.92	11.29	9.77	11.59	24.72	24.59	1.29	1.86	34.43	41.44	5.34	6.40

令和元年度 新体力テスト 測定値 (女子)

【凡例】

◎	前年比大幅に向上(1%で有意な差)
○	前年比やや向上(5%で有意な差)
△	前年比やや低下(5%で有意な差)
×	前年比大幅に低下(1%で有意な差)

(注)平成30年度の新潟県の測定値と令和元年度の新潟県の測定値の比較

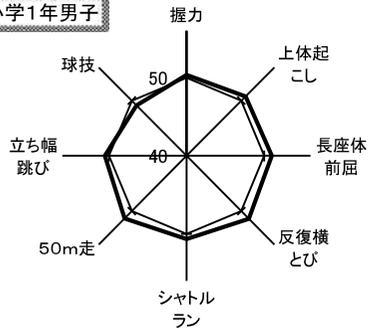
区分	N:標本数 X:平均 SD:標準偏差	握力		上体起こし		長座体前屈		反復横とび		20mシャトルラン 折り返し数		50m走		立ち幅跳び		ソフトボール投げ ハンドボール投げ		
		H30	R1	H30	R1	H30	R1	H30	R1	H30	R1	H30	R1	H30	R1	H30	R1	
小学校	6歳	N	5347	5530	5189	5351	5639	5756	5382	5413	5447	5509	8284	8158	5546	5664	8223	8112
		X	8.88	× 8.70	11.91	× 11.48	29.83	× 29.14	28.47	× 27.76	19.34	× 18.97	11.67	× 11.78	110.31	× 109.41	5.79	5.74
		SD	2.28	2.18	5.17	5.67	6.55	6.74	5.21	5.12	8.74	8.52	1.85	1.71	16.86	17.12	2.32	2.00
	7歳	N	5744	5634	5683	5452	6118	5931	5841	5579	6023	5726	8583	8321	5948	5757	8486	8292
		X	10.62	× 10.42	14.56	× 14.15	31.82	× 31.45	33.04	× 32.45	28.01	× 26.76	10.81	× 10.92	121.70	× 121.03	7.80	× 7.65
		SD	2.51	2.50	5.22	5.28	6.85	6.84	6.03	5.92	11.99	11.35	1.62	1.79	17.27	17.34	2.78	2.49
	8歳	N	8617	8631	8599	8617	8606	8623	8600	8615	8588	8613	8592	8611	8599	8622	8563	8614
		X	12.36	× 12.17	16.17	16.17	34.05	34.12	35.88	○ 36.04	34.19	× 33.15	10.42	× 10.46	131.37	× 130.58	10.01	× 9.88
		SD	2.80	2.81	5.42	5.32	7.36	7.37	7.02	6.98	13.57	13.50	0.99	1.58	18.38	18.02	3.21	3.47
	9歳	N	8692	8657	8679	8645	8686	8646	8670	8630	8663	8630	8683	8642	8672	8634	8634	8640
		X	14.27	14.24	18.31	△ 18.17	36.66	× 36.27	40.27	× 40.00	42.23	× 40.78	9.95	× 9.99	140.99	× 140.36	12.17	× 12.01
		SD	3.18	3.31	5.27	5.37	8.01	7.61	7.16	7.09	15.84	16.39	1.33	1.57	18.63	22.89	4.21	3.76
10歳	N	8705	8676	8677	8654	8690	8668	8673	8647	8642	8629	8675	8646	8674	8649	8628	8650	
	X	16.81	× 16.57	19.94	△ 19.80	39.19	△ 39.01	43.54	× 43.25	49.12	× 47.37	9.56	× 9.62	150.02	△ 149.49	14.33	× 14.09	
	SD	3.88	3.81	5.66	5.70	8.10	8.22	6.39	6.68	17.11	16.72	1.25	1.94	19.62	20.30	4.59	4.35	
11歳	N	9039	8727	9014	8708	9032	8717	9005	8686	8987	8655	9016	8691	9010	8695	8966	8701	
	X	19.67	19.65	21.06	21.03	42.11	× 41.52	45.58	45.63	53.30	× 52.66	9.21	× 9.24	159.04	158.87	16.13	× 15.92	
	SD	4.38	4.31	5.22	5.24	8.53	8.48	6.38	6.40	17.42	17.63	0.95	0.85	22.86	20.98	5.05	5.19	
中学校	12歳	N	8533	8780	8516	8750	8516	8767	8495	8743	8404	8657	8452	8677	8499	8738	8484	8720
		X	22.02	× 21.89	22.39	× 22.08	46.47	46.62	46.85	× 46.15	57.56	× 56.16	8.97	× 9.03	169.81	× 169.20	11.66	11.68
		SD	4.51	4.50	5.63	5.60	9.74	10.13	6.27	6.43	18.42	18.12	0.81	0.93	8.46	8.53	3.54	3.85
	13歳	N	8726	8381	8685	8359	8715	8360	8665	8329	8608	8244	8602	8277	8674	8331	8665	8336
		X	24.33	△ 24.23	25.12	25.13	49.25	○ 49.50	48.27	× 47.98	62.11	× 61.04	8.72	× 8.77	176.01	× 174.80	13.30	13.25
		SD	4.60	4.61	6.22	6.24	10.07	10.14	6.55	6.51	19.84	19.34	0.81	1.23	9.34	9.08	4.39	4.06
14歳	N	8842	8636	8765	8599	8813	8623	8750	8568	8652	8464	8610	8503	8776	8578	8771	8592	
	X	25.58	○ 25.70	26.21	26.08	51.20	51.21	48.67	× 48.16	61.04	× 59.88	8.68	8.68	176.25	176.15	14.12	14.18	
	SD	4.68	4.68	6.23	6.32	10.14	10.28	6.74	6.75	20.01	19.71	0.80	0.80	9.47	9.53	4.28	4.32	
高等学校	15歳	N	7359	6926	7348	6907	7357	6923	7343	6907	7331	6892	7305	6896	7350	6911	7343	6917
		X	25.50	25.53	23.51	◎ 23.72	48.37	◎ 48.78	48.24	◎ 48.44	54.56	54.26	8.93	○ 8.91	173.83	173.86	13.21	◎ 13.37
		SD	5.02	4.66	5.94	5.83	10.25	10.24	5.79	6.10	17.14	16.90	0.81	0.80	23.18	22.97	3.97	4.03
	16歳	N	7521	7019	7509	7012	7515	7016	7500	7010	7484	6980	7460	6978	7500	7005	7503	6995
		X	26.04	26.06	24.51	24.41	49.08	48.99	48.48	× 48.28	55.94	× 55.17	8.92	8.91	173.98	173.62	13.49	13.54
		SD	4.82	4.73	6.08	6.10	10.13	10.20	5.98	6.15	18.34	18.38	0.81	0.81	23.42	23.41	4.06	4.01
	17歳	N	7535	7327	7530	7314	7537	7327	7518	7304	7442	7278	7486	7275	7523	7307	7517	7309
		X	26.52	△ 26.39	25.09	24.99	49.99	49.89	48.20	× 47.99	54.54	54.37	8.94	8.95	172.91	× 171.67	13.74	13.69
		SD	4.78	4.87	6.20	6.26	10.35	10.28	6.31	6.26	18.82	18.55	0.87	0.84	26.28	23.86	4.41	4.10
	18歳	N	25	34	23	33	25	34	24	33	25	31	20	31	25	32	24	30
		X	24.64	24.94	11.30	◎ 16.70	42.76	46.44	33.79	◎ 39.52	22.24	◎ 27.39	10.66	10.37	133.60	○ 146.31	9.79	○ 10.93
		SD	5.63	6.61	6.83	7.27	14.65	10.32	10.18	8.50	10.96	12.88	2.27	2.36	33.34	32.23	2.98	3.61

令和元年度新潟県体力テスト Tスコアによるレーダーチャート

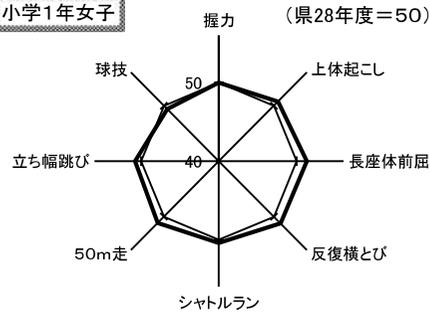
※ 小学校1・2年生は、学校任意実施。(平成30年度の県平均値を50として示したグラフ)

別紙3

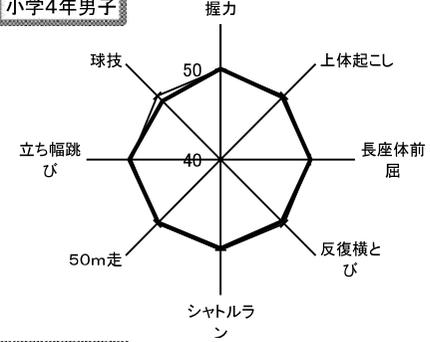
小学1年男子



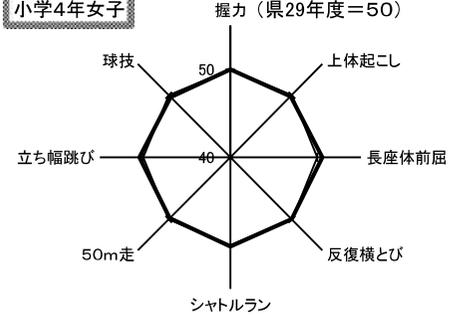
小学1年女子



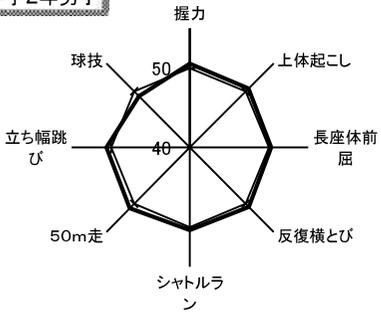
小学4年男子



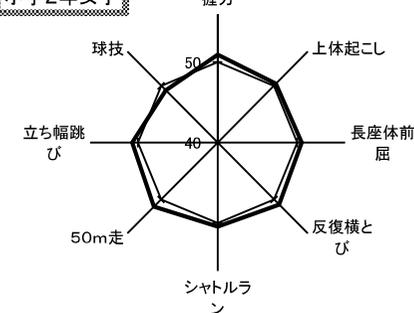
小学4年女子



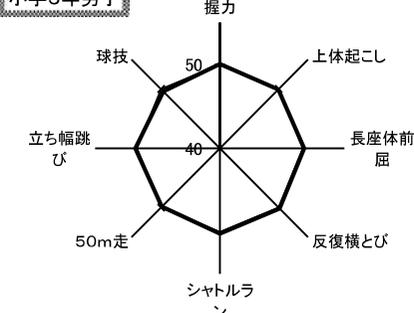
小学2年男子



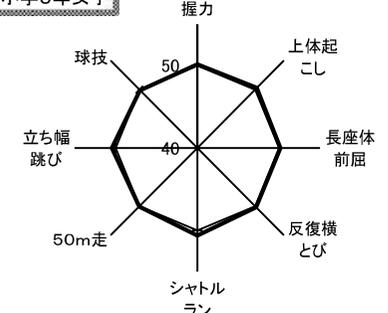
小学2年女子



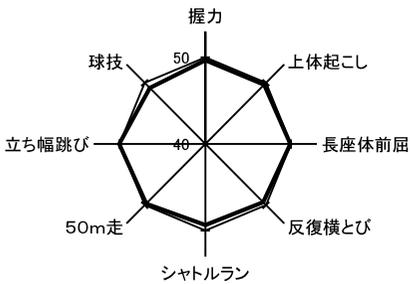
小学5年男子



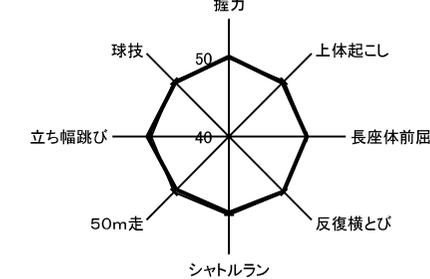
小学5年女子



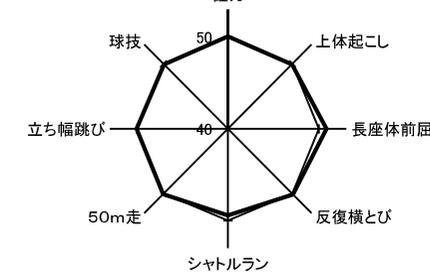
小学3年男子



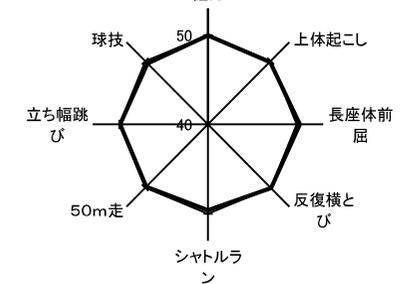
小学3年女子



小学6年男子



小学6年女子



令和元年度 R1 新潟県体力テストの結果概要

1 調査対象校 (国立を除く全公立学校)

小学校等 452 校
 中学校等 232 校
 高等学校等 94 校

2 調査期間

令和元年 5 月から 7 月まで

3 調査内容

小学校 3 年生以上、中学・中等教育学校、高等学校で 8 種目を指定して調査した。

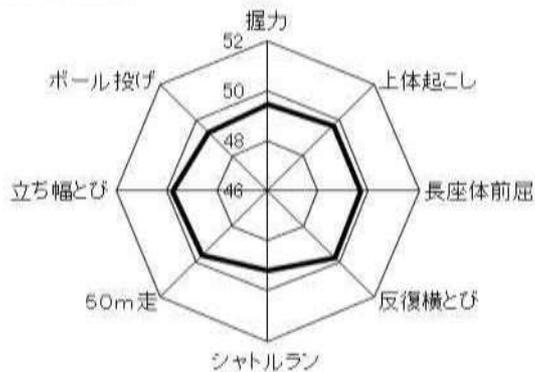
番号	1	2	3	4	5	6	7	8
項目	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ
要素	筋力	筋力 筋持久力	柔軟性	敏捷性	全身持久力	スピード	瞬発力	巧緻性 瞬発力

※ 中学校等では平成 15 年度からシャトルランを対象とした。

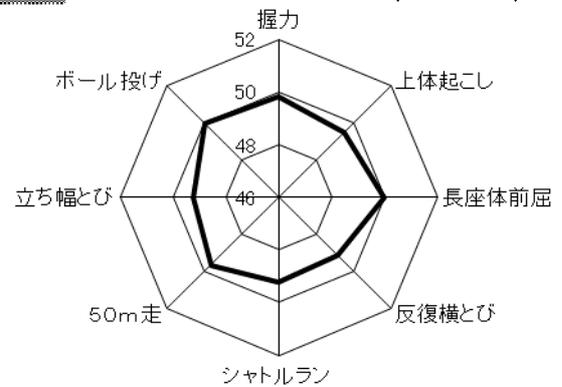
※ 高等学校等では平成 18 年度までは持久走を、平成 19 年度からは 20m シャトルランを対象とした。

4 前年度県平均値との比較 ※ 前年度の県平均値が「50」となるように統計処理をし、令和元年度平均値をレーダーチャートに表したものを。

小学校3～6年

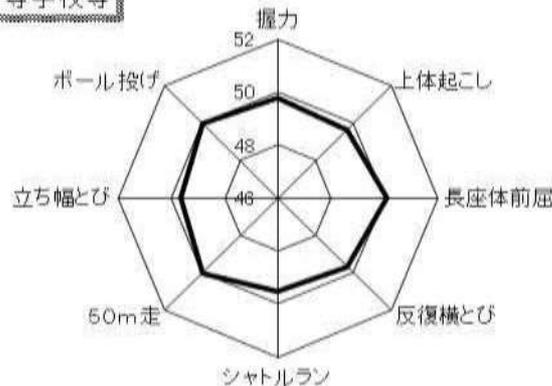


中学校等



(H30=50)

高等学校等



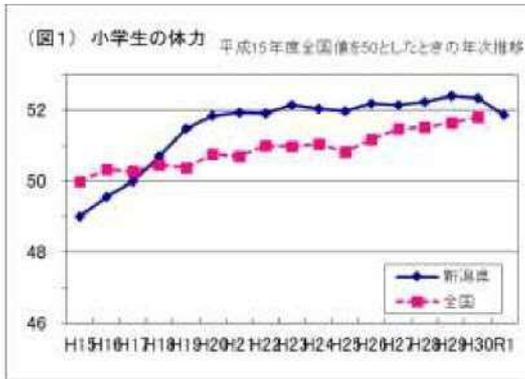
(1) 小学校、中学校等では、全ての種目で前年度を下回りました。

(2) 高等学校等では、長座体前屈、50m 走、ボール投げで前年度を上回りました。

5 全国平均値（平成 15 年度）を基準にした場合の体力の変化

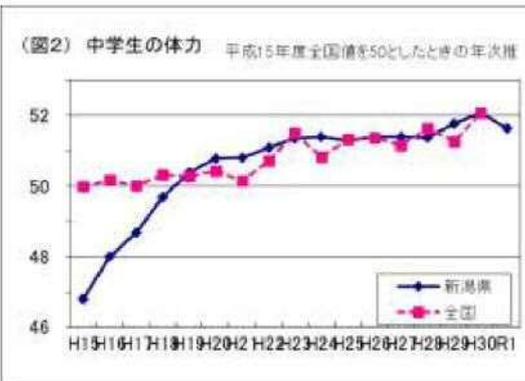
〔グラフの説明〕

異なるテスト種目を同一基準で比較するために、新潟県で小・中・高等学校の全ての子どもを対象に体力テストを開始した平成 15 年度の全国平均値が「50」となるように統計処理をし、平成 15 年度から平成 30 年度までの全国平均値と令和元年度までの本県平均値の変化をグラフに表したものの。



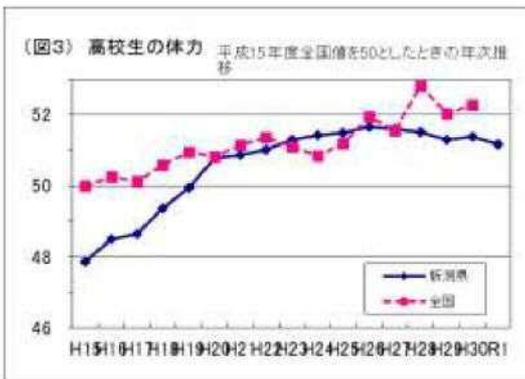
ア 小学校の体力・運動能力

- ・ 全国平均値は、平成 29 年度よりやや向上傾向を示しており、平成 30 年度は前年度を上回った。
- ・ 本県平均値は、全国値を上回っているが、令和元年度は前年度を下回った。



イ 中学校の体力・運動能力

- ・ 全国平均値は、年によって変動があり、平成 30 年度は前年度を大きく上回った。
- ・ 本県平均値は、過去最高の平成 30 年度は下回ったが、これまでの平均値と比べると、高い状態にある。



ウ 高等学校等の体力・運動能力

- ・ 全国平均値は、年度ごとに上下動が激しく、平成 30 年度は前年度を少し上回った。
- ・ 本県平均値は、平成 30 年度は、上昇傾向が見られたが、令和元年度は前年度を下回った。

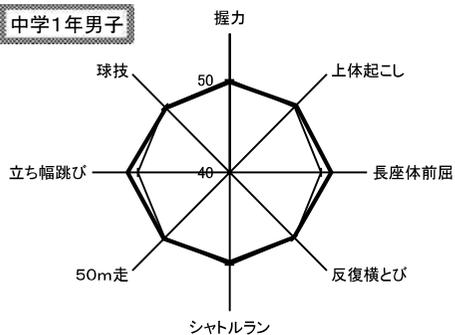
6 今後の取組

児童生徒の体力向上を促進するためには、日常的に運動に触れる機会をもち、運動やスポーツへの意識を高めていくことが重要である。そのためには、児童・生徒に求められる資質・能力を育成することを目指した授業改善や体を動かす楽しさや心地よさを味わえるような学校の取組の中で、児童生徒が運動やスポーツの特性や魅力を実感したり、するだけでなく、「みる・支える・知る」といった多様な関わり方ができるようにしたりすることなどが重要である。数値の上下だけで判断することなく、これらの取組を今後も継続的に行い、児童生徒が体力・運動能力の全ての要素をバランスよく身に付けられるよう、体力向上に向けた取組を充実させることが大切である。

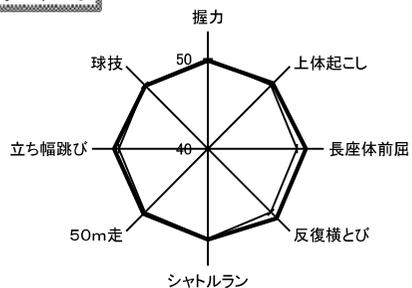
令和元年度新潟県体力テスト Tスコアによるレーダーチャート

※ 小学校1・2年生は、学校任意実施。(平成30年度の県平均値を50として示したグラフ)

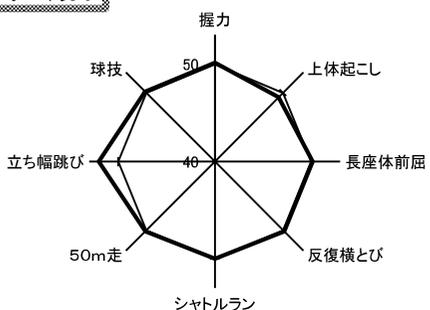
中学1年男子



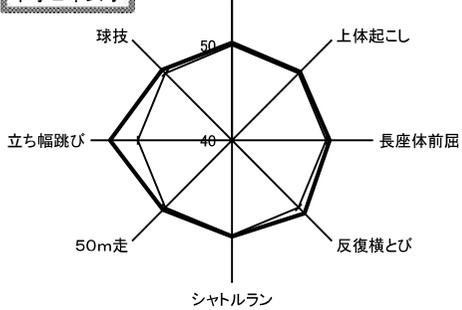
中学1年女子



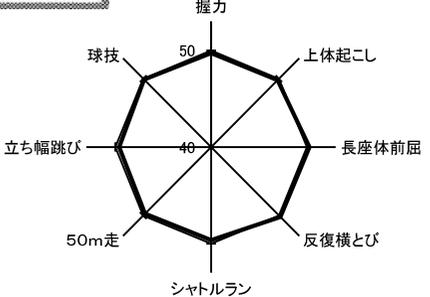
中学2年男子



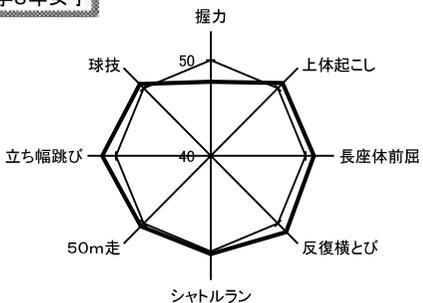
中学2年女子



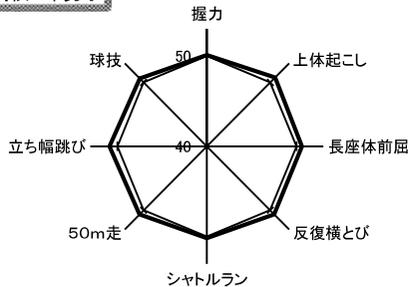
中学3年男子



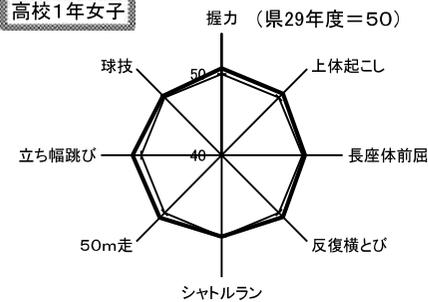
中学3年女子



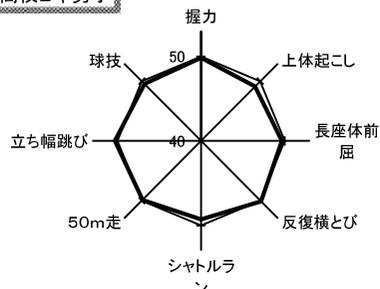
高校1年男子



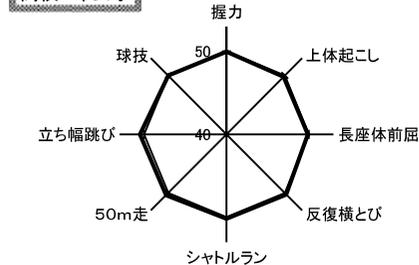
高校1年女子



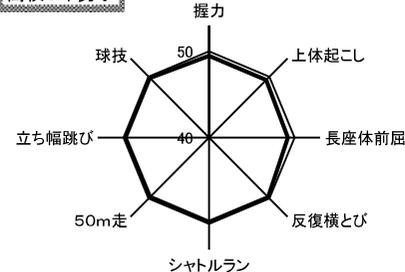
高校2年男子



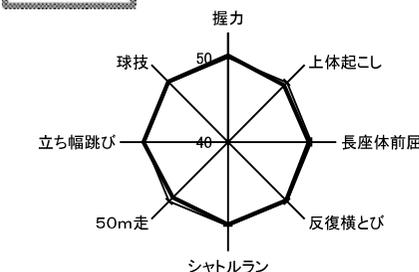
高校2年女子



高校3年男子



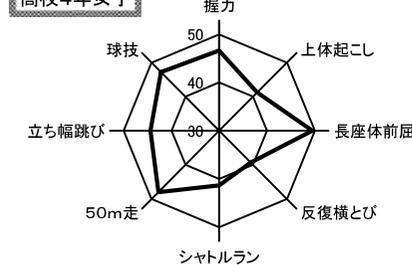
高校3年女子



高校4年男子



高校4年女子



小学校

性別	学年	地区名	握力実施者数	握力平均(kg)	握力平均(得点)	上体起こし実施者数	上体起こし平均(回)	上体起こし平均(得点)	長座体前屈実施者数	長座体前屈平均(cm)	長座体前屈平均(得点)	反復横とび実施者数	反復横とび平均(回)	反復横とび平均(得点)	シヤトルラン実施者数	シヤトルラン平均(回)	シヤトルラン平均(得点)	50m走実施者数	50m走平均(秒)	50m走平均(得点)	立ち幅跳び実施者数	立ち幅跳び平均(cm)	立ち幅跳び平均(得点)	球技実施者数	球技平均(m)	球技平均(得点)	平均得点合計
1	1	新潟市立小学校	1292	9.13	3.76	1127	12.62	4.92	1415	26.73	4.67	1227	28.25	4.18	1196	21.66	4.24	3043	11.49	3.30	1339	113.77	3.28	2991	7.90	2.85	31.20
1	2	新潟市立小学校	1437	11.02	4.55	1290	15.06	5.77	1601	28.65	5.17	1404	33.34	5.46	1455	31.32	5.25	3268	10.63	4.35	1467	125.61	4.23	3255	10.71	3.74	38.52
1	3	新潟市立小学校	3245	12.50	5.11	3235	16.64	6.32	3237	30.15	5.53	3235	36.07	6.13	3231	39.27	5.96	3237	10.26	5.19	3235	135.14	4.95	3236	13.91	4.58	43.77
1	4	新潟市立小学校	3142	14.67	5.86	3134	19.00	7.15	3128	32.03	6.01	3135	40.67	7.25	3126	48.81	6.79	3144	9.75	6.10	3135	144.42	5.68	3121	17.49	5.35	50.17
1	5	新潟市立小学校	3299	16.80	6.58	3285	20.69	7.67	3294	34.23	6.51	3281	43.88	7.98	3274	54.85	7.28	3289	9.41	6.64	3280	153.61	6.40	3284	20.68	5.97	55.03
1	6	新潟市立小学校	3278	19.41	7.40	3270	22.21	8.14	3274	36.21	6.98	3263	47.02	8.64	3249	62.08	7.84	3272	8.99	7.44	3269	165.33	7.32	3264	24.27	6.61	60.37
2	1	新潟市立小学校	1227	8.57	3.53	1058	12.14	5.09	1310	29.03	4.61	1139	27.42	4.40	1138	17.58	4.09	2865	11.73	3.19	1237	106.69	3.32	2828	5.57	3.20	31.43
2	2	新潟市立小学校	1353	10.26	4.34	1211	14.85	6.22	1501	31.42	5.21	1317	32.71	5.78	1368	24.51	5.14	3068	10.82	4.27	1403	119.32	4.36	3058	7.38	4.19	39.51
2	3	新潟市立小学校	3127	12.03	5.12	3119	16.42	6.87	3122	33.86	5.78	3121	35.31	6.46	3121	31.60	6.04	3117	10.53	5.23	3123	129.23	5.16	3122	9.56	5.10	45.76
2	4	新潟市立小学校	3212	14.06	5.92	3210	18.35	7.62	3209	36.21	6.34	3204	39.71	7.61	3204	39.50	6.89	3207	10.03	6.07	3208	138.57	5.87	3207	11.56	5.81	52.13
2	5	新潟市立小学校	3147	16.36	6.74	3135	19.87	8.15	3141	39.18	6.96	3131	42.69	8.34	3119	45.73	7.52	3137	9.66	6.77	3133	148.81	6.72	3133	13.60	6.46	57.68
2	6	新潟市立小学校	3183	19.39	7.73	3175	20.86	8.50	3177	41.91	7.53	3166	45.04	8.85	3145	51.35	8.04	3173	9.26	7.46	3166	158.13	7.49	3169	15.30	6.94	62.54
1	1	新潟県	5729	9.24	3.80	5572	11.76	4.63	5998	26.80	4.70	5665	28.61	4.29	5691	22.47	4.30	8507	11.58	3.37	5927	115.01	3.41	8449	8.22	2.97	31.46
1	2	新潟県	6014	11.13	4.59	5819	14.55	5.60	6360	28.68	5.17	5960	33.32	5.46	6139	33.03	5.39	8859	10.71	4.45	6106	127.25	4.34	8823	11.34	3.91	38.92
1	3	新潟県	9125	12.84	5.23	9096	16.51	6.28	9104	30.57	5.65	9090	36.95	6.35	9081	40.83	6.10	9099	10.20	5.29	9103	136.58	5.06	9094	14.93	4.80	44.75
1	4	新潟県	8858	14.81	5.91	8843	18.70	7.04	8841	32.22	6.06	8832	40.89	7.30	8822	49.03	6.81	8853	9.78	6.01	8835	145.25	5.73	8826	18.31	5.50	50.36
1	5	新潟県	9200	16.94	6.62	9165	20.65	7.68	9188	34.34	6.54	9153	44.54	8.13	9140	55.73	7.36	9163	9.42	6.63	9160	154.52	6.47	9168	21.81	6.17	55.61
1	6	新潟県	9318	19.99	7.57	9299	22.40	8.20	9308	36.53	7.04	9284	47.66	8.76	9269	62.80	7.89	9302	9.02	7.40	9298	168.23	7.41	9291	25.43	6.81	61.09
2	1	新潟県	5530	8.70	3.58	5351	11.48	4.81	5756	29.14	4.65	5413	27.76	4.49	5509	18.97	4.29	8158	11.78	3.33	5664	109.41	3.56	8112	5.74	3.31	32.02
2	2	新潟県	5634	10.42	4.41	5452	14.15	5.95	5931	31.45	5.22	5579	32.45	5.72	5726	26.76	5.44	8321	10.92	4.45	5757	121.03	4.50	8292	7.65	4.32	40.00
2	3	新潟県	8631	12.17	5.18	8617	16.17	6.77	8623	34.12	5.85	8615	36.04	6.65	8613	33.15	6.22	8611	10.46	5.33	8622	130.58	5.26	8614	9.88	5.21	46.47
2	4	新潟県	8657	14.24	5.99	8645	18.17	7.56	8646	36.27	6.35	8630	40.00	7.68	8630	40.78	7.04	8642	9.99	6.12	8634	140.36	6.03	8640	12.01	5.95	52.72
2	5	新潟県	8676	16.57	6.82	8654	19.80	8.14	8668	39.01	6.94	8647	43.25	8.47	8629	47.37	7.70	8646	9.62	6.79	8649	149.49	6.79	8650	14.09	6.60	58.25
2	6	新潟県	8727	19.65	7.82	8708	21.03	8.54	8717	41.52	7.47	8686	45.63	8.96	8655	52.66	8.17	8691	9.24	7.50	8695	158.87	7.56	8701	15.92	7.11	63.13

中学校

性別	学年	地区名	握力実施者数	握力平均(kg)	握力平均(得点)	上体起こし実施者数	上体起こし平均(回)	上体起こし平均(得点)	長座体前屈実施者数	長座体前屈平均(cm)	長座体前屈平均(得点)	反復横とび実施者数	反復横とび平均(回)	反復横とび平均(得点)	シットラン実施者数	シットラン平均(回)	シットラン平均(得点)	50m走実施者数	50m走平均(秒)	50m走平均(得点)	立ち幅跳び実施者数	立ち幅跳び平均(cm)	立ち幅跳び平均(得点)	球技実施者数	球技平均(m)	球技平均(得点)	平均得点合計
1	1	新潟市立中学校	3136	24.05	2.83	3127	24.46	5.69	3126	43.54	5.61	3123	48.82	5.77	3093	72.29	5.26	3101	8.57	3.59	3117	185.87	3.66	3117	17.97	3.38	40.43
1	2	新潟市立中学校	3126	29.47	3.93	3121	28.28	6.99	3125	47.80	6.46	3118	52.13	6.63	3091	87.49	6.47	3089	7.95	4.89	3113	203.95	4.82	3102	21.24	4.46	49.96
1	3	新潟市立中学校	3055	34.48	4.94	3049	30.13	7.68	3049	49.65	6.86	3041	54.70	7.34	3032	94.27	7.04	3032	7.55	6.01	3044	215.73	5.67	3042	24.11	5.40	56.12
2	1	新潟市立中学校	3061	21.78	4.41	3046	22.00	7.18	3058	47.60	6.26	3048	45.89	7.09	3022	56.01	6.63	3029	9.05	5.63	3046	170.05	5.87	3042	11.59	4.09	52.49
2	2	新潟市立中学校	2921	24.17	5.30	2917	25.84	8.26	2916	50.48	6.86	2907	47.89	7.73	2875	62.10	7.21	2894	8.74	6.41	2905	175.96	6.38	2910	13.26	5.06	59.87
2	3	新潟市立中学校	2982	25.70	5.89	2972	26.57	8.48	2977	52.17	7.22	2966	48.19	7.84	2945	60.15	7.06	2944	8.68	6.61	2967	178.06	6.60	2966	14.25	5.62	60.96
1	1	新潟県	9071	24.29	2.87	9047	24.43	5.68	9039	42.58	5.43	9025	48.97	5.78	8946	71.79	5.23	8974	8.58	3.60	9021	184.79	3.59	9008	18.15	3.45	40.15
1	2	新潟県	8681	29.72	3.97	8664	27.98	6.92	8662	46.77	6.26	8640	52.36	6.68	8577	86.47	6.40	8576	7.95	4.91	8636	203.08	4.75	8612	21.33	4.48	49.57
1	3	新潟県	9043	34.64	4.97	9017	30.05	7.64	9031	49.58	6.84	8995	54.90	7.37	8951	93.13	6.95	8975	7.56	6.00	9006	215.08	5.62	8995	24.14	5.41	56.18
2	1	新潟県	8780	21.89	4.45	8750	22.08	7.21	8767	46.62	6.06	8743	46.15	7.16	8657	56.16	6.66	8677	9.03	5.64	8738	169.20	5.77	8720	11.68	4.15	52.37
2	2	新潟県	8381	24.23	5.32	8359	25.13	8.11	8360	49.50	6.66	8329	47.98	7.75	8244	61.04	7.13	8277	8.77	6.39	8331	174.80	6.29	8336	13.25	5.07	58.91
2	3	新潟県	8636	25.70	5.89	8599	26.08	8.37	8623	51.21	7.03	8568	48.16	7.81	8464	59.88	7.03	8503	8.68	6.61	8578	176.15	6.45	8592	14.18	5.58	60.45

地区別集計データ(高等学校)

性別	学年	地区名	握力合計(kg)	握力合計(得点)	握力実施者数	握力平均(kg)	握力平均(得点)	上体起こし合計(回)	上体起こし合計(得点)	上体起こし実施者数	上体起こし平均(回)	上体起こし平均(得点)	長座体前屈合計(cm)	長座体前屈合計(得点)	長座体前屈実施者数	長座体前屈平均(cm)	長座体前屈平均(得点)
1	1	新潟市	255144.00	37406.00	6954.00	36.69	5.38	198965.00	49603.00	6942.00	28.66	7.15	332492.00	44858.00	6944.00	47.88	6.46
1	2	新潟市	256854.00	38534.00	6615.00	38.83	5.83	201426.00	51272.00	6606.00	30.49	7.76	323883.00	44261.00	6612.00	48.98	6.69
1	3	新潟市	290261.00	44329.00	7164.00	40.52	6.19	225788.00	57836.00	7155.00	31.56	8.08	357665.00	49403.00	7161.00	49.95	6.90
1	4	新潟市	2161.00	325.00	55.00	39.29	5.91	1198.00	262.00	55.00	21.78	4.76	2193.00	270.00	55.00	39.87	4.91
2	1	新潟市	176827.00	40245.00	6926.00	25.53	5.81	163833.00	53544.00	6907.00	23.72	7.75	337682.00	45109.00	6923.00	48.78	6.52
2	2	新潟市	182884.00	42224.00	7019.00	26.06	6.02	171193.00	55622.00	7012.00	24.41	7.93	343679.00	46031.00	7016.00	48.99	6.56
2	3	新潟市	193374.00	45006.00	7327.00	26.39	6.14	182751.00	59167.00	7314.00	24.99	8.09	365546.00	49520.00	7327.00	49.89	6.76
2	4	新潟市	848.00	190.00	34.00	24.94	5.59	551.00	173.00	33.00	16.70	5.24	1579.00	203.00	34.00	46.44	5.97

性別	学年	地区名	反復横とび合計(回)	反復横とび合計(得点)	反復横とび実施者数	反復横とび平均(回)	反復横とび平均(得点)	持久走合計(時間)	持久走合計(得点)	持久走実施者数	持久走平均(時間)	持久走平均(得点)	シャトルラン合計(回)	シャトルラン合計(得点)	シャトルラン実施者数	シャトルラン平均(回)	シャトルラン平均(得点)	最大酸素摂取量合計	最大酸素摂取量実施者数	最大酸素摂取量平均
1	1	新潟市	384378.00	51651.00	6934.00	55.43	7.45	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	604414.00	44829.00	6909.00	87.48	6.49	315649.40	6908.00	45.69
1	2	新潟市	374298.00	51383.00	6601.00	56.70	7.78	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	611440.00	45738.00	6581.00	92.91	6.95	308545.20	6577.00	46.91
1	3	新潟市	409279.00	56688.00	7154.00	57.21	7.92	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	656504.00	49168.00	7137.00	91.99	6.89	332996.00	7130.00	46.70
1	4	新潟市	2425.00	270.00	54.00	44.91	5.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2904.00	210.00	53.00	54.79	3.96	2033.50	53.00	38.37
2	1	新潟市	334543.00	54342.00	6907.00	48.44	7.87	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	373926.00	44959.00	6892.00	54.26	6.52	263335.40	6889.00	38.23
2	2	新潟市	338421.00	54798.00	7010.00	48.28	7.82	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	385109.00	46202.00	6980.00	55.17	6.62	268198.20	6979.00	38.43
2	3	新潟市	350532.00	56398.00	7304.00	47.99	7.72	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	395727.00	47732.00	7278.00	54.37	6.56	278336.70	7277.00	38.25
2	4	新潟市	1304.00	169.00	33.00	39.52	5.12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	849.00	106.00	31.00	27.39	3.42	997.60	31.00	32.18

性別	学年	地区名	50m走合計(秒)	50m走合計(得点)	50m走実施者数	50m走平均(秒)	50m走平均(得点)	立ち幅跳び合計(cm)	立ち幅跳び合計(得点)	立ち幅跳び実施者数	立ち幅跳び平均(cm)	立ち幅跳び平均(得点)	球技合計(m)	球技合計(得点)	球技実施者数	球技平均(m)	球技平均(得点)	平均得点合計	総合評価
1	1	新潟市	52170.60	41074.00	6917.00	7.54	5.94	1518353.00	40533.00	6939.00	218.81	5.84	161683.00	35522.00	6937.00	23.31	5.12	49.82	
1	2	新潟市	48705.73	42345.00	6585.00	7.40	6.43	1485962.00	41699.00	6604.00	225.01	6.31	163546.00	36974.00	6599.00	24.78	5.60	53.36	
1	3	新潟市	52307.63	47638.00	7136.00	7.33	6.68	1618469.00	45911.00	7159.00	226.07	6.41	182851.00	41900.00	7152.00	25.57	5.86	54.93	
1	4	新潟市	466.60	272.00	56.00	8.33	4.86	10724.00	249.00	55.00	194.98	4.53	1128.00	234.00	54.00	20.89	4.33	38.26	
2	1	新潟市	61426.50	40931.00	6896.00	8.91	5.94	1201557.00	42934.00	6911.00	173.86	6.21	92499.00	35619.00	6917.00	13.37	5.15	51.77	
2	2	新潟市	62170.60	41437.00	6978.00	8.91	5.94	1216184.00	43404.00	7005.00	173.62	6.20	94733.00	36717.00	6995.00	13.54	5.25	52.33	
2	3	新潟市	65116.90	42493.00	7275.00	8.95	5.84	1254367.00	44128.00	7307.00	171.67	6.04	100025.00	38914.00	7309.00	13.69	5.32	52.47	
2	4	新潟市	321.60	118.00	31.00	10.37	3.81	4682.00	128.00	32.00	146.31	4.00	328.00	113.00	30.00	10.93	3.77	36.91	

研修会：体育・保健体育指導力向上研修（東部ブロック）

コース：「体育が苦手な児童生徒のための授業づくり研究大会」体づくり運動系(小)

期 日：令和元年5月22日(水)～24日(金)

講 師：鈴木 聡(東京学芸大学 教授) 山西 達也(香川県教育委員会 指導主事)

1 体づくり運動(遊び)のねらい

○体づくり運動(遊び)は、

体を動かす楽しさや心地よさを味わい運動好きになるとともに

- 心と体の関係に気付いたり、
- 仲間と交流したりすることや、
- 様々な基本的な体の動きを身に付けたり、
- 体の動きを高めたりして、

体力を高めるために行われる運動。

指導要領の内容とねらいに
「運動好きになる」と記載

○低学年... 体づくりの運動遊び「体ほぐしの運動遊び」及び「多様な動きをつくる運動遊び」

中学年... 体づくり運動「体ほぐしの運動」及び「多様な動きをつくる運動」

高学年... 体づくり運動「体ほぐしの運動」及び「体の動きを高める運動」

→ 「体ほぐしの運動(遊び)」：心や体の変化や心と体との関係に気付いたり、みんなで関わり合ったりすることが主なねらい。

→ 「多様な動きをつくる運動(遊び)」及び「体の動きを高める運動」：体の様々な動きを身に付けたり高めたりすることが主なねらい。

なお、高学年の「体の動きを高める運動」は、児童の発達段階を踏まえ、主として体の柔らかさ及び巧みな動きを高めることに重点を置いて指導する。

2 新学習指導要領における変更点

* 網掛けが変更箇所

	現行学習指導要領	新学習指導要領
小学校 第1・2学年	体づくり運動 ・体ほぐしの運動 ・多様な動きをつくる運動遊び	体づくりの運動遊び ・体ほぐしの運動遊び * 1 * 2 ・多様な動きをつくる運動遊び
小学校 第3・4学年	・体ほぐしの運動 ・多様な動きをつくる運動	・体ほぐしの運動 * 2 ・多様な動きをつくる運動
小学校 第5・6学年	・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・体ほぐしの運動 * 2 ・体の動きを高める運動 * 3
中学校 第1・2学年	・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・体ほぐしの運動 ・体の動きを高める運動
中学校 第3学年	・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・体ほぐしの運動 ・実生活に生かす運動の計画

- * 1 「体づくりの運動遊び」「体ほぐしの運動遊び」
 - ・子どもにとっては楽しい遊びであることを強調。
 - ・幼児教育との接続を考慮。
- * 2 「体ほぐしの運動遊び」「体ほぐしの運動」
 - ・気付き，調整，交流 → 気付き，交流（「調整」は内包されている）
- * 3 「体の動きを高める運動」
 - ・「多様な動きをつくる運動(遊び)」において育まれた体の基本的な動きを基に，各種の動きを更に高めることにより，結果として体力の向上を目指す。
 - ・中学校との接続を考慮。トレーニングや体力テストの数値向上が目的ではない。

3 指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方

- 学習評価は，児童が学習指導要領の示す目標に照らして，その実現状況を見ることが求められる。児童の学習状況を検証し，結果の面から教育水準の維持向上を保証する機能を有する。
- 指導と評価は別物ではなく，評価の結果によって後の指導(学習指導や個に応じた指導等)を改善し，さらに新しい指導の成果を再度評価するという，指導に生かす評価を充実させることが重要。
- 児童が行う自己評価や相互評価は児童の学習活動であり，教師が行う評価活動ではない。しかし，児童が自身の良い点や可能性について気付くことを通じ，主体的に学ぶ意欲を高めること等学習の在り方を改善していくことにも役立つことから，積極的に取り組んでいくことも重要。
- 評価を効果的・効率的に行うためには，本時の指導内容を明確にすることが重要。重点を決めて1～2の評価項目を設定し，指導と評価を計画的に行うことが望ましい。
- 「体ほぐしの運動」では「運動の技能」について評価しない。
- 「多様な動きをつくる運動(遊び)」と「体の動きを高める運動」では，基本的な動きを身に付けることや，体の動きを高めるためのねらいに応じた動きを身に付けることを目指していることから，「運動の技能」の観点からも評価する。
→ タイムや回数などによって量的に評価するのではなく，動きがスムーズに安定してできるようになったか，正しい動きができるようになったかという質的な評価が求められる。

4 単元計画の作成について

- 他の運動領域と異なり，それぞれの学年で2学年にわたって指導する領域。
- 小学校，中学校，高等学校とすべての校種で取り扱う唯一の領域。系統的な指導の積み重ねが必要。
- 主体的，対話的で深い学びの実現や，体づくり運動の学習のねらいを達成するためにも，他領域と同じように単独単元での実施が必要。
- 体づくり運動の内容が，他の領域の準備運動，補強運動，整理運動としてだけの取扱いにならないよう，しっかりと年間指導計画に単元として位置付けて行うことが重要。

5 運動(遊び)が苦手な児童, 運動(遊び)に意欲的でない児童に対してのアプローチ

小学校の6年間の学びが, 中学校, 高等学校, そして社会人としての豊かなスポーツライフの実現に大きな影響を与えることを意識しながら, 体育授業が運動好きの児童を増やすきっかけとなるように指導していかなければならない。

- どのような児童がいるのか実態をよく把握し, そのためにどのような手だてや配慮が必要なのかを想定しておく。
- 学習指導要領解説に示されている配慮の例を参考に, 授業イメージを膨らませる。
 - ・知識・技能... 運動が苦手な児童への配慮の例
 - ・学びに向かう力・人間性... 運動に意欲的でない児童への配慮の例
- 授業を展開する中で, 学習活動に即した言葉がけ【視点1~3】や場の設定を行う。
 - ・肯定的フィードバック: 矯正的フィードバックのバランス
目安として 肯定4: 矯正1

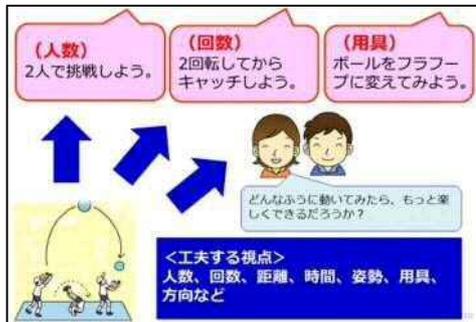
【視点1】運動の行い方やポイントが分かる言葉がけ



[言葉がけの例]

場所・スペース: 手を遠くに置いて...
 時間・リズム: 速く, ○○のリズムで...
 体の形: 体を小さく丸めて...
 力の加減: もう少しだけ力を入れて...
 人間関係: ○○を友達に教えてもらおう。

【視点2】課題解決の仕方や方法への気づきを促す言葉がけ



[言葉がけの例]

「どうしたらもっと楽しくできるかな。」
 人数: ○人で挑戦しよう。
 回数: 2回転してからキャッチしよう。
 用具: ボールを○○に変えてみよう。
 体の形+時間: 体を小さく丸めて, 速く回ること挑戦しよう。

【視点3】他領域や実生活とつなげる言葉がけ



何のためにやっているのか, 何を知っていると今後の役に立つのか, 子どもにも分かるように言葉がけをする。[言葉がけの例]「前に学習したことを使って...」

別紙

2019年度「体力づくりの推進」事業 新潟市小学校体育指導者講習会
実技講習⑥(体づくり運動系) Aグループ6/6(木)・Bグループ6/11(火)

○準備

- ・受付でガムテープに受講者番号とニックネームを書く。

○講習(体づくり運動系)の概要

- ・特性や構成について
- ・新学習指導要領の改訂のポイント(小学校の主な改善点)
- ・苦手意識をもたせない指導の工夫

○アイスブレイク 人数集めゲームでアイスブレイク(主に「体ほぐしの運動」)

- 1 ペアでのストレッチ(2人組) **どんな感じがする?**
 - 2 以心伝心(6人組)... 右手を握って伝えていく。一周でハイ! **どんな感じ?**
 - 3 アイコンタクト(8人組)... 目が合ったらハイタッチ。 **どんな気持ちだった?**
- ・自己紹介: 名前, ニックネームの由来, 好きな○○

○実技: 体のバランスをとる運動遊び(主に「多様な動きをつくる運動遊び」)

- 1 バランスくずし(2人組)... 向かい合って手で押し合う。 **くふうしてみよう!**
- 2 スタンドアップ(2人組)... 向かい合って両手を繋ぎ, 立ったり座ったりする。



他にはどんな遊び方があるかな?

工夫の視点: 姿勢・時間・仲間・人数・場や用具

○映像: 中学年の授業風景(主に「多様な動きをつくる運動」)

- 1 シグナルジョグ(2人組)... 3mあけてペアで走る。前の人が進んで止まってシグナル。T字: 旋回 大の字: 足下くぐり抜け【「連続」○○した後で, ΔΔする】
- 2 タオルを使ってボール運び(2人組→4人組)... 2人でボールを投げ上げてタオルでキャッチ。【「2つ以上の動きを同時に」○○しながらΔΔする。】

○実技: (主に「体の動きを高める運動」) **数値化/ゲーム化/視覚化**

- 1 人間知恵の輪(8人組): 体の柔らかさを高める運動
- 2 ボール転がし(4人組): 巧みな動きを高める運動
- 3 手押し車(2人組): 力強い動きを高める運動
- 4 短縄でバンブー(4人組): 動きを持続する能力を高めるための運動



作った動きのこだわりを言ってから発表しよう。

○評価について

- ・学習の評価
- ・運動(遊び)が苦手な児童や意欲的でない児童に対しての配慮

令和元年6月6日(木)・11日(火)

＜2019年度「体力づくりの推進」事業＞
新潟市小学校体育指導者講習会「実技研修」資料

大形小学校 三上 賢二

- ◇ スポーツ庁主催「体育が苦手な児童生徒のための授業づくり研究大会」
 - ・ 2019年度 体育・保健体育指導力向上研修 5月22日(水)～24日(金)
 - ・ 東部ブロック：山形市総合スポーツセンター「器械運動系」(小学校)
 - ・ 講師： 木下 英俊 先生(宮城教育大学 教授)

＜テーマ＞

- ・ 器械運動系が苦手な児童も積極的に取り組めるような指導に留意するとともに、児童の実態に即した学習過程を工夫することにより、器械運動系の特性に応じた楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を育成するための器械運動系の指導の在り方

器械運動系(小学校)

◆器械運動の特性

- ・ 非日常的な動き、出来栄えの質の高まり □ 「解説」的には「安定して行う」

◆発展技の取り扱い

- ・ 基本技の習熟や発展技に必要な基礎技能の獲得が前提

◆体ほぐしの運動の趣旨(気づき、交流)を踏まえた指導の在り方

- ・ 自分の心と体の関係に気づく
 - 楽しい動き、心地よい動きへの気づき = 技の学習の前提をつくる
- ・ 友だちとの交流
 - 友達の動きに気づく、一緒に動く、伝え合う、助け合う(教え合う)

◆新学習指導要領を踏まえた器械運動の学習指導

- ・ 系統的な指導の在り方と苦手意識をもたせない指導の工夫(個に応じた)
- ・ 基礎技能養成(器械・器具を用いた運動遊び) □ 目標技の技術習得の工夫
 - 応用、発展、変形 □ 次の目標技(発展技)へ
- ・ 安全確保、安全指導、直接補助、間接補助としての場の設定の工夫の意図を明確に
- ・ 単独技 □ 繰り返しや組み合わせ □ 演技

実技伝達内容①(マットを使った運動遊び・マット運動)

◆準備運動(ストレッチ中心 ※ペアも)首は重要、まんべんなく行う

(1)「接転技群」予備運動

- ・ ゆりかご □ かかえ方について ※どちらでもいいが・・・
 - <もも> …… ひざから下が動きやすい、ひざの曲げ伸ばし
 - <ひざの前> …… 体が開きにくい
 - 体の動かし方の違い、感じ方の違い
- やりやすい「ゆりかご」からバランス□腹筋の緊張&体の締め

少し勢いをつけることを意識

- 手は伸ばして（2回目で立つ）※ 体の使い方は自由
 - 自然に腰を開いたり、脚の曲げ伸ばしの動きが出てくる
- 後転の手の着き方<ひじは上に向ける>（2回目で立つ）
 - 後転の指導前の運動や後転の手の着きができるかの確認
- 手・ひざは伸ばして、
 - 途中で背支持倒立（腰を両手で支える、両腕を地面に伸ばして支える、両手を上方向にまっすぐ伸ばす）バランス・体幹の締め
 - ゆっくり両足を下ろす
 - 回転技の動きにつながる
- 片ひざをかかえながら、腕組みをしながら

これからやろうとする技によって予備運動を選択する

- ペア（手をつないで、ハイタッチ<相手しゃがみ（上・下）、相手立ち、>）

・ だるま回り（横転がり）

- 右に倒れる：動きは・・・右倒れ→背中→左倒れ
- 左に倒れる：動きは・・・左倒れ→背中→右倒れ

・ 横転がり → 定位感と運動方向 ※ 左右の動きを経験させるのもよい

- ◇ 「マットを使った運動遊び」は多様な動きを楽しむ
- ◇ 「マット運動」では取り組む技の予備運動となるよう配慮する

(2) 「接転技群」前転グループ

・ 前転 □ 両足踏み切り

- 今できる自然な、自分なりの前転
- 真上（または若干前方向）にジャンプ&着地（止まらないように）
- 手を横に開いて、手をほぼつかない状態で ※ 無理しない、無理させない！
- 手をつないで→着地後（ジャンプやハイタッチ）

片足踏み切り

- 着地（片足ずつ または 両足をそろえて）
- 歩く → 前転 → 歩く（止まらないように）
 - ※ 片足の振り上げで回転速度が高まる

加速する □ 腰を開く、ひざを伸ばす動きにつながりやすい

体を「ボールのように」は間違いではないが、止まった状態からは転がらない

両足踏み切り

- 脚：曲げ→伸ばし→曲げ（ピッ！という感じで）
 - ※ 最後の曲げがなければ、開脚前転につながる動きになる

・ 開脚前転

- 試す ○ マット縦重ね（易しい場の一つ）
- ロイター板傾斜（二つ使用） ○ マット重ね（三角を作る）
 - 柔軟性も必要だが、前転の勢いと前屈動作がポイント
 - 傾斜では自力加速できない！

- ◇ 頭越し、順次接触、伝導（回転加速、コントロール）、立ち上がり技術の発展系統
- ◇ 技の出来映え、質の高まり □ 美しさリズム（メリハリ）
- ◇ 技能として □ 縦の発展と横の変形

(3) (巧技系) 倒立と (ほん転技群) 側方倒立回転

(4) 「接転技群」後転グループ

(5) 技の繰り返しや組み合わせ などにも伝達講習で行った

- ★ 体ほぐしの運動の趣旨 □ 楽しく調整、交流
- ★ 学習指導要領に沿った指導 □ 基礎技能養成からの系統的な技の指導
- ★ 場の設定の工夫 = 学習援助と安全確保＋動機づけ(やってもよい□やりたい！)
- ★ 直接補助(人による)と間接補助(セーフティーマット、段差など)

学習指導要領の変更点と内容の取扱いについて

- ◆ 指導内容の整理（運動領域）
 - ・ 現行→「技能」「態度」「思考・判断」
 - ・ 新→「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」
- ◆ 「知識及び技能」について
 - ・ 「運動の行い方に関する知識」とは
 - 運動の行い方に関する知識
 - その運動（技）を効果的に行うための体の動かし方の情報：技のポイント等
 - 課題の解決の仕方に関する知識
 - 技術を身に付けるための練習の仕方の情報：場の工夫等
 - ・ 2つの知識の情報を理解するとともに、技能を身に付けていく
 - 「わかる」と「できる」
 - ※ 運動が苦手な児童への配慮の例が示された
- ◆ 「思考力・判断力・表現力等」について
 - ・ 「考えたことを他者に伝える力」とは
 - ・ 対話的な学びを深め、それを人に伝えることによって新たな課題解決が見つかる→「主体的・対話的で深い学び」に関する部分
 - ※ 特に表現力に関しては、体育でこそ身に付けることができる表現力を伸ばしていくことが重要
- ◆ 「学びに向かう力、人間性等」について
 - ・ 「友達の考えを認めたり」とは
 - ・ 友達の考えを聞くことで、自己の考えを深めたり、友達と良好な関係を築いたりすることを目指す
 - ・ 共生の視点から、友達の考えを認めることが加わった
 - ※ 運動に意欲的でない児童への配慮について取り上げた

- ◆ 指導内容について
 - ・ 技の系統性について
 - 小・中・高等学校と系統性をもった指導が可能になる
 - 基本的な技と運動遊びの関係性も明らかになる
 - ・ 運動が苦手な児童への配慮の例について
 - 配慮の例として挙げられている運動遊びは、その運動（技）に必要な能力や体の動かし方を身に付けるために非常に重要
 - 場の設定を工夫する際の参考にもなる

- ◆ 「思考力・判断力・表現力等」の指導内容の例示について
 - ・ 今回の改訂で、新たに具体的な例示が示された（思考力・判断力・表現力等を育むための指導のヒント）

- ◆ 運動に意欲的でない児童の例について
 - ・ 性別、運動の得意・不得意、障がいの有無にかかわらず、全ての児童が楽しく体育に取り組めるようにすることが重要

評価について

- ◆ 指導内容→ 評価の観点
 - 知識及び技能→ 知識・技能 ○ 思考力・判断力・表現力等→ 思考・判断・表現
 - 学びに向かう力、人間性等→ 主体的に学習に取り組む態度

- ◆ 指導と評価の一体化について
 - 学習指導と評価を一体となっていくことが重要
 - P D C A サイクルの中で、指導したことを評価し、次の指導に役立てる
 - 児童のよりよい成長を目指す（全ての児童が概ね満足の状況になるよう指導していくことが重要）

- ◆ 評価の留意点
 - 「知識及び技能」の指導内容
 - ・ 評価規準の作成及び指導と評価の計画の作成に併せて、特に、知識及び技能では、各学年の例示をもとに、「できる」「できない」の評価ではなく、質的な変化を見取る評価が重要
 - 「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の指導内容
 - ・ 指導内容を整理し、単元を見通した上で、いつ指導し、いつ評価するのかを明確にすることが重要→ 評価規準の作成及び指導と評価の計画

体育・保健体育指導力向上研修より（平成30年度実施）

松浜中学校 阿部 健

【学習指導要領の改訂について】

私たちが想像できない、2030年の社会とそれ以降の未来のため、生徒はどんな力を身に付けていけば自分の夢に向かって自己実現できるのか。希望する職種に就いて生活していくか。

保健体育の独自の目標の柱があったが、どの教科でも統一された同じ柱になる。体育以外で学んだことは体育でも活きる、体育の授業も他の授業でも活かされる。ということが求められている。

【3つの資質能力】の中で

思考力・判断力・表現力等・・・一番大きなポイント

体育に限らず大事なポイント 他教科でも

数学の因数分解の公式、バレーのアタックなどは社会に出て実際には使わない。しかし、それらを学ぶ身に付けるプロセスでの試行錯誤してきた思考力・判断力、1人ではなく仲間とかかわりながら話しながら教え合いながら解決してきく力は、社会に出たとき生きてはたらく力になる。

大きな変換（180°）ではなく今までやってきたことを改善していく事が必要。アップデートしながら今までの授業の良さを活かしていく。

今回の球技にかかわらず他の単元でも実践していくことが大事である。

◎ 授業改善のポイント

運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わえる指導

- ・ 楽しく行い、身に付ける指導
- ・ 十分な運動量の確保
- ・ 運動が苦手な子供、運動に意欲的でない子供への指導
- ・ 発達の段階を踏まえた指導
- ・ 運動や健康についての課題解決のプロセス

◎ 3つの資質能力の柱 ※ 全教科

「知識及び技能」 「思考力・判断力・表現力等」 「学びに向かう力・人間性」

「学びに向かう力・人間性」・・・これについては他教科では具体的にかけない、従来態度としてみてきたもの。体育では仲間と協力、フェアプレーなど先生方は教えてきたことであり、これからも指導していく必要がある。

3つの資質能力を身に付けさせる、ためにそのために・・・

〈主体的・対話的で深い学び〉 という視点で授業改善が必要

必要感のある対話が大事・・・なんとなく作戦をたてるのではなく、「何のために・・・」、「勝つためには・・・」という、生きて働く力につなげるような、対話を設定するような設定が必要である。

新潟市中学校体育指導者講習会 資料

1 実技講習

【バレーボール】

○ 異校種から学ぶ- 系統性を踏まえた指導内容

・ 小学校から高等学校までの12年間を見通す。

- ・ プレルボール
- ・ マシュミントン



○ ウォーミングアップ

- ・ キャッチボール

片手で

両手で

ワンバウンド- オーバーハンドで直上キャッチ

アンダーハンドで直上キャッチ

- ・ オーバーハンドパス
- ・ アンダーハンドパス
- ・ ネットを挟んで対人パス ← 「体ほぐしの運動」の趣旨を活かした学習指導

○ 試しのゲーム- 生徒に苦手意識をもたせないネット型の指導の工夫

「共生」: 男女差, レベル差, 障がい

- ・ 課題の発見・・・ゲーム記録用紙の活用
- ・ ファーストキャッチあり... 相手コートから返球された最初のボールをキャッチしてつなげる
(レシーブキャッチ) ※ ボールを持っている時間はなるべく短く
- ・ セカンドキャッチあり... レシーブ後の2回目をキャッチしてつなげる。

(セッター役がキャッチ)

○ チームの課題設定, 個人の課題設定

→ チームの課題に合った練習方法の選択

「3つの資質・能力」のうち, 「思考力・判断力・表現力等」← 一番大きなポイント
資質能力を身に付けさせるために〈主体的・対話的で深い学び〉という視点で授業改善が必要。

アクティブラーニング... なんとなく作戦を立てるようなものではなく, 何のための作戦なのか, 勝つために必要な作戦とはなど, 必要感のある対話が大事。

○ 練習方法の選択- 思考力, 判断力, 表現力等

(2) 攻防などの自己の課題を発見し, 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

〈例示〉 提供された練習方法から, 自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶこと。

【練習方法の提示例】

狙った場所にアタックしよう!

アタッカーはネットから1m程度離れた場所に立ってボールを投げよう!

トスがあがりたらすぐ落下点に入り, のような相手の弱いスペースを見て, 狙ってアタックしよう!

練習方法
「アタック練習」

用意するもの
ボール1つ

やり方
①は足に山なりのボールを投げ上げる
②は, 届かないエリアを狙って返球
③は返球されたボールをキャッチできれば1点

相手のいないところを狙ってアタックして得点につなげよう!

落下点に入ろう!

アタックはネットの1m後ろでボールを上げて落ちてくるタイミングに合わせて落下点に入ろう!

トスは速くかつ前で落ちてくる位置に入ろう!

練習方法
「ネット付近でのキャッチボール」

用意するもの
ボール1つ

やり方
①はネット(ヒモ)より3m下がったところから山なりのボールを両手で投げ上げる
②はボールをおでこの前で両手でキャッチ
③は「トス」(ヒモ)の間に高いボールを投げ上げる
④はそれを落下点に入って手を伸ばした位置(くらいの高さ)でキャッチ
落ちてきたら手を引くのがいい

ボールをより扱いやすくするために落下点に素早くはいれるようにしましょう!

トスのコツをつかもう!

右足(左足)をトスを打つ方向に向ける
ボールに触る前に右足を引いてトスを打つ

落下点(ボールの真下)に入る

※同時にオーバーハンドバスのコツも意識しよう!

高い(3mくらい)のトスを意識しよう!

アタッカーに良いトスを供給して得点に結び付けよう!

アタックしやすいトスを上げよう!

1がアタッカーの打ちやすい位置にボールを上げる

①はネットに出す, ②はアタッカー2の後ろのエリアに行く
③のようにネットに近づくと, アタッカーのいる少し前に, 高さ(3mくらい)上げられるようにしましょう!

練習方法
「ネット(ヒモ)越しのトス」

用意するもの
ボール1つ

やり方
①は足に山なりのボールを投げ上げる
②はトスを上げる人の斜め前方で待つ
③は足へネット(ヒモ)を越えさせる, ④の待つ少し前へ落とす
⑤はそれを落下点に入ってキャッチ

アタッカーが打ちやすいトスを上げられるようにしましょう!

オーバーハンドバスのコツをつかもう!

肘と膝は曲げてリラックス!
ボールの真下に入ろう!

ボールを触るのではなく包み込むように捉えよう!

おでこの前でボールを触る

上記のコツを意識しながら練習してオーバーハンドバスマスターを目指そう!

相手の得点を防ごう!

相手のアタックを防ぐためにボールを高く上げる

①はボールを高く上げる, ②はボールの真下に立ち位置を固定して待つ
③はボールを高く上げる, ④はボールの真下に立ち位置を固定して待つ

両方と連携をとりながら, のような位置が重なる時, スペースをカバーし, 高さ(3mくらい)上げてボールを打つ

練習方法
「ネット(ヒモ)越しのキャッチボールゲーム」

用意するもの
ボール1つ

やり方
相手コートに相手の下で返球を行う
返球されたボールはオーバーハンドバスでキャッチする

相手コートにボールを落とすことができれば1点
点が入る毎に待っている人と入れ替わる
慣れてきたらオーバーハンドバスで行う

1シーンス時に素早く立ち位置を見つけて得点を防ごう!

- 振り返り

【バドミントン】

- ペアで練習
- ダブルスで試しのゲーム
- 練習方法の選択
- 3対3のゲーム ← 「共生」負担の軽減



【練習方法の提示例】

サーブを決めよう！！

オーバーハンド・ロングサーブ向き

体の斜め前で打つ

アンダーハンド・ショートサーブ向き

軽くラケットにあてる

練習方法

用意するもの
・フラフープ4つ
・コーン1本

- ・反対側のコートの対角線にサーブを打つ。
- ・4隅に置かれているフラフープを打って打つ。
- ・反対側のコートにおかれているコーンを相手に見立てる。

4隅に打ち分けよう！

ハイクリアで遠くに飛ばそう！！

トスは体の前から肘を伸ばす

うちわをあおぐように振る

練習方法

用意するもの
・コーン 赤・黄の各色1本
・フラフープ 6つ

- ・Aがシャトルをあげる。
- ・Bがハイクリアで反対側のコートに打つ。
- ・フラフープに打ち込むことが出来たら得点。

距離を伸ばして高得点を狙おう！

スマッシュを決めよう！！

ラケットの面が少し下を向く

おでこの上で強く打つ

練習方法

用意するもの
・コーン 赤・黄の各色2本

- ・Aがシャトルをあげる。
- ・Bがスマッシュで反対側のコートに打つ。

楯を狙って高得点を獲得しよう！

ドロップを相手の前に落とそう！！

楯の少し前で打つ

楯の裏は少し短く

練習方法

用意するもの
・ビニールテープ 赤・黄の各色2本

- ・Aがシャトルをあげる。
- ・Bがドロップで反対側のコートに打つ。

高得点のエリアに落とせるようにしましょう！

□ 場やルールの設定

- ・柔らかで軽量のボール
- ・コート of 広さ, ネットの高さ
- ・プレイする人数
- ・キャッチあり

□ 対話的な学びを深める学習資料

- ・学習カード
- ・ICT機器
- ～運動観察の記録に基づく課題の発見と解決
- ・技能の名称や行い方, 練習方法に関する資料

2019年度 新潟市小学校体育指導者講習会 資料

幼児の運動遊びの指導について

学校支援課 指導主事 門倉 純一

1 幼児の運動遊びの捉えについて

別紙 プレゼン資料参照

2 実技伝達内容について

(1) 道具を使わない運動

- ① 仰向けになって転がる → 雷がきたぞ どうする？
子どもは考えてへそをいろいろな姿勢で隠す。
- ② 2人組の動き
 - ・手をつないで1人ずつ 立つ, 座る, 立つ
 - ・手をつないで2人ずつ
 - ・なべなべ底抜け 手を上に回す 手を下に足に通す
 - ・お地藏さん倒し あぐら姿勢の人を倒す
 - ・うつぶせ戻し 1人が裏返しにする
- ③ おにごっこ
 - ・じゃんけん追いかけてっこ 勝ったら逃げる 負けたら追いかける
歩いて逃げる せまい所でお尻歩き
 - ・くも歩きおにごっこ
 - ・ガッチャンおに (三色だんごおに)
立って
座って
 - ・ねことねずみ
手をつないで円をつくって 中にねずみを入れる
 - ・子捕ろおに
1列になって先頭が列最後尾の子を鬼から守る

・漁師と魚

「網投げた」

手をつないでできた網をすりぬける魚になって
捕まったら網（おに）

(2) 道具を使った動き

① 新聞紙を使って

- ・先生の新聞紙の動きを真似して動く
（ ひらひら 折る 広げる など ）
- ・ちぎってキャッチ（その場で）
（走りながら）
- ・新聞紙の形を変えて遊ぶ
ボール
リング
棒
どのようにしてあそべるかな？

② 風船を使って

- ・棒で突いて
- ・はじく 回る はじく 繰り返し
- ・膝にはさんで歩く

★ 風船にガムテープを隙間なく巻くと、扱いやすいボールになる！

- ・1人で上に投げてキャッチ
- ・2人で

上に投げてキャッチ

転がして止める

足で

膝で

お尻で

背中で

肘で

額で

他 いろいろ

転がす人が、転がすときに止める部位を指定する

- ・投げる

フープの中にバウンドさせて相手にパス・・・ゲーム

→ ネット型ゲームにつながる

※ 2対2でもできる

③ なわを使って

- ・ストレッチング

- ・なわで形を作る 周りを飛び回ろう
 - 片足で, 両足で
 - 三角おにぎり
 - 四角食パン
 - △ □ を作って お散歩しよう
 - 先生の指定したところに集まれ

- ・3人組 なわ1本の動き
 - ジグザグとび
 - なわによろによる (よこ)
 - なわによろによる (たて)

- ・3人組 なわ2本の動き
 - バンブーダンス (歌は自分たちで考えよう)

- ・長なわで円を作って中に鬼を入れるおにあそび
 - おにはサークルから出ようとする

④ フラフープを使って

- ・回してキャッチ
 - 1人で
 - 2人で相手のフープキャッチ
 - 相手の回っているフープを周って自分のフープキャッチ

- ・あんたがたどこさ 「さ」のときは前後 フープをとぶ
 - 1人で
 - 2人で同時に
 - 「さ」のとき前に出て後ろに戻らないバージョン

- ・セブンロープ
 - 4チーム 自陣に3つのなわを集めるゲーム

3 運動遊びで大切なこと

- ★ 遊びを自己決定できる要素を作る。教師が指示は必要最小限にする。
- ★ 資質・能力の育成をねらって、これらの動きをどのように組み合わせて子どもと楽しむか・・・ストーリーを作ることが大切である。

1

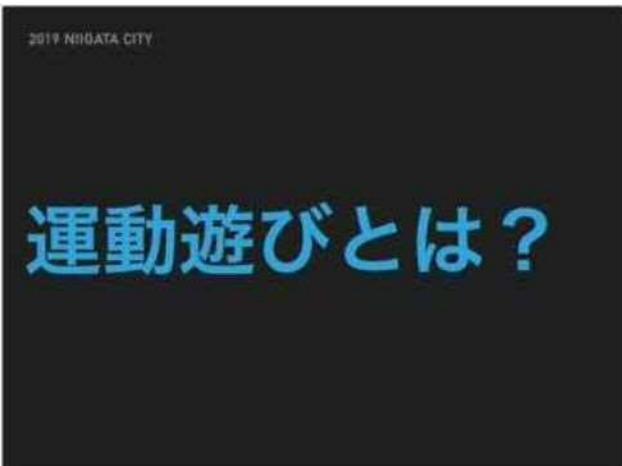


2

本研修の重点テーマ

幼児期運動指針に基づいて、発達の段階に即した幼児からの体を使った遊びを通して、**運動遊びの楽しさを味わう**とともに、**多様な動きを経験し**適切に幼児期に育みたい基礎的な動きを身に付けることができるようにするための指導の在り方を検討する。

3



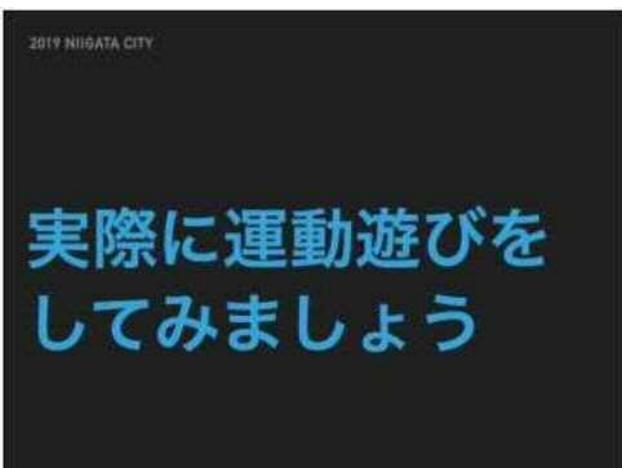
4

遊びとは

自己決定と有能さの認知を追求するために内発的に動機づけられた状態

- ①「指導理念」
 - 自己決定
自分らしく行動する、自分らしさを育み、個性を育て、**自立した人間を育てること**
 - 有能さの認知を追求
様々な可能性を実現させ、自己の能力を向上させること
- ②指導実践
子供が自己決定的に運動するように**援助**

5



6

遊びを指導するとは

遊び専業 低 (自己決定 少)	遊び専業 中 (自己決定 中)	遊び専業 高 (自己決定 高)
ひとつのやり方を指示して行わせる 「パラソクをこっぴて目指して決ら ないようじ遊びましよう」	高さの違う一本塔をこ本用とし、 向き向いて遊ぶ。(わたり方指 示、 どちらを選るか子ども決める こと)	どちらの一本塔を選んでもよく 向き決定、どんなわたり方でも 良い(自己決定)
一本塔 高さはひとつ	一本塔 高さは選べる	一本塔 高さは選べる
全員このやり方	全員このやり方	わたり方はいろいろ

7

多様な動きとは

①いろいろな種類という意味の**多様さ**
(レパートリーの多様さ)

②ある基本的な動きに変化を加えた**多様さ**
(バリエーションの多様さ)

↓

(1)動きを引き出す環境の工夫
(2)保育者のかかわりと指導

8

遊びを指導する
→子どもの自己決定を
高めること

東京学芸大学 吉田伊津美 教授

9

幼稚園での運動遊び指導～重視する事項～

- 1 幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにする
- 2 遊びを通しての指導を中心とする
- 3 幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行う

↓

自由（遊び）保育や一斉保育など様々な場面（活動形態）において、教師は、ねらいをもとに遊びとしての運動の指導を行う。

10

■ 幼児期の発育発達の特徴及び基本動作の発達

行動体力 — 防衛体力

行動を起こす能力 — 行動を持続する能力 — 行動を調節する能力

多様な動作の体験・習得

- 移動運動の技能
- 基本運動の技能
 - スポーツ的、ゲーム的活動の技能
 - 日常生活・仕事の技能
 - 表現の技能

11

■ 幼児と小学校・中学校・高等学校の体育科、保健体育科上のかわり

児童の特性に応じて遊びの環境づくりの充実・拡充を図る

普通科の授業のまとまりを踏まえた授業内容の体系化

幼稚園	小学校	中学校	高等学校							
3～4歳	4～5歳	5～6歳	1～2年	3～4年	5～6年	1～2年	3年	入学 年次	高校 1年	それ 以降
心身の認知のとれり発達の基本を築く時期	様々な動きを身に付ける時期	多くの運動を体験する時期	自分に合った運動を選び始める時期	様々な動きを身に付ける時期	多くの運動を体験する時期	自分に合った運動を選び始める時期	自分に合った運動を選び始める時期	自分に合った運動を選び始める時期	自分に合った運動を選び始める時期	自分に合った運動を選び始める時期
<p>遊ぶく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。</p> <p>自分の体を十分に動かして、遊んで運動しようとする。</p> <p>健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、意識しをもって行動する。</p>	<p>様々な動きを身に付ける時期</p> <p>様々な動きを身に付ける時期</p> <p>様々な動きを身に付ける時期</p>	<p>多くの運動を体験する時期</p> <p>多くの運動を体験する時期</p> <p>多くの運動を体験する時期</p>	<p>自分に合った運動を選び始める時期</p> <p>自分に合った運動を選び始める時期</p> <p>自分に合った運動を選び始める時期</p>							
	<p>走、跳、投、蹴、投げ、つかまりつき、つりつき、つりつき、つりつき</p> <p>走、跳、投、蹴、投げ、つかまりつき、つりつき、つりつき、つりつき</p> <p>走、跳、投、蹴、投げ、つかまりつき、つりつき、つりつき、つりつき</p>									

※ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、意識しをもって行動する。

保健体育科 保健体育科 保健体育科 保健体育科

1 研究主題 できて・わかり・動きを「つなぐ」体育授業を目指して（1年次）
～6年間の系統性を意識した授業づくり～

2 研究主題の設定の理由

体育科におけるこれまでの課題は、既習の技能習得が学習者によって様々であり、扱う運動教材によっては、共通の学習課題の設定が困難になることである。また、指導者によって目指す学習内容の到達度にも差があるとなると、更に既習の知識及び技能に「格差」が生じてしまう。これらのことから、昨年度までの成果である「できて・わかる」子どもの姿の育成に加え、運動領域ごとの系統性に視点を置いて6年間の学びを捉え直し、更に学習内容の重点化を図ることによって、段階的・計画的に知識及び技能を身に付けさせる体育授業を目指した。そうすることで、6年間を通した学びの「道筋（スタンダード）」が構築され、新潟市独自の新しい体育授業への提案となるであろう。

今年度は、これまでの成果である「単元内における既習（動きや知識）の関連付け」を学年部間・単元間へと拡大し、系統的に有効性のある既習の知識及び技能の「精選」、それら重点化された内容の確実な習得を可能にする「学びの道筋の創造」を目的とした。

3 研究の内容

(1) 今年度研究の重点課題

○ 6年間を貫く「系統的な学び」の創造

○ 既習の知識及び技能における「精選と重点化」

昨年度までに明らかになった既習の知識及び技能を「生かす」ことをベースに、6年間の学びをどのようにつなげていくべきか、またその場合、絶対に外してはならない内容は何か、について明らかにしていくこととした。そのために、次の2点について重点を置いた授業づくりに取り組んだ。

① 6年間の学びの道筋「3本の矢」の創造

6年間を見通した一つの授業構想モデルである。これまで、授業づくりをするときに必ず弊害になってきた学習者のレディネス。これを発達段階ごとにある程度揃えることができたなら、また、到達度が保障させられたら、という考え方が出発点である。つまり「最低限、身に付けさせておかなければならない知識及び技能は何か」、授業実践を通して明らかにしていこうと考えた。そうすることで、これまで以上に主体的に動き出す学習者を培うことができるのではないか。

② 指導内容の系統性の整理と重点化

新COS体育科改訂の趣旨及び要点にある「指導内容の系統性を改めて整理し、領域における指導内容の重点化を図ること」を具現しようと考えた。組織の機能性を活用し、多くの領域、またその中の発達段階ごとにおける、重点化すべき指導内容の「精選」に挑むこととした。多くの指導内容において、それらを短い単元の中に押し込むことがこれまで散見された。しかしそれでは、学習者にとって負荷が多く、結果的に「何を学んだのか」「何が身に付いたのか」が不明瞭になってしまっていた。これらのことから、6年間のスパンで学習者に身に付けさせるべき「動き」に焦点をあて、それぞれの発達段階において身に付けさせる「知識及び技能」を明らかにしていくことにした。

(2) 重点課題解決の具体

この研究方法は、これまで「必ずやっていたように見えて、触れにくい部分」であった。学級経営の長い年数に渡って担任することが難しいためレディネスが把握しづらい。また、年度末にどこまで高めておかななくてはならないかについても不透明であった。それらを改善するため、どの学校でも・どの集団での・どの教師でも、ある一定のゴール（目指す子どもの姿像）が必要であるという、これまでの課題からきているものである。

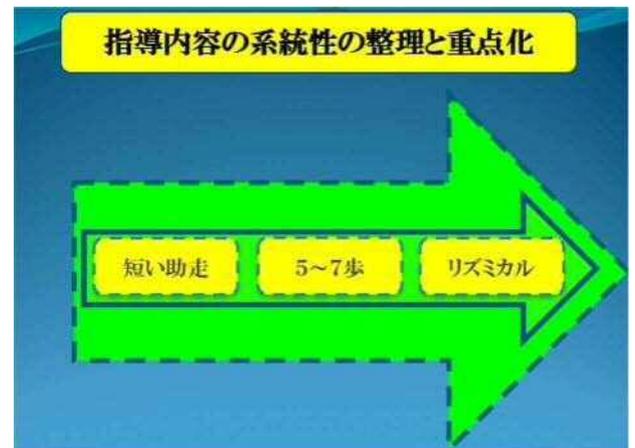
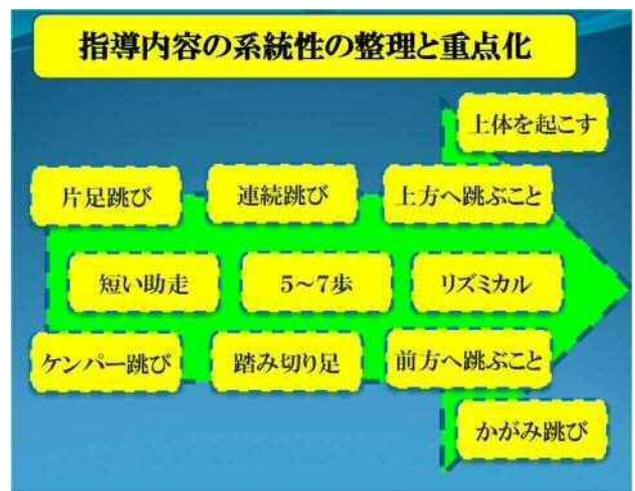
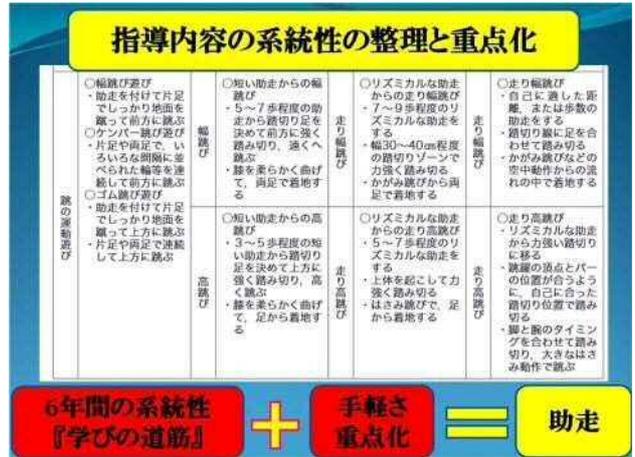
新 COS には、右図のような「系統表」が示されている。これらを2年間のスパンで効率的かつ確実に身に付けさせることは、決して簡単ではない。そのために、いかに学習内容を整理し、精選し、重点化を図るかがカギとなる。また、誰が指導しても技能習得に大きな差が出過ぎないような「効果的な指導」が求められる。

そのため右図のように、まず、6年間で身に付けさせたい「知識及び技能」を洗い出し、どの発達段階で、どのような学習プラン（学びの道筋）を構想するとよいかを考える。そのときは、会員の経験と知識、何より学習者の実態を勘案し、妥当性・適切性・有効性等、多面的な見方を働かせることが必要になる。

更に、学習内容の定着度（既習事項だが技能習得の差が大きい等）を議論することを通して、6年間を通して身に付けさせる内容を重点化していく。そうすることで、ミニマムが明確化され、「これだけは外せない学習内容」を保証することが可能になると考えた。これまでの授業では、前年度の学習内容の定着が不十分で、その学年の学習内容が全うできないことがあった。そこで今年度は、右図のように、学習内容を系統的に整理し、6年間を通して重点化することを絞り込んだ。

(3) 研究の実際

7月の授業研究は、研究推進委員が行った。これは、12月のグループ授業研究に向け、土台となる「3本の矢」を示すためであった。6年間の学びの道筋を構想するためには、学習者の困り感を基にした、ある程度の指導内容の絞り込みが必要であった。また、6年間を見通すには、それぞれの学年部との接続、動きの発展性や汎用性を吟味する必要があった。これまでの研究では扱えなかった部分である。今年度の研究では、それらをあらかじめ研推より提案した上で、それぞれ低・中・高のグループにおいて「どの動きをどこまで高めてバトンタッチするのが妥当か」を、数多くの授業実

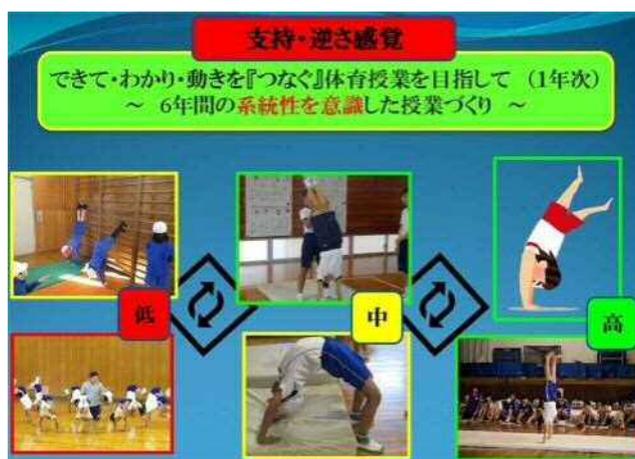


実践や小グループでの検討やシミュレーション等を重ね、3本の矢を柔軟に修正していくことであった。また、3回のメール配信による協働的授業づくりを導入し、継続的に授業者に寄り添うグループ研修を実施した。

12月においては、7月から修正・改善を重ね、協働的に作成してきた「3本の矢」を基に、本時のプランニングやシミュレーション、教材づくり等に取り組んできた。授業者だけが授業を創るのではなく、担当研推を中心に、グループ全員で主体的な授業づくりを展開できた。それぞれの協議会を基に、来年度の領域や運動教材等について、研推で検討したい。

6月	全体研修	「研究計画の説明」「質疑応答」			
7月	提案授業	3年 表現（表現）	万代長嶺小学校	鈴木健太郎	教諭
		5年 器械運動（マット運動）	葛塚小学校	本間 伸吾	教諭
		6年 陸上運動（走り高跳び）	結小学校	塩田健太郎	教諭
		6年 ボール運動（フラッグフットボール）	小針小学校	三本 雄樹	教諭
8月	全体研修	「教育課程研修」「低・中・高各2年間の学びの道筋の検討」「公開授業の構想説明」			
11月	全体研修	「ブロック別 2年間の学びの道筋及び指導案検討」			
12月	授業研究	1年 マットを使った運動遊び（よじのぼり逆立ち）	竹尾小学校	内山 紗希	教諭
		4年 マット運動（壁倒立）	南中野山小学校	千葉 広靖	教諭
		5年 マット運動（補助倒立）	江南小学校	米山 陽	教諭
		2年 ゲーム（ボール投げゲーム）	越前小学校	武田 東佳	教諭
		4年 ゲーム（ハンドボール）	青山小学校	小瀬 保夫	教諭
		6年 ボール運動（ハンドボール）	真砂小学校	中川 あい香	教諭
		2年 表現リズム遊び（表現遊び）	浜浦小学校	大澤 一樹	教諭
		3年 表現運動（表現）	有明台小学校	山田 雄一	教諭
		5年 表現運動（表現）	笹口小学校	澤野 太郎	教諭
		2年 走・跳の運動遊び（高く跳ぶ運動）	新津第三小学校	田辺 久人	教諭
		4年 走・跳の運動（高跳び）	大通小学校	坂上 克也	教諭
		6年 陸上運動（走り高跳び）	亀田東小学校	小川 海輝	教諭
1月	全体研修	「講演会」 講師：沼垂小学校 須田 哲明 校長先生 山潟小学校 南 啓史 校長先生 新通小学校 伊比 宗宏 校長先生 「令和元年度の研究の成果と課題について」			

7月の提案授業研では、研究推進委員が今年度の研究主題に沿った6年間を見通した学びの道筋を示した。ブロックごとに領域・運動教材が違うが、ミニマムの精選の仕方や重点化し学年をまたぐ動きの絞り込み、そして授業構想の仕方等を示すことができた。今年度からスタートする主題であったため、6月の市小研の提案では不十分であった。6年間を見通して身に付けさせる動きのテーマを決定し、方向性を示した（右図）。



右図は、北・東ブロック低学年グループの実践である。このブロックのテーマは「姿勢の安定」。学習内容として、支持感覚と逆さ感覚を重点化して構想された単元の1時間である。高学年での補助倒立・補助倒立前転等を習得させるためには低学年から身体を支えること、支えながら移動することを重点化すべきという仮説に基づいている。





上図は、西・西蒲ブロックのボール運動系の実践である。このブロックのテーマは、得点をとるための動き、であった。発達段階によって、戦術的な理解（気づき）を「ボールやゴール→仲間→相手」へと広げていくことをねらったものである。戦術行動を交流活動で練り上げ、そのプランをゲームで試し、トライ&エラーをスパイラル的に繰り返す、戦術アプローチ授業の手法を用いた。



左上図は、江南・秋葉・南ブロック中学年の「走り高跳び」の実践である。テーマである「最後の3歩」のリズムを活用し、身体を上方へ持ち上げる動作を確実に身に付ける実践となった。右上図は、中央ブロック高学年の「表現」の実践である。テーマである「動きの差」をどのように表すかを、個と群の動きを比較したり、動きのデフォルメや速さの違いに着目したりしながら、動きを洗練させた実践となった。

4 成果と今後の課題

(1) 成果

- 「3本の矢」の創造によって、6年間を通して継続的・重点的に指導する「動き」が存在し、運動教材に限らず、その領域での礎になり得ることが示唆された。
- 新COSの系統表と関連付けながら指導内容の整理、精選による重点化を図ることで授業がより洗練される。

(2) 課題

6年間を見通す学びの道筋づくりには、特に各学年の接続期の設定が難しい。運動感覚や動きづくり、技の完成度等、「どこまで求めるか＝スタンダードをどこに設定するか」が、どのブロック・グループにおいても議論の核となった（価値が認識できたことでも意味深い）。無論、学習者のレディネスに基づいた単元構想が第一だが、そもそも単元前の学習者のレディネス自体が妥当かどうか...、私たち自身、求める子ども像を知らず知らずのうちに引き下げているのでは...等、これまでの授業づくりに懐疑的に捉え、斬新な視点を追い求め、来年へとつなげる。

北・東ブロック 授業実践

【単元名】 第5学年「目指せ！きれいでダイナミックな組み合わせ技！」

(E 器械運動 ア マット運動)

【授業者】 葛塚小学校 教諭 本間 伸吾

0 6年間の『学びの道筋』（3本の矢）について

マット運動は、「接転技（前転・後転等）」「ほん転技（側方倒立回転等）」「平均立ち技（倒立等）」の3つに分けられる。3つの中で全てに共通するのが「姿勢の安定」と捉え、それを身に付けるために、「平均立ち技」を中心に取り組む。自分の体を支えやすい低学年から多様な姿勢を保つ運動を多く取り入れることで、腕支持・逆さ感覚をつかみ、姿勢を安定しやすくする。この「姿勢の安定」がマット運動の様々な技につながっていくと考える。

1 児童と単元の指導構想

実態把握を行った事前調査（壁倒立32人中13人達成、平均立ち技が得意と答えた児童32人中8人）から、平均立ち技を苦手にする児童が多いことが明らかになった。腕支持感覚や逆さ感覚が身に付いておらず、逆さに対して怖がる姿が見られた。だからこそ、本単元で補助倒立を扱い、姿勢の安定を身に付ける必要があると考える。

そこで、本単元のゴールを「きれいでダイナミックな組み合わせ技を行うこと」とし、平均立ち技で身に付けた「姿勢の安定」を他の技に活用することができるようにする。そうすることで、回転の際に倒立姿勢を保ったきれいな側方倒立回転や腕支持がしっかりと安定したダイナミックな跳び前転などにつながると考える。また、平均立ち技では、簡単な技（壁登り逆立ち、頭倒立、壁倒立など）を段階的に行いながら、着実に身に付けていけるようにする。

2 本時の実際（4／6時）

（1）本時のねらい

補助倒立について、補助倒立の時間が長くなるために高め合いながら取り組む活動を通して、蹴り足の勢いの調整と上半身の締めの大切さについて理解し、安定した補助倒立をすることができる。

（2）本時の構想

本時では、安定した補助倒立に取り組む授業を行う。本時における「安定した」とは、補助がしやすくなるように蹴り足の勢いを調整し、肩を手の真上に乗せてお腹に力を入れている姿（手→肩→足が一直線になっている）を示す。まず、壁倒立とは違った2つの困り感を確認する。一つ目は、勢いの強弱が大きすぎると補助がしづらいこと、二つ目は、上半身の締めが十分でないと姿勢が崩れてしまうことである。既習として積み重ねてきた蹴り足の勢いの調整と上半身の締めの大切さに気付かせたい（手立て①）。そして、補助倒立の時間を測定する場を設けて、より長く補助倒立ができるようにグループでアドバイスを出し合ったり、何度も試技に取り組んだりさせ、安定した補助倒立が定着できるようにする（手立て②）。また、やさしい場（壁登り逆立ちから補助してもらおう場など）を設定し、補助してもらった後の上半身の締めに重点を置くようにする。そして、時間の測定を得点化して（2人補助＝秒数＋0点、1人補助＝秒数＋5点、1度も壁に触れない＝秒数＋10点）、全員が上半身の締めを身に付けることができるようにしたい。

（3）展開

学習活動	働きかけと児童の反応	留意点(○)評価(◇)
1 補助運動 〔5分〕	○感覚づくり運動 手押し車・かえるの足打ち・動物走りなど	
2 学習課題の 設定〔5分〕	T1 前の時間で補助倒立に取り組んだとき、困っている人がいました。どうすればよいかな？ 【手だて①】前時の困り感に合わせた動画（示範）の提示	○ 2つの動画（示範） 提示→○勢いがよすぎる○上半身が崩れている

	<p>C1 振り上げた後、腕が曲がって、上半身が崩れてしまった。</p> <p>T2 どうすれば解決できそうかな？</p> <p>C2 肩を手の真上、お腹に力を入れるができていなかったのかな。</p>	<p>○ 単元を通して振り足を「1の足」、蹴り足を「2の足」と呼ぶ。</p> <p>○ 既習を想起させる声掛け(掲示物, 示範)</p>
3 試す まとめ 〔13分〕	<p>T3 実際に試してみましょう。</p> <p>T4 (試しの活動後)話し合ったことや試したことで補助倒立ができるポイントをまとめましょう。</p> <p>□まとめ 足を上げる勢いを調整し、肩を手の真上に乗せて体を支える(お腹に力を入れる)とよい。</p>	<p>○ 補助の方法</p> <p>◎ 1の足側に立つ。</p> <p>◎ 1の足→2の足の膝近くをもつ。</p> <p>◎ 両手で膝近くをもって固定する。</p>
4 活動 〔15分〕	<p>【手だて◎】補助倒立の時間を測定する場</p> <p>T5 「足を上げる勢いを調整すること」「肩を手の真上に乗せて体を支えること」を意識して補助倒立に取り組みましょう。</p> <p>C3 肩を手の真上に乗せられるように、着手の姿勢を友達に見てもらおう。</p> <p>C4 上半身の力を入れるようになったら、前より補助倒立の時間が長くなった。</p>	<p>○ 補助倒立の時間の測定→グループの合計,前時との比較,秒数に得点を加算の3点で測定。</p> <p>○ 場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足にマットを重ねる場 ・壁登り逆立ちから補助してもらう場 <p>◇安定した補助倒立(観察)</p>
5 振り返る 〔7分〕	<p>T6 体育ノートに今日の振り返りをしましょう。</p> <p>C5 今までの倒立と同じように、上半身の力を入れることが大切だと分かった。たくさん練習して、前より長く補助倒立ができるようになった。</p>	<p>◇安定した補助倒立(体育ノート)</p>

【評価】A：10秒以上、安定した補助倒立ができる。

B：安定した補助倒立ができる。

3 成果

- ・「壁登り逆立ち→頭倒立→壁倒立→補助倒立」という学びの系統性を意識して授業をすることで、既習が生かされた。
- ・単元を通して、着手からの試技を重ねることで上半身の姿勢の安定が身に付いている児童が多かった。
- ・「壁登り逆立ちから補助してもらう場」の易しい場が設定されることで、成功体験を積み重ねることができていた。



4 課題

- ・時間測定のボーナス点を狙うために、無理に1人補助をしているグループがあった。本来の補助の大切さ(倒立姿勢を安定させる)をしっかりと身に付ける必要があった。また、上位の児童に対して「立位からの補助倒立」などレベルアップの場も必要だった。
- ・よい倒立状態のイメージが全体に共有されていなかった。「補助する側」「補助される側」の関係が大切であり、そこからよい関わり合いが生まれる。お互いが、よい倒立状態のイメージを共有する必要があった。
- ・単元を通して、「平均立ち技」と「接点技」「ほん転技」との関連を明らかにする必要があった。



1 児童と単元の指導構想

事前の実態調査では、かえるの足打ちで、腰より高い位置に足を上げて足を打てた児童が7/23名、できなかった児童が16/23名であった。初めてやるという児童がほとんどだったが、怖がらずに挑戦する姿が見られた一方で、腕が曲がっていたり、体の締めができていなかったりと、逆さになる経験が少ない様子が伺えた。そこで、本単元ではジャングルに住む動物になりきって冒険していくという設定で授業を進め、楽しみながら様々な動きを経験できるようにする。そして、締め感覚や腕支持感覚、逆さ感覚などの運動感覚を身に付けさせていく。

2 本時の実践（5/6時）

(1) 本時のねらい

壁登り逆立ちについて、スカンクのような逆さの姿勢になるためのポイントを見つける活動を通して、腕をまっすぐにすることや身体に力を入れることで安定した動きになることを理解し、身体に力を入れた腰より足が高い腕支持ができる。

(2) 本時の構想

- ・逆さになるためのポイントに気付かせるために横断児童と写真を比較させる。(腕・腹・足)
- ・楽しみながら挑戦できる場、苦手な児童でもスモールステップでできる場を用意する。

(3) 展開

学習活動	主な教師の働きかけ・児童の反応	■評価・○留意点
1. 補助運動 (7分)	T1 準備運動（くま歩き、あざらし歩きからのアメンボ、コンパス、かえるの足打ち）をしましょう。	○動きのポイントを確認しながら、活動させる。
2. 実際に動いてみる(3分)	T2 今日はスカンクになってもらいます。スカンクは、逆立ちをして敵を脅かしていました。初めての逆立ちなので、壁登り逆立ちでスカンクになりましょう。	○壁登り逆立ちのやり方を説明・示範する。(顔の向き)
3. 学習課題の設定(3分)	T3 スカンクのような逆立ちができましたか。 ◎ スカンクのような逆立ちをするには、どうしたらいいかな。	○児童の困り感を焦点化する。
4. 動きを試す(5分)	T4 スカンクのような逆立ちの人がいました。秘密は何でしょう。 【手立て◎】横断児童とうまくできていないイラストとの比較	○横断児童の動きを見せるとともに、うまくできていないイラストを提示する。
5. 試してみてもポイントをとめる(9分)	T5 秘密は何でしたか。 * 腕から足までピン、力をギュッと真っ直ぐになるといい。	○比較の時に、腕・腹・足にポイントがあることを確認する。
6. 活動する (13分)	【手立て◎】楽しみながら挑戦できる場、スモールステップでできる場 T6 ジャングルの中をたくさん冒険しましょう。腕ピン、力をギュッと5秒キープできたら敵が驚いて逃げていきます。ペアでお互いに数えましょう。	■腕支持をして、下半身を腰より高くあげることができる。(観察)
7. 振り返る (5分)	T7 今日の振り返りをしましょう。 ・腕から足までピンとして、力をギュッと入れると、たくさんできるようになって嬉しかった。	■逆さになるためのポイント(腕をまっすぐなことや身体に力を入れること)が分かる。(学習カード)

3 成果

[手立て◎について]

自分がどう動いているかわからないと言っていた児童がいたが、イラストを見せたことで、ポイントに気づき、体の部位を意識して運動する様子が見られた。

[手立て◎について]

色々な場があったことで、全部クリアしたいという意欲に繋がり、たくさん運動することができていた。苦手な児童でも、自分にあった場で繰り返し運動することで姿勢の安定が生まれ、壁登り逆立ちも怖がらずこやれるようになった。



4 課題

- ・子ども同士でできているか見合う判断基準について腕支持をしている秒数にしたが、動きのポイントを意識していない児童もいたので、写真の掲示があるとより分かりやすかった。
- ・壁登り逆立ちができるようになった児童が多かったので、マットにテープを貼り、体をより真っ直ぐにさせたり、壁逆立ちに挑戦させたりしても良かった。

1 児童と単元の構想

マット運動については、3年時に前転と後転、壁登り逆立ちを全員が経験している。実態把握を行った事前調査から腕支持感覚や逆さ感覚、体を締める感覚が十分に身に付いていない姿が見られた。そのため、本単元では、巧技系の平均立ち技の倒立グループの技を単元を通して取り扱うことが必要であると考え。そこで、本単元のゴールを「姿勢の安定した技の完成」とし、段階的に、ダンゴムシ倒立、頭倒立、壁倒立などに取り組み、腕支持感覚や逆さ感覚を身に付けるとともに、それらを生かして倒立グループの技を着実に身に付けていきたい。

2 本時の実際（4/6時※壁倒立に初めて取り組む時間）

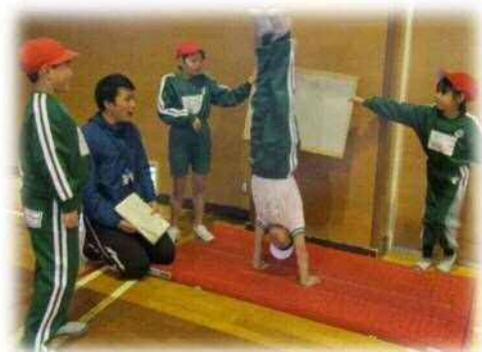
(1) 本時のねらい

壁倒立の足の振り上げについて、足の入れかえ運動を発展させた活動を通して、振り上げ足を勢いよく振り上げることや蹴り上げ足を強く蹴り上げることがポイントであると分かり、足を振り上げることができる。

(2) 本時の構想

- ・ 足の入れかえ運動から、足で壁にさわると動画を視聴
- ・ タッチ板を用いた場の設定

(3) 展開



学習内容	教師の働きかけ・児童の反応	指導の留意点(○) 評価(◇)
1 準備運動 (8分)	T1 準備運動をしましょう。 C1 片足くま歩き・手押し車・足の入れかえ	○倒立に必要な予備運動を準備運動で行う。 ○足の入れかえから、足で壁にさわると動画を見せる。 ○実際に運動を行う。
2 試しの運動 (3分)	T2 今日はこんな運動に取り組みます。 T3 できるかどうか試してみましょう。	
3 課題提示 (5分)	C2 どうやったらさわられるのかな。 ◎ 足の入れかえで壁をさわるとにはどうしたらよいか。	
4 動画の視聴 (6分)	T4 もう一度見本の動画を見てみましょう。 【手立て◎】動画の視聴	○足で壁をさわることができない児童には、タッチ板を使い、足を振り上げてタッチ板にさわるようにする。 ◇足を振り上げて壁をさわることができる。
5 まとめる (3分)	C3 足を速く上げればいいのか。	
6 タッチ板を用いた場での練習 (15分)	1の足を勢いよく振り上げて、2の足でマットを強くけりあげる。1・2と上げるとよい。 T5 タッチ板を使って、練習しましょう。 【手立て◎】タッチ板を用いた場の設定	
7 振り返り (5分)	T6 授業の振り返りをしましょう。	○足を振り上げる時のポイントを記入させる。

3 成果

- ・【手立て◎について】動画を視聴することで、目指すべきゴールの姿が分かった。また、足の振り上げに着目させながら、動画をスローで再生することで、意識すべきポイントを全体で共有することができた。
- ・【手立て◎について】タッチ板を用いることにより、壁まで足を上げることができない児童も目標をもち、意欲的に取り組むことができた。

4 課題

- ・ 勢いをつけるためには、どこに力をいれるのか、どのくらい力をいれるのかなど、困り感を抱いている児童の発言から、具体的な言葉でまとめることが必要であった。
- ・ タッチ板の材質や使い方について児童の実態に合わせたものを準備する必要があった。

1 児童と単元の指導構想

事前の実態調査では、壁登り逆立ちができた児童は29人中6人で、平均立ち技を苦手とする児童が多いことが分かった。器械運動の基本である締め感覚、逆さ感覚、腕支持感覚が十分に身に付いているとは言えないのが実態である。

本単元では、きれいでダイナミックな組み合わせ技を行うことを学習のゴールとし、単元の前半は回転系に重点を置き、後半は平均立ち技系に重点を置く。平均立ち技における中学年（壁倒立、頭倒立）と高学年（補助倒立）の系統性を考慮すると、振り上げ足や蹴り足の勢いを調整する感覚が学習課題になると考える。本時ではこの点を「わかる」ポイントとして取り上げる。

2 本時の実際（5／6時）

(1) 本時のねらい

補助倒立について、振り上げ足の強さに着目した活動を通して、上半身でしっかり支え、足の勢いを調整することの大切さについて理解し、安定した補助倒立をすることができる。

(2) 本時の構想

- ・振り上げ足の強さに着目させる2種類の図を提示する。
- ・出来映えのレベルと易しい運動の場を教える。

(3) 展開

学習内容	教師の働き掛けと予想される児童の反応	■ 評価・○ 留意点
1 準備運動【5分】	T1 準備運動をします。 C1 馬跳び・かえるの足打ち	○ 感覚づくりの運動を行う。
2 試しの運動【4分】	T2 前の時間までの学習を思い出しながら、補助倒立をしましょう。 C2 グループに分かれて補助倒立をする。	○ 壁に向かって着手してからの補助倒立をさせる。
3 学習課題の設定【5分】	T3 友達を補助してみて、困ったことはありませんでしたか。 【手だて①】 振り上げ足の強さに着目させる2種類の図の提示 T4 1の足はどうしたらいいと思いますか。 C3 AでもBでもなくて、ちょうどよい勢いでないとだめだよ。 学習課題 ちょうどよい勢いで補助倒立をするには、どうしたらよいか。 T5 では、実際に試してみましょう。	○ 補助者の視点からの困り感を出させることで、課題をつかませやすくする。 ○ 単元を通して振り上げ足を「1の足」、蹴り足を「2の足」と呼ぶ。
4 課題の検証とまとめ【12分】	T6 ちょうどよい勢いで補助倒立をするには、どうしたらいいですか。 まとめ 床を見ながら上半身でしっかり支え、足を上げる勢いを調整するとよい。	■ 安定した補助倒立（観察）
5 追体験からの習得と易しい場【12分】	T7 できるようになってきたという人とまだ自信がないという人に1つつ新しいポイントを教えますね。 【手だて②】 出来映えのレベルと易しい運動の場を教える ○ 出来映えのレベル ○ 壁に向かって二人で ○ 壁から離れて二人で ○ 補助者一人で	○ 易しい場では、壁登り逆立ちから太もも補助で倒立になる感覚をつかませる。 ■ 安定した補助倒立（観察）
6 振り返り【7分】	T8 学習カードに今日の学習の振り返りを書きましょう。	■ 安定した補助倒立（カード）

3 成果

- ・倒立姿勢をアナログ化するための補助として、「1の足の側に立つ」「膝を持ち上げる」など、ポイントに従った補助ができていた。
- ・本時は振り上げ足の強さについて考えさせたが、振り上げ足に着目させる前提として、上半身の安定が特に重要であることが見て取れた。



4 課題

- ・エバーマットへの背中からの倒れ込みを経験させるなど、補助倒立前転につながる動きや場の設定をすると、この先の見通しをもたせることができる。

中央ブロック授業実践

【单元名】 第3学年「お料理しましょ！」

【授業者】 万代長嶺小学校 教諭 鈴木 健太郎

0 6年間の『学びの道筋』（3本の矢）について

表現運動系における6年間を貫く学びの道筋を「動きの差」と設定した。

小学校学習指導要領解説体育編の表現運動系には、『「表現」における技能では、「ひと流れの動きで即興的に踊ること」と「簡単なひとまとまりの動きとして踊ること」が大切である。』と記述されている。『「ひと流れの動きで即興的に踊ること」とは、題材から捉えた動きを基に、表したい感じを中心として動きを誇張したり、変化を付けたりして、メリハリ（緩急・強弱）のある「ひと流れの動き」であり、「簡単なひとまとまりの動きとして踊ること」とは、表したいイメージを変化と起伏のある「はじめ—中—おわり」の構成をくふうして表現すること』とある。

これらのことから、表したい感じやイメージを表現する表現系の技能を身に付けるために「動きの差」が動きとして表れることと考え、以下のように構想した。

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
高低の差や速さの変化のある動きを身に付け、全身で踊る。	誇張と変化のある動きを身に付け、表したい感じをひと流れの動きで踊る。	変化と起伏のある動きを身に付け、ひとまとまりの動きで踊る。

1 児童と単元の指導の構想

児童は低学年時に、動物になりきる表現遊びを経験している。学級の児童は、お題を言うとすぐになりきる子、人の動きを見てから真似をする子、なりきり方が分からずに動けない子、音楽に乗って楽しく踊れる子、踊れない子と様々である。

そこで、本単元では、授業者の意図的な口伴奏とジェスチャーで全身を大きく使ったり大げさに表現したりする変化のある動きを引き出した後に、グループでひと流れの動きを表現させる。このような学習過程を毎時間繰り返し、題材の表したい感じを「誇張のある動き」で踊ることを目指す。

2 本時の実際（3／4時）

（1）本時のねらい

ハプニングをいくつか体験することを通して、表したい感じを出すための工夫がわかり、動きに変化を付けることができる。

（2）本時の構想

本時3時間目までに、授業者がひと流れの動きに動きの差が表れるように口伴奏やジェスチャーでハプニングを起こしてきた。児童は授業者の言葉や動きからポップコーンやタコなどになりきるための動き方について動きながら考え、小⇄大、柔⇄硬の動きに差をつけて踊ることができた。

3時間目は、1、2時間目と同様に、カレー作りという題材のひと流れの動きの中でいくつかのハプニングを、口伴奏とジェスチャーで動きの差を引き出す。遅⇄速の動きの変化が分かる姿を価値付け、動きに変化を付けるとより表したい感じが出せることに気付かせる。授業終盤では、グループの中からハプニングを促す指示役を立て、カレー作りのひと流れの動きを表現させる。



手立て：口伴奏とジェスチャー

(3) 展開

学習内容	主な教師の働きかけ・児童の反応	指導の留意点(○) 評価(◇)
1 学習課題をつかむ	<p>T 1 カレー作りで煮られている具材の様子を表そうと思っているのだけどできるかな。</p> <p>C 1 具材が煮られている様子ってどう表すの。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎ カレー作りの具材の様子を表すにはどう動けばいいかな。</p> </div>	<p>○ カレー作りの写真「切った具材→なべで煮る→完成」の写真を提示する。</p>
2 急変する動きを体験する	<p>T 2 煮るところを工夫ができないかな。</p> <p>C 2 強火のときって、具材は熱そうだね。</p> <p>C 3 かき混ぜる時って、ゴロゴロ動くといいかな。</p> <p>T 3 では、カレー作りをやってみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ひと流れの動きにいくつかのハプニングを入れた踊りを体験させる。</p> </div> <p>C 4 弱火では小さく跳ねて、強火では大きく跳ねてみよう。</p> <p>C 5 右にかき混ぜたから、右に回ろう。</p> <p>T 4 どんな動きができましたか。</p> <p>C 6 小さく跳ねたり大きく跳ねたりしたよ。</p> <p>C 7 右や左に動いた。</p> <p>C 8 ゆっくり動いたり速く動いたりしたよ。</p> <p>T 5 ハプニングを入れてグループで表現しましょう。</p> <p>C 9 激辛ソースで痺れる様子を表現するぞ。</p> <p>C 10 鍋を弱く振ったり強く振ったりすると、動き方が変わって楽しそうだ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>全員を集め動きに変化を付けている姿を称賛する。</p> </div> <p>C 11 だんだん手を激しく前後させると、痺れた感じを出そうだ。</p> <p>C 12 小さく動いてから大きな動きをすると、鍋を振っている感じが出せそうだ。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ハプニングに合わせて動きを変えるといい。</p> </div>	<p>○ 煮る場面でおたまでかき混ぜるジェスチャーと口伴奏で、右回り、左回り、上下の動きを促す。また、ゆっくり混ぜたり速くしたりと速さの動きの差を促す。</p> <p>○ どんなことができたのかを振り返り、感じ方について話し合わせる。</p> <p>○ ハプニングを促す人は、順に教師の指示で変えていく。</p> <p>○ 小⇔大や遅⇔速など動きの変化がはっきりと分かる姿を称賛し、表したい感じが出せることに気付かせる。</p> <p>◇ 動きに変化を付けて表現ができている。(観察)</p>
3 振り返る	<p>T 6 今日の振り返りを書きましょう。</p> <p>C 13 体の動きが変わると表したい感じが出せることが表現をしてわかりました。動きが変わるようにして表現を楽しみたいです。</p>	<p>○ 学習カードに「わかったこと、どうしてわかったか、今後どうしたいか」を書かせる。</p>

3 成果

- ・ 動きを引き出すための口伴奏とジェスチャーにより、児童は跳んだりしゃがんだりなど体を思い切り動かして表したい感じを表現することができた。
- ・ 変化を付けている動きを称賛したことは、動きの差を理解させることにつながった。

4 課題

- ・ 大⇔小、遅⇔速などの動きの差が分かりにくかった。動きの差にもっとメリハリをつけるために、動きや部位などに分類して提示したり、どのくらいの速さ、どのくらいの大さきなど動きの程度を考えさせたりする必要があった。



グループでカレーづくりを表現する子ども

1 児童と単元の指導構想

第1学年では身近な題材を使用して、特徴が捉えやすく、多様な動きのバリエーションを増やしてきた。そこで第2学年では、遊園地にある乗り物になりきり、高さや速さに変化のある動きを身に付けることを重視する。したがって本単元では、低学年における表現遊びの「特徴が捉えやすい動き」をもとに、「高低の差や速さに変化のある全身の動き」に発展させていく。

2 本時の実際（4／5時）

(1) 本時のねらい

場面が急変する体験を通して、表したい感じを出すための動き方が分かり、急変のある動きを工夫し楽しみながらおどることができる。

(2) 本時の構想

本時までには、遊園地にある乗り物の特徴的な動きを速さに変化をつけたり、高低の差を加えたりして行ってきた。特徴をしっかりと捉え表現していたが、少し画一的で、流れが大きく変わらない動きが多かった。そこで、場面が急変する学習を行うことで、さらに「遊園地ののりものになろう」での動きに変化が出ると考えた。本時では、前時までには身に付けた動きを組み合わせながら、場面が急変することで、子どもたちの動きに変化（差）が出るようにしていきたい。

(3) 展開

学習活動	働きかけと児童の反応	留意点 (○) 評価 (◇)
1 学習課題をつかむ (10分)	T1 遊園地の乗り物になろう。 ◎ ハプニング（あぶないカーブ）が起きた時はどう動けばいいかな。	○ 捉え方が異なり変化のある動きが追加された乗り物をカードで出す。 
2 ハプニングが起きた時の動きを体験し、交流する。	T2 あぶないカーブを踊るにはどうしたらいいのかな。 【手だて◎】変化のある動きや前時までの動きを組み合わせている児童を賞賛し、全体の前で表現させいいところを伝え合う。 ・何回も繰り返すと危ない感じがするよ。(回数) ・動きを止めたり、早くなったりすると危ないと思うよ。(速さ) ・急に回る方向を変える急カーブだと危ない感じが出るよ。(方向) ・動きを合わせたり組み合わせたりすると良い動きになるね。	○ あぶないカーブを捉えやすいように子ども達からあぶないカーブのイメージを引き出す。 ◇ 場面が大きく変化することを理解する。(見取り)
3 授業のまとめをする。 (10分)	□ まとめ ハプニングが起きた時は、速さ・方向・回数を変えながら組み合わせるとよい。	
4 カードを引いて色々なハプニングを踊ってみる。 (20分)	T3 分かったことを生かしてハプニングを踊ってみよう。  【手だて◎】組み合わせた動きが表せるように、場面が急変するハプニングカードを複数用意し、場を4つに分けたくさんの乗り物になれるようにする。	○ 場面が急変し、動きに変化がでるカードを用意し、動きが組み合わせられるように促す。 ◇ 変化のある動きをすることができる。(観察)
5 振り返る (5分)	T4 振り返りを書きましょう。	○ 友達のよかった踊りや、どんなことが楽しかったを振り返らせる。

3 成果

子どもにカードを引かせてハプニングが起こる手立ては、子どもたちの意欲を喚起しながら動きを引き出すことにつながった。また、たくさんのカードを用意することで、動きのバリエーションが増えてきたことから、中央ブロックのテーマ「動きの差」に近づいたと考えられる。

4 課題

「動きの差」を出すことには近づいていたが、それを子どもたちが理解しながら動いてはいなかった。手だて◎のカードのおかげで動きに変化は出ていたが、組み合わせることは難しかった。手だて◎の段階で回数や速さを組み合わせながら変化のある踊りをしている児童をもう少しピックアップして、全体でその児童の動きをまねしたり、分析したりする時間が必要であった。



1 児童と単元の指導構想

児童は、低学年時の表現遊びにおいて、動物になりきることを体験している。その際、自分の考えや思いを表現できない児童もいた。楽しく表現できる児童だけでなく苦手と感じる児童も、グループの友達とアイディアを共有することを通して、楽しさを味わえるようにしたい。

第3学年においては、低学年の表現遊びで培ったたくさんの動きを、題材に応じた『ひと流れの動き』として表現する。その際、題材の主な特徴や感じを捉えて『誇張と変化のある動き』として即興的に表現する。本時は、児童にとって身近な「掃除」からイメージを広げ、掃除道具になり切ることを通して、部屋がきれいになっていくまでの『ひと流れの動き』を見出していく。

2 本時の実際（2／4時）

(1) 本時のねらい

動きの変化を促すハプニングを体験することを通して、大小の変化をつけた動き方を理解し、場面に応じた表現ができる。

(2) 本時の構想

- ・教師の動きと口伴奏によって、急な変化の中で「小⇔大」の動きを体験する。
- ・他の掃除道具に変身した際、「小⇔大」の変化を称賛し、全体で共有する。

(3) 展開

学習内容	主な教師の働きかけ・児童の反応	指導の留意点 (○) 評価 (◇)
1 学習課題をつかむ	<p>T1 「黒板消し」になって黒板そうじをします。 どんな動きができそうか試みに動いてみましょう。</p> <p>T2 普通の黒板消しだけではなく、ゾウの黒板消しと、ネズミの黒板消しを持ってきました。違いを表現できるかな。</p> <p>C1 どう動いたら大きさの違いがはっきり伝わるかな。</p> <p>◎ 大きさの違い黒板消しになるには、どんな動きができるかな。</p>	<p>○ 教師の動きと口伴奏で、黒板消しの動きを体験させる。</p> <p>○ ゾウ・ネズミの黒板消しを見せ、大小の違いに気付かせる。</p>
2 動きのポイントを見出す	<p>T3 グループごとに動いてみよう。 【手だて◎】 大小の切り替えを指示し、動きを急変させる。</p> <p>C2 ネズミの黒板消しは、しゃがんで手足を縮め表現しよう。ゾウの黒板消しは手や足をピンと伸ばして、ジャンプしよう！</p> <p>T4 どんな動きをしたかな。</p> <p>C3 ネズミは速く、ゾウはゆっくり動きました。</p> <p>まとめ 大きい黒板消し... 広げる、跳ぶ、ゆっくり 小さい黒板消し... 縮める、しゃがむ、速く</p>	<p>○ 指示を出す子には黒板消しを持たせる。</p> <p>○ 教師が大小の切り替えを指示し、即興的に変化させる。</p> <p>○ 動き、部位、オノマトペなどを表にまとめていく。</p>
3 他の掃除道具で大小を表現する。	<p>T5 「大きい⇔小さい」の動きを他の掃除道具で表そう。 【手だて◎】 変化のある動きを称賛し、全体で共有する。</p> <p>T6 どんな動きをしたかな。○ 班の体の使い方を見よう。</p> <p>C4 ネズミのほうきは、しゃがんで細かく動きました。ゾウは横に大きく跳んで表しました。</p>	<p>○ 大小の変化を大きさで表現する姿を称賛する。</p> <p>◇ 場面に応じて大小の動きを表現することができる。(見取り)</p>
4 振り返る	<p>T7 今日の振り返りを書きましょう。</p> <p>C5 ○○さんの「細かく速い動き」を見たら、小さい物の動きが上手く表現できた。</p>	<p>○ 「分かったこと」や、「分かったきっかけ」を書かせる。</p>

3 成果

- ・ 教師の口伴奏によって「小⇔大」の急な変化を指示したことで、即興的に動きの変化をつけて表現する姿が多く見られた。
- ・ 「ねじる」「回る」などの動きや、「頭」「手」などの部位、動きの方向や人数の変化など、児童が見つけた動きのポイントをカテゴリー分けし掲示することで、動きを見出したり、動きに変化をつけたりする際の手がかりにすることができた。



4 課題

- ・ 多様な動きを引き出すために、全体で集合して動きの変化につながるポイントとなる動きを共有させる必要があった。また、即興的に動くだけでなく、止まって動きを考えてから実際に動いてみるという活動を取り入れる必要があった。

1 児童と単元の指導構想

本学級の児童(男子13名 女子10名 計23名)は、運動に意欲的であり、グループ活動は協力しながら行うことができる。しかし、体を動かして表現することに抵抗を感じたり、動き方が分からずに動けなかったりする児童もいる。

本単元では、「大変だ! ㊦㊦」からイメージする題材について、【動きの差】を使って表現する。単元の前半では、はじめ—なか—おわりのひとまとまりを意識しながら、『変化と起伏のある動き』について学習する。後半では、『群が生きる動き』について学習する。単元のまとめとして、グループで好きな題材を選び、ひとまとまりの動きを構成して発表する。

2 本時の実際(4/6時)

(1) 本時のねらい

グループの動きを比較して共通点や相違点を見付けることを通して、群が生きる動きの良さについて理解し、より激しい火山の噴火の動きを工夫して表現することができる。

(2) 本時の構想

- ・グループの動きを比較させる。
- ・集まり方や離れ方を工夫しているグループを全体に紹介する。

(3) 展開

学習内容(時間)	主な教師の働きかけ・児童の反応	指導の留意点(○) 評価(◇)
1 体ほぐし運動をする。(3分) 2 学習課題をつかむ。(7分)	T1 「なってみよう! ㊦㊦」をしましょう。 T2 火山の噴火を1人とグループで表現して比べましょう。 T3 みんなで動くときと激しさが表現できそうですね。 ㊦ 激しい火山の噴火をみんなで表現するには、どのように動いたらよいか。	○前時までの題材や本時で扱う題材を1人で即興的に表現する。 ○教師とのやりとりや実際にやってみることで、複数人でやるとよいという見通しをもたせる。
3 火山が噴火する様子を全体で表現する。(10分) 4 まとめをする。(5分)	T4 火山の噴火の様子をグループで表現してみましょう。 【手だて㊦】グループの動きを比較させる。 T5 みんなで集まったり離れたりするとより激しくなりますね。 ㊦ 激しい火山の噴火を表現するためには、みんなで集まったり、離れたりする動きを入れるとよい。	○動きを比較することでグループの共通点や相違点を見付け、集まる・離れる動きを見出す。 ◇集まる・離れることで群が生きる動きになることがわかる。
5 グループごとに動きを創造する。(15分)	T6 集まり方や離れ方を工夫して動きをつくりましょう。 【手だて㊦】集まり方や離れ方を工夫しているグループを全体に紹介する。 T7 紹介したグループを参考に、さらに動きを作りましょう。	○既習の動き(個の動きの差)を想起させるカードと集まり方・離れ方を考えさせるシートを活用する。 ◇集まり方や離れ方を工夫して表現できている。
6 本時の振り返りをする。(5分)	T8 今日の振り返りを書きましょう。	◇集まり方や離れ方についての記述とその理由や意図が書かれている。

3 成果

・手だて㊦について、動きを比較する際、集まる動きが見られるグループを選んだ。集まってから離れることで、噴火している様子を表す動きが目立つことに気づき、『群が生きる動き』の良さについての理解にもつながった。

・個の動きの差を取り入れたことで、ゆっくり集まってから一気に離れるなど、集まり方や離れ方が工夫され、より激しい火山の噴火を表現することができていた。

4 課題

・手だて㊦では、グループの動きを全体に紹介する際、複数のグループを紹介したり、動きを入れた理由を問う活動を取り入れたことで、グループの動きに広がり生まれ、さらに変化が見られたと考える。

・火山が噴火する様子を全体で共有するために、資料として複数の写真を提示したが、動画を提示した方が、何度も噴火の様子を表現するなどの多様な動きを引き出すことにつながると考える。



江南・秋葉・南ブロック授業実践

【単元名】 第6学年「走り高跳び」

【授業者】 結小学校 教諭 塩田 健太郎

0 6年間の『学びの道筋』（3本の矢）について

低学年の跳の運動遊びから高学年の走り高跳びまでの指導において、【最後の〇歩】を重点化する動きとして設定し、6年間の『学びの道筋』（3本の矢）を以下のように構想した。

学年部	低学年	中学年	高学年
重点化する動き	最後の1歩	最後の3歩	最後の5歩
目指す子どもの姿	最後の1歩を片足で踏み切ることができる。	最後の3歩を意識した助走から力強く踏み切ることができる。	リズムカルな助走からはさみ跳びができる。

1 児童と単元の指導構想

児童は、中学年で「最後の3歩のリズム」や「踏切足」、「高く跳ぶためには斜めからの助走が良いこと」などの知識・技能を習得している。5年生では、「高く跳ぶためにはさみ跳びの足の動き」や「自分に適した助走角度」を繰り返し練習し、短い助走からはさみ跳びを習得した。6年生では、助走の【最後の5歩】に重点を置き、【最後の3歩】を生かす助走について考える。スムーズに【最後の3歩】につながり、一度体を沈み込ませてから踏み切ることができるような最初の2歩の動きを考え、リズムを言語化することで、「トーン・トーン・ト・ト・ドン」のリズムを用いて5歩助走から踏切までがスムーズにつながるように練習する。最終的に、習得したリズムカルな5歩助走と合わせて、上体の動かし方や助走位置を学ぶことでさらなる記録向上をねらって記録会に臨めるように段階的に指導していく。また単元を通してグループで活動を行うため、目標記録に応じてその都度バーやゴムの高さを変える必要がある。そこで、高さ調整がしやすいよう教具に工夫をし、児童の試技回数を保障できるようにする。

2 本時の実際（2／4時）

（1）本時のねらい

走り高跳びの助走について、動画比較や口伴奏に合わせた5歩助走の練習を通して、高く跳ぶためには5歩助走の最初の2歩は「トーン・トーン」のリズムで斜め前方向に体を動かせば良いことが分かり、「トーン・トーン・ト・ト・ドン」のリズムで助走し、跳ぶことができる。

（2）本時の構想

- ・不適切なリズムでの5歩助走の動画提示
- ・グループで口伴奏をしながら「トーン・トーン・ト・ト・ドン」のリズムを試す場の設定



(3) 展開

学習内容	教師の働きかけと児童の反応	留意点○・評価◇
1 動画を見る	T1 5歩助走で跳んでいる動画を2種類見ましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">不適切なリズムでの5歩助走の動画提示</div>	○ 動画の助走で跳べてはいるが、高く跳ぶためには適していないことに気付かせる。
2 課題把握	C1 「ピョン／ピョン／ト・ト・ドン」だと、上に跳んでいて、最後の3歩につながっていない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">◎ 課題 跳びやすいリズムを作るためには、最初の2歩をどうすればよいのだろうか。</div>	○ 2種類の跳び方の不都合な点を確認する。
3 見通し	T2 高く跳べている人の動画を参考に見ましょ う。助走に音をつけて試してみましょ う。 C2 さっきの動画とはちがって「トーン・トーン」っ て感じで、踏切までスムーズにつながっているな。 	○ 動画の適切なリズムを言語化し、最初の動画との違いを明確に区別する。 ○ 違いを説明しづらそうな様子が見られたら、動きの方向を矢印で提示する。
4 動きの修正	T3 グループごとに5歩助走の練習をしましょ う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">グループで口伴奏をしながら「トーン・トーン・ト・ト・ドン」のリズムを試す場の設定</div> C3 グループの友達の声に合わせて「トーン・トーン」 と助走すると前より強く踏み切ることができるよ うになったよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">□ まとめ 「トーン・トーン」のリズムで最後の3歩につなげるとよい。</div>	○ 適切なリズムで助走すると動きが繋がったり、うまく沈み込めたりし、跳びやすくなることを認識させる。 ○ 技能差, 人間関係を考慮したグルーピングを行う。
5 振り返り	T4 記録を測定し、振り返りカードを書きましょ う。 C4 最初の2歩を「トーン・トーン」のリズムにする と「ト・ト・ドン」につながる助走になり、高く跳 ぶことができた。	◇ 「トーン・トーン・ト・ト・ドン」のリズムでリズムカルな助走ができる。

3 成果

6年間を通して重点化する動きを設定し、単元を構想したことで、児童の目指す姿に向かって系統性のある指導を行うことができ、児童が段階的に技能を身に付けることができた。本時については、様々なリズムで5歩助走をしている動画を提示し、動きの様子を音と矢印の両方で捉えさせたことにより、適切なリズムでの助走イメージを共有でき、動きを修正することができた。

4 課題

適切なリズムや口伴奏の良さをより深く実感できるように、様々なリズムで跳ぶ時間を設けたり、実際に跳んでいる姿を見ながら動きを考える時間を設けてたりすることで、繰り返し思考させる必要があった。

1 児童と単元の指導構想

男児14名、女児12名の26名の学級である。学級の実態として運動の得意な児童は少なく、特に女子児童の過半数が運動を苦手としている。事前測定では、低い高さではほとんどの児童が両足跳びで跳ぶが、高さが上がるにつれて、助走をつけて片足で跳ぶ児童が増える傾向が見られた。単元を通して、授業の前半では、ジャンピングランドで、5、6名を1グループに、ゴムひもを使って楽しく関わりながらジャンプする活動に取り組む。授業の後半では、ゴム跳び、川跳び、ミニハードル等の場で、高く跳んだり、遠くに跳んだり、リズムよく跳んだりすることで技能の高まりを目指す活動に取り組む。いろいろなジャンプをする中で力強い踏み切りを意識したジャンプを習得させたい。

2 本時の実際（2／4時）

(1) 本時のねらい

ゴム跳びの踏み切り足について、片足踏み切りのジャンプを繰り返し試す活動を通して、高く跳ぶには強く踏み切るとよいことが分かり、強く踏み切ることで、より高くゴムを跳び越えることができる。

(2) 本時の構想

- ・高く跳ぶためには最後の1歩をどのように踏み切ればよいか考えながら試させる。
- ・高さを上げた場で片足踏み切りを繰り返し試させる。

(3) 展開

学習内容（時間）	主な教師の働きかけ（T□手立て◎◎実線枠）	指導の留意点（○）評価（◇）
1 ジャンピングランド（15分）	T1 ジャンピングランドでいろいろなジャンプを試してみよう。 T2 今日は高く跳ぶことについて考えていきましょう。	○楽しみながらできるよう声かけをしていく。 ○片足踏み切りでも高く跳ぶ場合とゴムすれすれに低く跳ぶ場合を紹介する。
2 課題把握（8分）	◎学習課題 高く跳ぶには最後の1歩をどのようにすればよいか。	
3 試す運動（7分）	【手だて◎】 高く跳ぶためには最後の1歩をどのように踏み切ればよいか考えながら試させる。	○高く跳ぶ場合と低く跳ぶ場合の跳び方の違いを図示し、跳ぶイメージをもたせる。 ○強く踏み切っている子を取り上げ、最後の1歩をどのように跳んでいるのか見る視点を与える。
4 まとめ(3分)	□まとめ 高く跳ぶには「ドン」と蹴ればよい。	○まとめではオノマトペを活用する。
5 技能の高まりを目指す運動(7分)	T3 もっとゴムを高くした場で跳んでみましょう。 【手だて◎】 高さを上げた場で片足踏み切りを繰り返し試させる。	○高さを上げた場で強い踏み切りを意識して跳ばせる。
6 振り返り(5分)	T4 振り返りをしましょう。	◇強く踏み切ることでより高いゴムの高さを跳び越えている。

3 成果

【手だて◎について】

試す運動では、コーンを利用したゴム跳びの場を使った。児童はグループ内でお互いのジャンプを見合いながら、バーを越えるためには、片足で強く踏み切ったり、助走をつけて踏み切ったりすると高く跳べるようになると話している姿が見られた。

【手だて◎について】

手だて◎のときよりも10cm程高さを上げて跳ばせると、児童は高く跳ぶためには、強く踏み切ることがより重要になること気付くことができた。

4 課題

- ・踏み切る強さをオノマトペで表現し、まとめでは「高く跳ぶには『ドン』と蹴ればよい。」としたが、高く跳ぶためには、大きな音を出して踏み切れば必ずしも高く跳べるわけではないので、音を出すことだけに意識が向かないようにする必要があった。
- ・低学年の段階では、ゴム跳び以外にもケンケンや川跳び等いろいろな場でたくさんのジャンプを経験させることが中学年・高学年になってからの走り高跳びの運動につながると考えられる。



1 児童と単元の指導構想

単元を通して意識させたいことは、最後の3歩「ト・ト・トン」のリズムを崩さずに踏み切ることである。正面からの助走と適度に角度がついた位置からの助走を比較させながら、どちらの方がより足を伸ばした状態で、「ト・ト・トン」のリズムになりやすいかを考えさせ、適度に角度がついた位置からの助走の方が、足を伸ばしやすく、「ト・ト・トン」のリズムになりやすいことに気付かせたい。

2 本時の実際（3／4時）

（1）本時のねらい

高跳びの助走について、さまざまな位置から助走をして跳び越しやすさを比較する活動を通して、適度に角度がついた位置から助走をした方がバーに引っ掛からずに足を伸ばせることや「ト・ト・トン」のリズムになりやすいことが分かり、自分の跳び越しやすい助走開始位置を見付けて高く跳ぶことができる。

（2）本時の構想

- ・踏切エリアを設け、正面から助走したときと、正面以外の位置から助走したときとの跳び越しやすさを比較する。
- ・アドバイスシートを使い、足の伸びと最後の3歩をグループで確認しながら練習する。

（3）展開

学習活動	働きかけと児童の反応	留意点（○）評価（◇）
1 課題の把握	T1 最後の3歩のリズムに注目して、先生の助走を見ましょう。 C1 先生の最後の3歩が「ト・ト・トーン」になっているな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">◎ 「ト・ト・トン」のリズムで足を伸ばして跳ぶには、どうするとよいだろうか。</div>	○教師が示範するリズムが「ト・ト・トン」のリズムではないことに気付かせ、学習課題へとつなげる。
2 試しの運動	T2 「トーン」ではなく、最後が「トン」になるためには、ゴムの近くで踏み切る必要がありますね。「ト・ト・トン」を意識して、足を伸ばして踏み切りやすい助走の場所を探してみましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【手だて◎】 踏切エリアを設け、正面から助走したときと、正面以外の場所から助走したときとの跳び越しやすさを比較する。</div> C2 斜めから助走すると、足が伸ばしやすいな。正面より斜めから助走すると跳びやすいな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">□ 「ト・ト・トン」のリズムで足を伸ばして跳ぶには、正面ではない場所から助走すると跳びやすくなる。</div>	○片足での着地、足を伸ばす、最後の3歩を意識させる。 ○助走に適度な角度が付いていることを意識させる。 ○グループ毎にアドバイスをし、学んできた跳躍のポイントをアドバイスし合いながら練習させる。
3 学んだことを生かした練習	T3 今日のまとめを意識しながら、グループで練習しましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【手だて◎】 アドバイスシートを使い、足の伸ばしと最後の3歩をグループで確認しながら練習する。</div> C3 正面以外の場所から助走するとバーに近づいたときに、足を伸ばしやすし、「ト・ト・トン」のリズムがとりやすいな。	◇ 適度に角度がついた位置から助走をして、もとの高さのゴムが跳べている。
4 振り返り	T4 今日のまとめや練習で自分が身に付けた運動のコツや活動を振り返りましょう。 C4 正面以外の場所から助走すると、バーの近くで踏み切っても「ト・ト・トン」のリズムで跳べることが分かった。正面でない位置から助走してみたら、高いバーを跳び越えることができた。	

3 成果

- ・正面から助走したときと、正面以外の場所から助走したときとの跳び越しやすさを体験したことで、適度に角度のついた位置から助走することの良さに気付くことができた。
- ・「ト・ト・トン」の3歩のリズムを意識させるために、最初の「ト」の位置に目印を置くことで、3歩のリズムを捉えやすくなり、児童同士がリズムを確認し合う場面で有効であった。



4 課題

- ・児童一人ひとりが感じている運動感覚や「ト・ト・トン」のリズム、助走の位置をアドバイスし合う手立てとして、アドバイスシートだけでは不十分であった。アドバイスし合うための共通理解や共通言語、ワークシートの工夫が必要であった。

1 児童と単元の指導構想

男児の18名、女児17名の35名の学級である。事前の測定を行ったところ、【最後の3歩】、斜めからの助走、踏み切り位置の3点において技能差がとても大きいことが分かった。そこで、本単元を通して、技能差を考慮した5人1グループを編成し、身長及び50m走の記録を基に各自に合った目標記録を設定することで、技能的に低位な児童も活躍できるようにする。また、バーに対する恐怖心を排除するため、硬いバーではなく、ゴム製のバーを使うことで、児童が進んで試技できるようにする。

単元前半は、【最後の3歩】を生かす助走について考える。スムーズに【最後の3歩】につながり、一度体を沈み込ませてから踏み切ることができるような最初2歩の動きを考え、リズムを言語化することで「トーン・トーン・ト・ト・トン」のリズムを用いて5歩助走から踏み切りまでがスムーズにつながるように練習する。単元後半では、自分に合ったリズムカルな5歩助走と合わせて、自分に合った助走距離や速さを学ぶことでさらなる記録向上をねらって記録会に臨めるように段階的に指導していく。

2 本時の実際 (3/4時)

(1) 本時のねらい

走り高跳びの助走について、助走距離の異なる試技動画の提示や助走距離を変えながら繰り返し試す活動を通して、高く跳ぶための自分に合った助走距離と速さが分かり、自分が一番高く跳べる助走距離で助走して跳ぶことができる。

(2) 本時の構想

- ・ 助走距離の異なる試技動画の提示
- ・ 「助走譜」を用いて、自分に合った助走距離を検討する場の設定

(3) 展開

学習内容 (時間)	主な教師の働きかけ・児童の反応	指導の留意点 (○) 評価 (◇)
1 準備運動 (5分)	T1 前の時間に学習した、「トーン・トーン」のリズムで助走して跳んでいる、動画を見ましょう。	○リズム (トーン・トーン・ト・ト・トン) を意識させた準備運動を行う。 ○助走距離が短すぎる、長すぎる2つの動画を提示し、高く跳ぶためには助走距離と速さが大切になりそうだという見通しを持たせ、学習課題を設定する。
2 学習課題の設定 (5分)	【手立て○】助走距離の異なる試技動画の提示 C1 リズムは良いのに、助走距離が短すぎる。助走の速さが足りない。 課題 一番高く跳ぶためにはどれくらいの助走距離で助走すればよいのだろうか。	
3 動きを試す(10分)	T2 助走距離 (近・中・遠) を変えて試してみましょう。	○前時までの助走の開始位置にコーンを置く。前時の助走距離と比較させるための目印なので動かさない。 ○助走距離が変わることで助走の速さも変わることを押さえる。 ○上手に助走できている児童に実際に跳ばせて、良かったポイントを全体で確認する。 ○「助走譜」を作成する際に、助走距離を決めやすいように、バーに対して距離4m～6m75cmまで25cm刻みで角度30°～45°のラインを引いておく。 ○コーンを前後に動かして、助走距離を考えさせる。
4 動きを創造する (5分)	T3 どれくらい助走距離をとると良かったですか。また、高く跳べている時の動画を見ましょう。 C2 前より少し助走距離を長くしたよ。そうしたら、勢いのある速い助走になって跳びやすい気がする。 まとめ 自分に合った助走距離で助走するとよい。	
5 動きを修正する (10分)	T4 「助走譜」に助走開始位置を書き込み、自分に合った助走距離を決定しよう。 【手だて○】「助走譜」を用いて、自分に合った助走距離を検討する場の設定 C3 前よりも助走距離を長くして、5m50cmの所から助走すると、助走の速さが速くなって、もっと高く跳ぶことができたよ。	
6 振り返りをする (5分)	T5 カードに今日の振り返りを記入しましょう。 C4 自分に合った助走距離が5m50cmだと分かった。そこから助走することで、前よりも助走の速さが速くなって、高く跳ぶことができたよ。	◇自分に合った助走距離と速さが分かり、自分が一番高く跳べる助走距離で助走し、跳ぶことができる。

3 成果

【手だて○について】

助走距離が短すぎる、長すぎる2つの動画を提示したことで、高く跳ぶためには助走距離と速さが大切そうだという見通しを持たせることができた。

【手だて○について】

「助走譜」を用いて、自分に合った助走距離を検討する場を設定したことで、自分にあった助走距離を探そうとする姿が見られた。また、今までよりも跳びやすくなったと記述する児童が増えた。

4 課題

- ・ 助走距離を長くしたり短くしたりすることで、踏切位置が変わってしまう姿が見られた。「踏切位置を動かさずに」という意識を働かせる必要があった。
- ・ 「最後の○歩」に重点を置いたこともあり、助走以外のポイントについて考えさせる機会をあまりもたせられなかった。「助走は良くなったけど高く跳べない。」という姿も見られた。



西・西蒲ブロック授業実践

【単元名】 第6学年「ボール運動（ゴール型）フラッグフットボールを基にした簡易化されたゲーム」

【授業者】 小針小学校 教諭 三本 雄樹

0 6年間の『学びの道筋』（3本の矢）について

小学校学習指導要領解説体育編において、各学年の内容を見ると、第1学年及び第2学年にのみ、「個人対個人」という記述がある。これは、ゲームに参加している児童全員に得点機会を保障し、「自分で」得点する楽しさに触れさせることと解釈することができる。

また、第3学年及び第4学年の「友達と力を合わせて」という記述が、第5学年及び第6学年では「仲間と力を合わせて」という記述に変わっている。これは、「友達＝味方チーム」、「仲間＝相手チームを意識し合っている味方チーム」と捉えることで、「味方チームや相手チームを意識しながら」得点する楽しさや喜びに触れさせる（味わわせる）ことと解釈することができる。

これらを踏まえ、6年間の『学びの道筋』（3本の矢）を以下のように構想した。

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
「自分で」＋「味方チームを意識しながら」得点するための知識・技能を身に付け、自分で得点しやすい場所に動くことができる。	「味方チームを意識しながら」得点するための知識・技能を身に付け、味方と協力しながら得点しやすい場所を使うことができる。	「味方チームと相手チームを意識しながら」得点するための知識・技能を身に付け、味方と協力しながら得点しやすい場所をつくることができる。

1 児童と単元の指導構想

児童は第5学年で、サッカーを基にした簡易化されたゲーム（ミニサッカー）を行った。メインゲームでは、男女混合チームで5対5のオープンナンバーゲームを行い、ボールを正確に蹴ることができない児童や、ほとんど動くことができない女子児童の姿が見られた。ボール操作やボールを持たないときの動きのどちらにおいても、ボール運動が得意な児童とそうでない児童とで大きな技能差が見られ、このことが児童の学習意欲にも大きな影響を及ぼしていた。

そこで本単元では、「ボールを持って走ることができる」、「体育の時間と休み時間で何回も行ってきた鬼遊びで、ゲームで必要となる相手をかかわず動きをすでに身に付けている」など、他の教材よりも必要となる技能が易しいと言われている「フラッグフットボール」を行う。

また、必要となる技能が易しいため、戦術的な動きや作戦づくりを学習内容の中心として設定する。メインゲームでは、チームで考えた作戦に従って攻撃を実行し、攻撃が終わる度に行われるハドル（作戦会議）で「守備側のプレイヤーの位置や動き」に着目しながら上手くいったかどうかを直ちにフィードバックさせ、得点するために必要となる「攻撃側のプレイヤーの役割や動き」に修正させていく。ゲームを見ているチームには、「守備側のプレイヤーの位置や動き」に着目させながら作戦カードをつくらせ、得点するために必要となる「攻撃側のプレイヤーの役割や動き」を見付けさせていく。そうすることで、「味方チームと相手チームを意識しながら」得点するために必要となる知識・技能を身に付けさせることができると考える。



2 本時の実際（6／8時）

（1）本時のねらい

前時に作成した作戦カードを基に守備側のプレイヤーの位置や動きを比較することを通して、守備側のプレイヤーを意識しながら攻める大切さを理解し、守備側のプレイヤーがいない所に走ったり、空いている味方にパスをしたりすることができる。

（2）本時の構想

- ・ 作戦カード（前時立案）の提示による、守備側のプレイヤーの位置や動きの比較
- ・ 守備側のプレイヤーの位置や動きに着目させた作戦カードづくり

（3）展開

学習活動	働きかけと児童の反応	留意点・評価
1 宝運び鬼を行う。 2 学習課題とチームの課題を確認する。 3 学習課題やチームの課題を解決するための見通しをもつ。	T 1 最初に宝運び鬼をします。攻めと守りに分かれてコートに入りましょう。 ◎ できるだけたくさん得点を入れるにはどうするか？ T 2 チームの課題を確認します。 C 1 ボールを持っていない人は、どんなふうに動くとよいか。 作戦カード（前時立案）の提示による、守備側のプレイヤーの位置や動きの比較 T 3 どうして成功したのか予想してみよう。 C 2 最初は攻撃ゾーン側の方に固まっていると守備の人にも前の方に来て後ろが空くんだ。	○ 前半と後半の2回行う。 ○ 前時と同じ学習課題を提示する。 ○ 前時に書かせた全チームの課題を提示し、一読させる。 ○ 「守備側のプレイヤーの位置と動き」が異なる作戦カードをいくつか提示して比較させる。
4 メインゲーム【1回目】を行う。 5 本時のまとめを行う。 6 メインゲーム【2回目】を行う。	T 4 みんなが考えたことをゲームで試してみましょう。整列してあいさつをしましょう。 守備側のプレイヤーの位置や動きに着目させた作戦カードづくり T 5 ゲームに出ないチームは、守備の位置や動きを見ながら、作戦カードをつくりましょう。 C 3 攻撃ゾーン側の方に固まって、守備の人がいない所を見つけて走っていけばよい。 できるだけたくさん得点を入れるには、守備を引き付けて、その反対側に走っていく。守備がいない所に走ってパスもらう。 T 6 もう一度ゲームをしましょう。 C 4 守備の人を端っこに引き付けられたら、真ん中を走っていく。	○ 攻撃ゾーン側からゲームを見させ、得点するために必要となる動きを見付けやすくさせる。 ○ 守備側と攻撃側のプレイヤーの役割や位置、動きを作戦カードに書かせる。 ◇ 守備側のプレイヤーがいない所に走ったり、空いている味方にパスをしたりすることができる。
7 振り返りを行う。	T 7 自分のチームの作戦カードを見ながら、学習カードに今日の振り返りを書きましょう。 C 5 守備の人を引き付けると、簡単に得点を入れることができた。	○ 形成的授業評価と自由記述で行う。 ○ デジタイマーを用いて3分間計る。

3 成果

- ・ 守備側のプレイヤーがいない所に走り込む動きを実際のゲームで試したり、空いている味方にパスをして、パスプレーで得点したりする姿が見られた。
- ・ 守備側のプレイヤーの位置や動きに合わせた動きを、自分なりのコツとして振り返りで記述させることができた。

4 課題

- ・ 本時で目指した動きで得点する喜びを実感させるためには、投捕の技能をもっと向上させておく必要があった。
- ・ 単元後半のため、新しい作戦カードをつくるよりも、これまでの作戦を修正している姿がたくさん見られた。



1 児童と単元の指導構想

男児の7名、女児2名の9名の学年である。体育の授業は好きだが、勝敗にこだわり、けんかに発展することも少なくない。また、ルールが難しい児童が4名いる。よって、「ルールが簡単かつ楽しい」「点数（勝敗）が一目で分かる」ことが必要になる。

単元の前半は、ゲームのやり方を覚えると共に、ボール操作の技能を高め、的に当てる楽しさに触れさせる。単元の後半は、守りがいるゲームを行う。「どうすれば守りがいても得点できるか」という課題を解決するために、どのように投げると得点できるのか、投げる前にどのような動きをすると得点につながるのか、に着目させ、「自分で」投げて得点する知識・技能を高めさせたい。

2 本時の実際（6／8時）

(1) 本時のねらい

守りがいるゲームでも得点をふやすことについて、得点しやすい場所に動いたり、動くふりや投げるふりをしたりすることを通して、自分なりに工夫してシュートすることができる。

(2) 本時の構想

- ・うまく得点できたチームによる、得点につながる動きの紹介。
- ・自分の動き方を確認するための、チームでの練習の場と、それを試すためのゲームの設定。

(3) 展開

学習内容（時間）	主な教師の働きかけ・児童の反応	指導の留意点（○） 評価（○）
1 ボールを使ったWup（5分）	T1 的あてタイムです。 T2 チームで練習をしましょう。	○ボール操作練習，チームで動きの確認。
2 1回目のゲーム。（7分）	T3 チーム対抗でゲームをします。	○たくさん得点が入っているチームや教師がよい動きを紹介し，実際にやって見せる。
3 学習課題の確認と、ねらいを達成するための見通しをもつ。（5分）	T4 ボールを投げるときに困ったことはありますか。 ○ どうすれば守りがいても得点できるかな。 T5 一番得点できたチームに聞いてみましょう。 【手立て○】 うまく得点できたチームによる、得点につながる動きの紹介。	○得点しやすい場所とは、狙う段ボールと自分の直線状に、守りがいない場所のこと
4 守りがいても得点する方法をチームで練習する。（5分）	【手立て○】 自分の動き方を確認するための、チームでの練習の場の設定と、それを試すためのゲームの設定。 T6 チーム練習でさっき聞いたことを試してみましょう。	○チーム内で2対1を行い、自分のできそうな動きに挑戦する。
5 2回目のゲームを行う。（7分）	T7 練習したことをゲームで試してみましょう。 守りがいても得点するには	○子どもたちの言葉で、どのようにしたらうまくいったかを発表させる。
6 まとめをする（5分）	・得点しやすい場所に行き、シュートする。 ・動くふりや、投げるふりをしてシュートをする。	
7 3回目のゲーム（7分）	T8 まとめを生かしてもう一度ゲームをしましょう。 ・左に投げるふりをして、右から投げてみよう。 ・同じ方向だったから守りが難しかったんだ。反対方向にも走ってみよう。	○得点しやすい場所に行ったり、動くふりや投げるふりをしたりすることを意識して、シュートすることができる。
8 本時の振り返りをする。（5分）	T9 学習カードに今日の振り返りを書きましょう。	○自分で「うまくいったプレー」について振り返らせる。

3 成果

[手だて○について]

課題に対して「投げるふりをすると得点できた。」「守りより速く走ると得点できた。」と発言があった。発言した児童が、自分の動きを紹介することで、見ていた児童は「自分にもできそうだ。」と意欲を高めた。

[手だて○について]

チームで自分の動きを試すことにより、練習後のゲームでは、守りをかわしながら的をめがけて玉を投げる姿が見られた。また、自分が投げるふりをしつつ、味方に「投げていいよ。」と声掛けをするなど、味方を意識する姿も見られた。



4 課題

- ・発言されなかったが、相手をかかわしたり空いているスペースを狙って投げたりする姿がみられた。低学年にとって自分の動きを言語化することは難しいので、感覚的に行っている動きを全体共有できると良い。
- ・さらに味方チームを意識するために、チームボールを作る（誰が投げても良いボール）など、味方で作戦を立てる必要性が生まれると、より中学年へのつながりが意識される。

1 児童と単元の指導構想

運動好きな児童が多く、女子でもボール運動が好きな児童が多い学級である。ハンドボールはゴール型ゲームであり、攻守入り乱れてのゲームとなる。運動に苦手意識をもっている児童や、その場で判断することが苦手な児童にとっては、難しい運動領域である。そこで今回は、攻めるときの「得点につながる簡単な動きを使った作戦をたてる」活動をメインの課題とし、課題解決のために、自分の動きについて工夫したり、チーム内でアドバイスをし合ったりする話合いの時間を学習の中心として設定する。そこで話し合われたことをゲームで実践することで、得点につながる動きに必要な知識・技能が身に付くと考える。

2 本時の実際

(1) 本時のねらい

ボールを持っていないときはどのように動けば得点につながるかを考え、チームで動きながら試すことを通して、攻め方の工夫について理解し、説明することができる。

(2) 本時の構想

- ・ 作戦シートを使って、ボールを持たないときの動き方のアイデアを共有する。
- ・ 味方同士のパスゲームを行い、チームに合った動き（作戦）を考える。

(3) 展開

学習活動	働きかけと児童の反応	留意点(○)・評価(◇)
1 パスゲーム(3分)	T1 最初にパス&ランゲームをします。	
2 学習課題の確認。(3分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">〈問題提示〉 チームに合った最強の攻め方を考えよう。</div> T3 前時では、ボールを持ったときの動きについて学習しましたが、新たに課題が出てきましたね。 C1 パスをもらっても守りがいてシュートが出来ない。 T4 では、今日の学習課題はどうなりますか？ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">〈学習課題〉 ボールを持っていないときは、どんな動きをすると最強の攻め方ができるだろうか。</div>	○前時と同じ問題を提示。 ○前時の後に書かせたチームの振り返りから学習課題を提示する。
3 動きの予想(5分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">〈手立て①〉 作戦シートを使って、みんなの考えを共有する。</div> C2 守りをふり切るような動き（フェイント）を入れてフリーになるようにする。	○作戦シートを使って、考えを可視化できるようにする。
4 動きの確認(14分)	C3 守りが入れないゴールの裏を通って、パスをもらおう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">〈手立て②〉 味方同士のパスゲームを行い、チームに合った動き（作戦）を考える。</div>	
5 ゲーム(15分)	T7 これから考えた動き（作戦）をゲームで試しましょう。 T8 チームカードを見ながら、振り返りを書きましょう。	◇ ボールを持たないときの動きが分かり、ゲームで実践しようとしている。
6 まとめ・振り返り(3分)	C4 味方同士で合図をして、フェイントを入れたらパスがもらえてシュートができた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">〈まとめ〉 ・守りのいない場所へ動く ・同じ場所に固まらない ・フェイントする ・パスがもらえなかったら違う場所へ動く</div>	◇ ボールを持たないときの動き方の工夫を記述している。

3 成果

- ・ メインゲームの前に、味方でのパスゲームを行うことで、攻め方の工夫を、攻める側、守る側の2つの視点から考えたことで、チームに合った攻め方の工夫を考えることができた。
- ・ ハーフコートでのゲームにすることで、状況判断が苦手な児童は、周りの様子を見て動くことができた。
- ・ 作戦ボードを使うことで、攻め方の工夫を可視化して考えることができた。



4 課題

- ・ 図を使って説明してもなかなか理解できない児童がいたので、よい動きを共有することが難しかった。
- ・ 自分たちの「勝つための作戦」という思いが強く、よい動きを共有する場面での発言が消極的だった。

1 児童と単元の指導構想

児童は第5学年でバスケットボールとサッカーを基にした簡易化されたゲームを行った。ただ、これらの単元は学年合同で行っていたことから、一人一人の戦術的な理解の深まりや技能の高まりには、差が見られた。さらに、このことが児童の学習意欲にも影響を及ぼしていた。

そこで、今回の授業ではボール操作が比較的易しいことや、キーパーと1対1の状況であれば圧倒的にオフェンスが有利になり、得点を入れる機会が増えることから「ハンドボール」がふさわしいと考えた。指導にあたっては、「いかに相手を交わし得点するか」ということを、単元を通した競争課題とした。特に、ゲームでの「守備側のプレイヤーの位置や動き」に着目させることで、得点獲得に必要な「攻撃側のチームや個としての役割や動き」を見付けさせていくことを目指した。

2 本時の実際(6/8時)

(1) 本時のねらい

守備側の動きを比較したりそれを意識してゲームしたりすることを通して、守備側のプレイヤーの位置や動きに応じてコート縦や横に使うことの大切さを理解し、守備側のプレイヤーのいない所に走ったり、相手を引き付けたりする動きをすることができる。

(2) 本時の構想

- 児童が考えた作戦の中から、コートを縦に使う作戦が阻止されてしまった場合、どのような動きをしたらよいかを問う。
- 縦の動きや横の動きがそれぞれどんな時に有効だったかを確認し合う。

(3) 展開

学習内容(時間)	主な教師の動きかけ・児童の反応	指導上の留意点(○)評価(◇)
1 W-up 1vs1のゲーム(2分)	T1 1vs1のシュートゲームをします。それぞれのコートに入りましょう。	○どこをねらうとシュートが入りやすいか声かけをする。
2 作戦の比較と学習課題の提示。(5分)	【手立て◇】児童が考えた作戦の中から、コートを縦に使う作戦が阻止されてしまった場合、どのような動きをしたらよいかを問う。 T2 この作戦を見てみましょう。「守備の後ろ側のスペースにパスを出してゴール前まで素早くボールを運んでシュートを決める。」という作戦があります。しかし、守備の動きによって、この作戦が通用しない場合がありますよね。そうしたらどうしたら良いでしょうか?では、どんな時に縦と横の動きが有効になる? ◇シュートを決めるために、縦の動きや横の動きが有効になるのはどんな時だろうか。	○作戦ボードを用いて、コートを縦に使う作戦が守備の位置や動きによって上手いかなかった時の状況を考えさせる。さらに、コートをそれぞれ縦と横に使わなければいけない状況について問う。
3 課題解決への見通しをもつ。(3分)	C1 ゴール前の真ん中に守備が集まりやすいから左右にパスを出して守備を動かすと良さそう。	
4 ゲームを行う。【1回目】(7分)	※4vs4(キーパー攻撃可) 2分30秒-1分-2分30秒 【手立て◇】縦の動きや横の動きがそれぞれどんな時に有効だったかを確認し合う。	○グループで守備の動きを意識して上手いいたプレーについて話し合う。
5 チームミーティングを行う。(2分)	○ AvsB CvsD	○守備側のプレイヤーのいない所に走ったり、相手を引き付けたりする動きをすることができる。
6 ゲームを行う。【2回目】(7分)	※4vs4(キーパー攻撃可) 2分30秒-1分-2分30秒 【手立て◇】縦の動きや横の動きがそれぞれどんな時に有効だったかを確認し合う。	○各チームで相談させた上で行ったプレーを発言させ、全体のまとめを示す。
7 チームミーティングを行う。(2分)	○ AvsB CvsD	
8 ゲームを行う。【3回目】(7分)	※4vs4(キーパー攻撃可) 2分30秒-1分-2分30秒 ◇縦の動きが有効になるのは、 ・守備が手前にいて守備の後ろをねらえる時。真ん中のスペースが空いている時。 横の動きが有効になるのは、 ・真ん中のスペースを守備に埋められた時。守備がゴールの近くにいる時。	
9 まとめを行う。(5分)		
10 振り返りを行う。(5分)	T5 チームカードを見ながら、学習カードに今日の振り返りを書きましょう。	○守備側のプレイヤーの位置や動きに応じてコート縦や横に使うことの大切さを理解している。

3 成果

- 縦の動きが有効な場合と、横の動きが有効な場合について構造化して考えることにより、運動が苦手な児童もどのように動けばよいか理解し、ゲームの中での自分なりの工夫を、振り返りに記述することができていた。
- 作戦カードに守備の動きを記述させることで、相手の動きに対する攻撃側の動きを意識してゲームをする姿が見られた。



4 課題

- 縦と横の動きを意識するというねらいであったものの、ハンドボールの特性上子どもたちの意識はほとんど縦の動きに向いていた。ゲームの特性と、授業者が身につけさせたい動きを再考すべきである。

〔2〕市中学校教育研究協議会保健体育部の研究

1 研究主題

「運動に親しみ、自ら学ぶ生徒の育成」
～学び合いを通して、わかってできる授業の創造～

2 研究内容

研究主題達成に向けた授業の視点をもとに、テーマ別研修会を実施した。4つの分科会で公開授業および研究協議会を行い、各校・各部員が研修を深めた。また、市立総合教育センターと連携し、以下の2点に重点を置いて取り組みを進めた。

1. 授業前「授業解説の時間」を設定することにより、本時のねらいを焦点化し、協議ポイントを絞る。
2. ファシリテーション、KJ法的な手法などを活用したグループ別討議により研究協議会の活発化を図る。

(1) 一斉研修会

- ① 期 日 令和元年10月31日（木）
- ② 会 場 万代シルバーホテル（参加者138名）
- ③ 分科会研修の報告
 - ア 第1分科会（10月3日実施） 授業者 梅津 雅史 教諭（山の下中）
 - イ 第2分科会（10月3日実施） 授業者 平松 広之・田中 実子教諭（曾野木中）
 - ウ 第3分科会（10月17日実施） 授業者 羽田野 浩 教諭（白根第一中）
 - エ 第4分科会（10月24日実施） 授業者 新井 慧真 講師（西川中）
- ④ 講 評
市立総合教育センター 指導主事 石見 洋 様
- ⑤ 全体指導
市教育委員会学校支援課 総括指導主事 丸山 明生 様

(2) 研究授業の報告・まとめ

第1分科会では、球技「ネット型：バドミントン」において、ダブルスの攻撃の組立に着目し、課題の共有と解決を促すためのFTの効果的な活用例が提案された。

第2分科会では、陸上競技「長距離走」において、ペースを落とさないで走るためのコツをチームで発見、共有を促すためのFT活用が示された。

第3分科会では、体づくり運動において、グループでのFTによって自己の体力課題発見と運動計画の見直し、課題を解決するための実際が提案がされた。

第4分科会では、球技「ゴール型：サッカー」において、空いたスペースを有効に活用するためのポイントをFTによって共有化する際の具体が提案された。

各分科会ともに授業前に示した視点をもとにグループで討議を進め、会員相互の意見交換が深められた。自校における具体化への視野を広げる研修の機会となった。

3 成果と今後の課題

市内4ブロック制によるテーマ別分科会発表も4年目となった。各分科会ともに授業解説の時間を設定、ねらいと協議の視点を明確に示した。協議会では視点ごとにKJ法的手法によるグループ討議を実施、協議の活性化を図った。参加者からのアンケート回答では「参考になった」「自校でも試したい」等の肯定的な声が多く、高い評価を得た。

また、一斉研修会では新学習指導要領の全面実施を見据え、保健体育科における育むべき資質・能力は何か。他教科や他領域・単元との関連も視野にした年間単元配列の編成の視点や単元計画の留意点を学ぶ機会に恵まれた。

今後も4ブロック制による研究推進を軸に、市全体による「学び合う」授業づくりを進め、新しい体育授業の創造を試みたい。体育授業者の学び合いから、各学校の授業へ、そして生徒個々へと広げていくことが課題である。

令和元年度

「保健体育部」事業報告

月	日	事業名	会場	内容	参加者数
5	9	中教研総会 全体会	宮浦中学校	平成30年度事業報告、会計報告 令和元年度事業計画、予算案	58
5	30	第1回幹事会	白根第一中学校	令和元年度研究推進計画の検討	14
8	22	第2回幹事会	山の中学校	公開授業指導案検討等	13
9	19	第3回幹事会	西川中学校	公開授業指導案検討等	16
10	3	第1分科会	山の中学校	授業者：梅津 雅史	55
10	3	第2分科会	曾野木中学校	授業者：平松 広幸・田中 実子	21
10	17	第3分科会	白根第一中学校	授業者：羽田野 浩	44
10	24	第4分科会	西川中学校	授業者：新井 慧真	40
10	31	一斉研修会 1 期 日 令和元年10月31日(木) 2 会 場 万代シルバーホテル (参加者 138名) 3 分科会研修の報告 各分科会 公開授業者および研究推進担当幹事より発表報告 4 講評 市立総合教育センター 指導主事 石見 洋 様 5 全体指導 市教育委員会学校支援課 総括指導主事 丸山 明生 様			138
2	6	第4回幹事会	西川中学校	令和元年度事業反省 令和2年度事業計画立案等	15

第1分科会・授業実践（体育分野）

【単元名】 第3学年 領域：E 球技 バドミントン

【授業者】 新潟市立山の下中学校 教諭 梅津 雅史

1 生徒と単元の構想

（1）単元と生徒

バドミントンの授業においては、ラケットコントロールに関わる基本的技能の習得が必要不可欠であることから、継続的にラリー練習を単元に位置付け、個々の技能に応じたラケットコントロール・フラインクの習得を図ってきた。また、生徒の意識である「ゲームに勝ちたい」という目的意識を基にした「ゲーム中心の単元構成」を大切にしてきた。

生徒は今回初めてダブルスのゲームの攻撃方法の検討を行う。どうしたら「空いたスペース」を生み出すことができるか。そして「空いたスペース」を有効活用するために必要なことを考えさせることによって、意図的に得点を奪うことの大切さを引き出したい。

生徒の実態としては、本学級は34名（男子20名、女子14名）で構成されている。生徒は明るく素直で、授業に前向きに取り組む生徒が多い。しかし、技能の差が激しく、個々の技能発揮によるゲームの様相で勝敗が決まる場面が多かった。また、男女の人数の偏りが大きい。

そこで今回の授業では、男子のペアと女子のペアで分け、男子ペアと女子ペアを合わせて兄弟班とした。男子、女子それぞれでペアを組むことによって、男女でペアを組んだ時よりも技能差が生じにくく、様々な攻撃のアイディアが導き出されると考える。そして、男女で兄弟班を組むことにより、互いに新たな視点での気づきがたくさん生み出されると考える。

2 本時の学習（全8時間、本時6時間目）

（1）本時のねらい

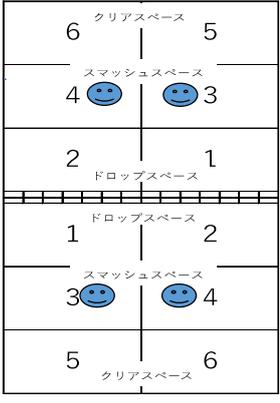
ダブルスにおける効果的な攻撃方法について、「得点のシナリオシート」を構想する活動を通して、相手フォーメーションに応じた効果的な攻撃の仕方を自ペアの特徴と関連付けて見いだすことができる。

（2）本時の構想

前時から「ねらい通りに得点をするにはどうしたらよいだろうか」という学習課題のもと、攻撃におけるセオリープレイを学習し、「自分たちの得点のシナリオシート」を考えている。本時では、ホワイトボードを用いて、自ペアが考えた得点のシナリオの意図を兄弟班に説明し、必要があれば修正する活動を取り入れる。各ペアから出された「得点のシナリオシート」を全体で共有し、ねらい通りに得点をとるために必要なことの共通理解を図る。それを基に、兄弟班による約束練習で得点のシナリオを確認し、実践の中でねらいをもって意図的に得点をとれるようにさせたい。得点のシナリオは複数パターンあると考えられ、兄弟班や他のペアがどんなシナリオを考えたかを全体に共有することは、新たな視点への気づきにつながると考える。また、得点のシナリオは3打目まで構想させる。理由は、相手を崩し、チャンス打球を引き出し、得点をねらうということがイメージしやすいと考えたからである。

（3）本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童生徒の反応	■ 評価規準・○留意点
導入 【10分】 1 集合・挨拶・点呼 2 基本技能の練習	S 素早く整列し、挨拶、点呼を行う。 ペアでシングルスゲームをしましょう S フラインクの種類を使い分けられるようになったぞ	○ 6つのフラインクを使い分けさせる。
展開I 【20分】 1 前時の振り返りと課題確認（5分）	T 前回ねらい通り得点するためのシナリオを考えましたね。学習課題はこうでした。 <学習課題> ねらい通りに得点をとるにはどうしたらよいだろうか？	○ 生徒と対話しながら、前時の学習内容を振り返る。

<p>2 課題解決活動 (15分)</p> <p>○ FTによる班の検討活動</p> <p>○ 発表された意見を全体共有</p> <p>展開Ⅱ【15分】</p>	<p><指示> 自ペアの得点のシナリオをホワイトボードに書き込みましょう。</p> <p><予想される生徒の意見> 想定されるフォーメーション サイドバイサイド 1打目 エリア(2) フライト(ヘアピン) 返球(2打目) エリア(3) フライト(ハイクリア) 3打目 エリア(3) フライト(スマッシュ)</p>  <p><発問> 兄弟班でマグネットを操作しながら、得点のシナリオを説明してください。必要があれば修正してください。</p> <p>S エリア2にヘアピンを落として、相手の体勢を崩して、ハイクリアが中途半端になったところにスマッシュを打ち込む。 T それではホワイトボードを貼ってください。 T ○ペアさんたちはどうしてこう考えたの？ S 相手がサイドバイサイドなので縦にゆさぶって攻撃しようと思ったからです。</p> <p><まとめ> ねらい通りに得点するには、空いたスペースをねらいながら相手の動きやフライトを予測して攻撃する。</p>	<p>○ ホワイトボードを配布する。</p> <p>○ マグネットを操作しながら説明させる。</p> <p>■ 自分たちの得点のシナリオを説明することができる。</p> <p>■ 兄弟班の得点のシナリオについて問題点があるかどうかを検討することができる。</p> <p>○ ペアに意図を聞きながら、シナリオを紹介する。</p> <p>■ 実践の中で得点のシナリオを意識し、ねらい通り得点することができたか。</p>
<p>3 約束練習(5分) 4 ダブルスゲーム</p> <p>まとめ【5分】</p>	<p>T 自分たちのペアの得点のシナリオを兄弟班同士で練習しましょう。</p> <p>T 自分たちの得点のシナリオを意識してゲームしましょう。</p>	<p>○ 次回のねらいを明確にさせる</p>
<p>・学習の振り返り ・ペアの課題を学習カードに記入</p>	<p>T 本時で学習したことを実践した結果、次こうやってみようをペアで考えて記入しましょう。</p> <p>T 攻撃において自分たちの課題を把握し、修正するような活動を取り入れることを伝える。</p>	

3 成果

自ペアのシナリオシートを構想し、兄弟班で検討させたことで、特徴と関連づけさせて攻撃方法を見出すことができた。また、シナリオシートではコートをも6分割にして考えさせたことで、発想が広がり、様々な攻撃方法を全体で共有することができた。約束練習やダブルスの試合を通して、「空いたスペースをねらい意図的に得点を取る場面」が増え、攻撃方法を工夫する姿につながった。

4 課題

約束練習では相手の返球が予想外の時、シナリオが成立しない場面がみられた。個人技能が不足していることが原因であるため、練習の工夫が必要であった。また、意図的な得点方法を考えさせるには、より空いたスペースが明確なシングルの試合の方が有効であった。シングルスでシナリオシートを考え、その後ダブルスで考えるというつながりにした方が効果的であった。ファシリテーションと活動の時間配分も課題として残った。

第2分科会・授業実践（体育分野）

[単元名] 第3学年 領域：陸上競技 単元：長距離走

[授業者] 新潟市立菅野木中学校 教諭 平松広幸 田中実子

1 生徒と単元の指導構想

男女ともに課題に対して素直に取り組む生徒が多い。体力テストの結果では3年男子はほぼ全国平均である。3年女子は全国平均に比べやや低い傾向にある。女子は20mシャトルランの平均が全国平均より低く、長距離走に苦手意識をもつ生徒も多い。駅伝の特性を生かしたチームという学習形態にすることで、苦手意識をもつ生徒の意欲を喚起し、自己の記録向上や記録向上のために練習に主体的に取り組む姿を導き出したい。

昨年度も同様の学習活動を展開し、走る区間を設定する際や記録を計測する際などチームで協力する姿がみられた。また、記録を掲示することで記録に対しての意識も高めることができた。今年度は昨年度の学習を発展させ、さらに自己のペースを課題とさせながら、記録や運営・競技を楽しむことができるように学習を深めさせていきたい。

2 本時の実際（5／7時間）

(1) 本時のねらい

- ・駅伝大会を意識し、自分のペース配分を決めることができる。
- ・グループで互いに声をかけあいながら学習することができる。

(2) 本時の構想

前時に自分のコースを計測。コース別の通過タイムを計測しておく。

自分の走り方やペースについて考察させ、概ねよいペースで走れていれば、それを駅伝本番で活用するために、あらかじめペース配分をしておくことが必要なことに気づかせたい。

自分の力を有効に発揮するために、一定のペース配分が必要だということに気づかせる。その上で自分にとってベストな配分を決めさせ、実際に走れるようにグループで声をかけながら学習を深めさせていきたい。

(3) 本時の展開

学習内容・活動	教師の働きかけと予想される生徒の反応	指導上の留意点と評価
1 授業準備 2 前回の振り返り	<p>T1 前回、自分のペースはつかめましたか、学習カードを見て振り返ってみましょう。</p> <p>S1 それぞれのカードを見て意見を言う。 ・自分のペースはよかった。</p> <p>T2 次の駅伝大会で予想される心理や状態をイメージさせてから、学習課題を掲示する。 (学習課題)</p> <p>駅伝大会で、自己ベストを出すために、自分のペースを乱さないで走るにはどうしたらいいのだろうか</p>	<ul style="list-style-type: none">・前回の自分の通過タイムを確認する。・ペースの特徴について考える。
3 グループ活動	S2 グループ内で話し合い、ホワイトボードに意見を書く	

<p>4 各班が見つけたポイント共有する</p>	<p>T3 生徒の意見を整理する</p> <p>〈まとめ〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分のペース配分をあらかじめ決めて、そのペースで走ればよい。</p> </div> <p>T4 前回のタイムを確認しながら自分のよりよいペース配分を考える学習カードに通過タイムを記入しましょう。</p> <p>T5 役割分担と計測について説明する準備・アップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コースごとの記録測定と本番との違いに着目させる。 ・グループの中で意見を共有する。 ・困った時は、グループのメンバーに相談する。
<p>5 コース別に計測を行う 計測の準備</p> <p>6 計測</p> <p>7 本時の振り返り</p>	<p>T6 自分のペース配分はどうでしたか。その通りはありましたか。今日の学習を振り返り、次の本番に生かしたいこと、修正したいことを記入しなさい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・走者にペースを知らせることができる。
	<p>S3 学習を振り返り、学習カードに記入する。</p> <p>T7 何人かの生徒に発表させる。</p>	

3 成果

長距離走では、苦しさを伴うために学習意欲の差が大きく、苦手な生徒はすぐに学習が停滞する場面が多く見られた。ペア学習やグループでの学習などの工夫も試みて取り入れてきたが得意とする生徒、苦手とする生徒両方の意欲の向上をさせることは難しかった。今回は学習形態を工夫し、駅伝形式を取り入れ授業を実践した。

生徒のアンケートから「全力で取り組めた」「自分の役割を責任をもって行った」など肯定的な評価が 98 %。「チームのことを考えて意見を述べたり、区間に挑戦した」等の肯定的評価が 90 %。これらの回答結果から意欲面の向上には成果があったと考える。また「駅伝は楽しい」と肯定的に捉えた生徒は 72 %、陸上競技を楽しむ力の向上にも成果があったと考える。

4 課題

記録を短縮するために「自己のペース」をキーワードに授業をすすめた。自己のペース配分を考えるために、チェックポイントの通過記録やグループ内での対話も行ったが、自己のペースを決定できない生徒もいた。

自己のペースを決定するための材料の不足、練習方法の工夫や教師側の助言の仕方などが今後の課題である。

第3分科会・授業実践（体育分野）

【単元名】 第2学年 領域：体づくり運動 単元：体力を高める運動
【授業者】 新潟市立白根第一中学校 教諭 羽田野 浩

1 生徒と単元の指導構想

（1）単元と生徒

体づくり運動は、体ほぐしの運動と体力を高める運動で構成され、自他の心と体に向き合っ
て、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、心と体をほぐしたり、体力を高めたりすることが
できる領域である。本単元の学習においては、体力を高める必要性について理解を深めるとと
もに、自己の体力やねらいに応じてどのような運動を、どのように実施すればよいかを工夫し、
さらに計画を立てて実施できる能力を育成することを中核に授業を展開していきたい。

また、ファシリテーションを活用し、仲間と楽しく自分の体力を高めるような授業を展開し
ていきたい。生徒は全体的に素直で、何事にも真剣に取り組むことができる。また、準備や後
片付けも体育係を中心に自主的に行う様子が見られる。生徒アンケートから「体力は必要です
か」の質問に対して「とても必要だ」と答えた男子は66%、女子は45%と体力に対しての
男女の意識の差がある。

（2）指導の構想

手だて1 学習カードの活用

活動について記録し、記述することで、課題の所在を明らかにし、新たな課題の発見や課題
の深化・拡大に向かわせる。

手だて2 仲間と学び合うファシリテーションの活用

グループで運動計画の作成や運動計画の見直しの課題に対して、話し合いを行う場面を設定
する。お互いに課題を共有する中で、主体的に運動にかかわろうとする意欲を高める。

手だて3 学習資料の活用

体力要素ごとにねらい、行い方、ポイントが分かりやすく解説されている資料を用意し、生
徒が簡単に組みやすくなる。

2 本時の実際（6時間目／全7時間）

（1）本時のねらい

- ・グループで立てた運動計画を検討し、合理的な体力課題の解決に向け動きの組合せ方などを修
正することができる。
- ・自己と仲間の課題を確認し、課題解決のため仲間と協力することができる。

（2）本時の構想

前時では自己の体力テストの診断結果をもとに、自己の体力を分析し、自分に必要な体力要素
を加味したトレーニングメニューをグループで作成した。しかし、実際に運動を行う場合、体力
について関心の低い生徒や運動が苦手な生徒にとって容易に活動に取り組めないことが予想さ
れる。そこで本時ではファシリテーションを主とした活動を取り入れ、場の雰囲気や他とのかか
わり合いを大切にしたい授業を展開する。

本時では、グループをエキスパートコース、健康志向コースに分け、またそれぞれを小グルー
プに分けて活動を行う。グループで作成した運動を10分間行い、運動後のファシリテーション
で課題を見つけ修正する。再度運動を10分間行い、最終的にグループの運動計画が概ねグルー
プ内の個人の高めたい運動計画になるように修正し改善していく。

(3) 展開

学習内容・活動	教師の働きかけと生徒の反応	指導上の留意点と評価
<p>1 集合、挨拶、挨拶、健康観 察をする。(5分) 体ほぐしの運動をする。</p> <p>2 本時のねらいを確認する。(5分)</p> <p>3 グループで運動計画を実施する。(10分)</p> <p>4 グループ内でF Tを行い、運動計画を見直し、修正する。(10分)</p> <p>5 修正した運動計画で再度運動を実施する。(10分)</p> <p>6 グループでF Tを行い、運動計画を見直し、再修正する。(5分)</p> <p>7 学習の振り返り (5分)</p>	<p>S1 ペアストレッチをする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T 1 グループ内の個人の体力課題を解決する運動計画にするためにはどうすればよいか。</p> </div> <p><学習課題></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T 2 グループで前回つくった運動計画をやってみよう。</p> </div> <p>S 2 お互いにサポートしながら運動計画を実施する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T 3 グループ内で意見交換し、運動計画の見直し、修正をしよう。</p> </div> <p>S 3 F Tを通して運動計画の見直し、修正する。</p> <p>S 4 予想される生徒の意見・反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人によって回数、強度を変えたほうがよい。 ・運動の種類を変えたほうがよい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T 4 修正した運動計画でやってみよう。</p> </div> <p>S 5 お互いにサポートしながら運動計画を実施する。</p> <p><まとめ></p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T 5 グループで運動計画を立てるには、自己や仲間の体力課題を理解し、参加者全員が楽しめる動きを工夫することが大切である。</p> </div> <p>S 6 学習を振り返り、学習カードに記入する。</p>	<p>・欠席者、見学者を把握し、健康状態を観察する。</p> <p>・声をかけ合って行うように指示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><評価規準> グループ内で協力して運動計画を見直している。</p> <p>B : グループ内で協力して運動計画を見直している。</p> <p>A : グループ内で協力して自他の心身の状態を確かめながら、よりよい運動計画になるよう見直している。</p> <p>Cへの手だて 学習カードの記入の際に個別に助言する。</p> <p><評価方法> 観察・学習カードの記述</p> </div> <p>・自己評価が円滑に進められるように支援する。</p>

3 成果

- ① F Tから運動計画の修正に向けて活発な話し合いが行われた。
- ② エキスパートコース、健康志向コースの2つにグループ分けしたことにより、目的意識の共有、学習意欲の向上が見られた。

4 課題

- ① F Tは運動強度だけを考える内容であった。個人パートを作るなどの工夫が必要である。
- ② 課題解決の指数として、心拍数など具体的な数値を設定する。

第4分科会・授業実践 (体育分野)

〔单元名〕 第2学年 領域：E 球技 ゴール型「サッカー」

〔授業者〕 新潟市立西川中学校 講師 新井 慧真

1. 単元と指導の構想

(1) 単元と生徒

本単元の、ボールを扱う技能（オン・ザ・ボールの動き）とボールを扱っていないときの技能（オフ・ザ・ボールの動き）を高めるためには、多くの時間を必要とする。そのため、授業の中でたくさんボールを扱う必要がある。サッカーという単元は技能の難しさから、実際に動いてみると技能の差や体力の差が出てしまい、生徒間での取組の意欲に差が開いてしまう可能性もあるので注意する必要がある。

(2) 指導の構想

手立て1 男女混合チームによる共習

男女混合チームにすることで、男女が互いにサポートし合い、活発なゲーム展開やグループワークを行えるようにする。

手立て2 FTを通し、個人やチーム間での作戦の共有

話し合い活動を通し、自分の考えやチームの仲間の考えに触れ、より深くスペースを使った攻撃の仕方を考える。

手立て3 学習環境の整備

コートを横長に、そしてゴールをあえて置かずインゴール方式にすることで、ゴール前で生徒が密集することを防ぐ。また、横幅全体がゴールになるため、より幅を使ったゲーム展開がみられるようにする。

2. 本時の実際

(1) 本時のねらい

サッカーのスペースを使った攻撃について、ミニゲームの中でチーム毎に作戦を立てたり、どうすれば得点を多く獲れるのかを考えたりしながら実際に試合をする活動を通して、スペースを使った攻防の面白さに気づくことができる。

(2) 本時の構想

本時では、ボール密集型のサッカーから、空いたスペースをうまく活用し、ピッチをより広く使った実践形式のゲームを展開したい。そこで、横長のコートにゴールを置かずにラグビーと同様のインゴールを設定し、空いたスペースがしやすい状況を設定する。

スペースを使うためには、どのような攻撃がポイントになるのかを生徒個人で考えた後、チーム内で共有して吟味し、その作戦を基にゲームを行うことで、教え込みではなく、自分たちで考えて試行錯誤する姿を目指す。

(3) 本時の展開

学習活動	教師の働きかけ (T) と	■ 評価規準 ○ 留意点
	予想される生徒の反応 (S)	
【導入】 7分 1. ウォーミングアップ	S : 号令・点呼 S : ランニング (グラウンド1周) 後、各自で準備運動。	○ 怪我をしないよう、準備運動を入念に行わ

	S : チーム毎の隊形に集合する。	せる
<p>【展開】 30分</p> <p>2. インゴールを設定したミニゲームを行う</p> <p>3. 課題の確認</p> <p>4. チーム毎にミーティングをする</p> <p>5. チーム毎にたてた作戦でサイドミニゲームを行う</p>	<p>T : まずはこちらからは何も言わずにミニゲームを総当たりで行わせる。</p> <p>S : チームでグループワークを行い、意見をチーム</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T : では、どうすれば得点をうまく獲れるのかを今日は考えながら、試合をしてみましよう。</p> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習課題】 スペースを有効に使うためにはどのような攻撃がいいのだろうか？</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T : まずは、さっきの試合で感じたことを基に、自分が考える作戦を書いてください。</p> </div> <p>ム内で共有する。</p> <p>S : 自分で考えた作戦をチームで持ち寄り、ミーティングを行う。</p> <p>S : チームの作戦でゲームを行う。</p>	<p>○ 1 試合 3 分で 行う</p> <p>○ 男女混合チームで行う ・ 1 チーム 5 人 ・ 計 6 チーム</p> <p>○ コートの大きさ 縦 30 メートル 横 40 メートル</p> <p>○ 技能の低い生徒もボールを蹴りやすいよう、ボールの空気圧は低めに設定する。</p> <p>■ 広く横幅を使って攻撃しようとしているか</p>
<p>【終末】 13分</p> <p>6. 本時の振り返り</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習のまとめ】 スペースを使って攻撃するためには、横幅を広く使うことが有効である。</p> </div> <p>T : 作戦を 1 つ発表させる。</p> <p>T : ワークシートに今日の授業を通して感じたことを記入させる。</p>	<p>■ ワークシートに、スペースを使った攻防の重要性や、面白さに関する記述をしているか</p>

3. 成果

- ① 場の工夫により、多くのチームがボールに密集することがなかった。
- ② 男女混合のチームにすることで、ゲームの中やグループワークの中で男女が互いにサポートし合っていた。

4. 課題

- ① インゴール方式で、男女混合チームにしたため、インゴールの中でボールを待っているだけの女子生徒がみられた。
- ② ゲームを行っていないチームがゲームの記録をとり、それを共有するなどの学習課題解決に向けたより深い学びのための手立てがあるとよかった。

Ⅲ 体育連盟の活動

[1] 新潟市小学校体育連盟の活動

1 第50回新潟市小学校陸上競技記録会

(1) 日 時 [西地区大会] 令和元年7月25日(木) 8:10(開会式)~14:00
 [東地区大会] 令和元年7月26日(金) 8:10(開会式)~14:00

(2) 会 場 ビッグスワンスタジアム

(3) 過去3年間の参加校数及び出場選手数(令和元年度は、出場予定者数)

年度	東地区大会						西地区大会					
	5年		6年		合計	参加校数	5年		6年		合計	参加校数
	男子	女子	男子	女子			男子	女子	男子	女子		
29	393	397	397	388	1575	54	367	372	374	372	1485	54
30	372	383	399	394	1548	54	357	352	367	360	1436	54
令和元	307	293	302	308	1210	53	273	270	267	267	1077	54

(4) 第49回大会までの大会記録 * < >内は20年度より導入した写真判定による大会記録

種目	男 子		女 子	
	5年	6年	5年	6年
100m	13秒3 <13秒74>	12秒2 <12秒85>	14秒0 <14秒00>	13秒3 <14秒01>
200m	28秒6	27秒1	————	————
800m	————	————	2分35秒5 <2分33秒65>	2分29秒6 <2分28秒01>
1500m	4分59秒3 <4分55秒88>	4分52秒2 <4分47秒72>	————	————
80mH	13秒3 <13秒67>	12秒3 <12秒46>	13秒7 <14秒01>	13秒0 <13秒30>
走り幅跳び	4m43cm	5m23cm	4m18cm	4m45cm
走り高跳び	1m44cm	1m60cm	1m32cm	1m48cm
4×100mR	57秒4 <57秒78>	52秒4 <53秒89>	57秒2 <59秒45>	55秒5 <56秒38>

(5) リレー優勝チーム及び大会新記録者

	東地区大会		西地区大会	
	男 子	女 子	男 子	女 子
リレー優勝5年	東中野山小学校	沼垂小学校	大鷲小学校	新通小学校
リレー優勝6年	亀田西小学校	東山の下小学校	新通小学校	新津第三小学校
大会新記録者	【5年男子】100m 桜が丘小学校・曾山 蒼生 13" 50 【5年男子】400mリレー 東中野山小学校チーム 57" 66 【6年男子】100m 鳥屋野小学校・安達 優輝 12" 61			

2 第54回新潟市小学校水泳競技記録会

(1) 日 時 令和元年8月1日(木) 8:30(開会式)～13:00

(2) 会 場 西海岸公園市営プール(公認50m)

(3) 過去3年間の参加校数及び出場選手数

	5年男子	5年女子	6年男子	6年女子	合計	参加校数
平成29年度	218	172	179	151	728	93校
平成30年度	213	166	183	165	739	93校
令和元年度	219	219	194	136	768	94校 (新潟豊含む)

(4) 第54回大会までの大会記録

種目	男 子		女 子	
	5年	6年	5年	6年
50m自由形	29秒74	28秒00	30秒51	29秒61
100m自由形	1分05秒26	1分01秒05	1分07秒12	1分02秒53
50m平泳ぎ	36秒04	33秒17	38秒18	35秒45
100m平泳ぎ	1分18秒38	1分11秒13	1分22秒90	1分18秒34
50m背泳ぎ	34秒73	32秒17	34秒48	33秒23
100m背泳ぎ	1分16秒16	1分10秒49	1分13秒88	1分12秒01
50mバタフライ	31秒32	29秒26	32秒25	31秒61
100mバタフライ	1分10秒41	1分06秒23	1分09秒65	1分08秒19
200m個人メドレー	2分37秒44	2分27秒67	2分39秒33	2分34秒03
200m R	2分03秒15		2分05秒36	
200mMR	2分16秒38		2分21秒74	

(5) リレー優勝チーム及び大会新記録者

	男 子	女 子
200m R	東山の下小学校	新通小学校
200mMR	東山の下小学校	新通小学校

新記録者	【5年女子】50m自由形	荻川小学校・神田 行空	30" 31

3 新潟市小学校体育実技講習会

	第 1 回	第 2 回
日 時	令和元年 6 月 7 日 (金)	令和元年 11 月 11 日 (月)
会 場	ビッグスワンスタジアム	秋葉区総合体育館
講 師	新潟市中学校体育連盟 立花 泰志 教諭 (鳥屋野中学校) 梅沢 怜史 教諭 (木戸中学校) 内藤 豊子 教諭 (高志中等教育学校)	日本ドッジボール協会公認インストラクター 日向 伸 様 長谷川 智 様
内 容	「短距離走・ハードル走・走り高跳び」 小・中体連連携事業	「投の運動 (遊び)」 ～遊び・ゲームを通して投力向上につなげる授業作り～
参加者数	75名	43名

4 令和2年度 陸上競技記録会実施日

第51回 陸上競技記録会	東地区大会	西地区大会
	令和2年 7月28日 (火)	令和2年 7月29日 (水)
	予備日 30日 (木) 31日 (金)	
	於：デンカビッグスワンスタジアム	

※ 水泳競技記録会は、令和2年度より休止

5 まとめと来年度の方向

昨年度、災害級の猛暑のため、陸上大会が中止となったことを受け、会場、種目、大会中の選手の体調管理方法を熟慮した。そして、日陰が多く風通しもよいビッグスワンスタジアムでの開催、女子800m、男子1500m種目のカットや開催時刻の変更、クールダウン室の設置を行い、新たな方向を見出した。加えて新潟市教育委員会とも連携を取り合い、熱中症対策を万全に大会を開催した。その結果、体調を崩す選手はほとんどおらず、大会新記録も3つ出た意義のある大会となった。また、50回の記念大会に合わせ、前山選手をはじめ、アルビレックス RC 等で活躍する選手によるデモンストレーションも行い、会場が大いに盛り上がった。

水泳記録会は、昨年度の熱中症対策に加え、100m種目、個人メドレーをカットし、より安全に、そして、体育授業の内容に添う形での大会にした。その結果、体調を崩す選手が少なく、13時前に大会が終了するコンパクトな大会となった。しかし、水泳記録会そのものの意義、暑さ対策の面から、小体連と校長会、市教育委員会での話し合いを重ねた結果、水泳記録会は休止することとなった。

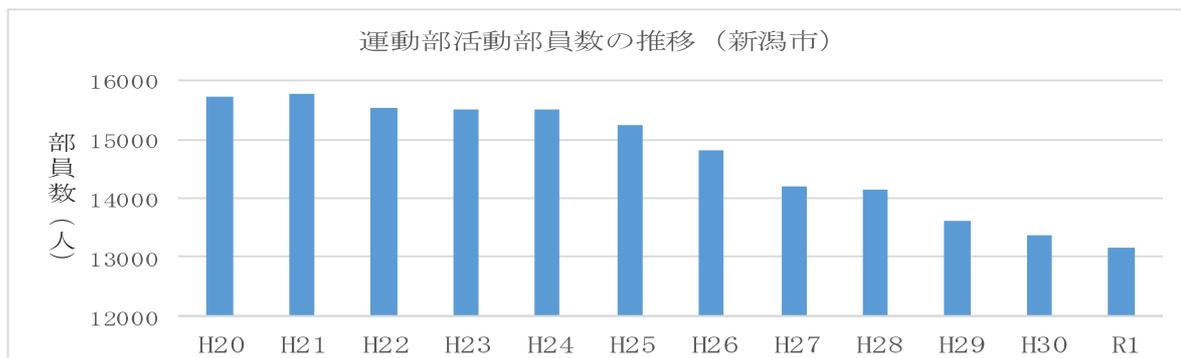
体育実技講習会では、8年連続9回目となる新潟市中学校体育連盟との連携事業である陸上競技指導について講習会を行った。今回は、市内中学校から3名の講師をお招きした。陸上運動の種目ごとに、感覚づくりや動きづくりについて、指導のポイントを分かりやすく教えていただき、専門性の高い指導に触れられる機会となった。たくさんの先生方から参加いただき、今年度も大変好評であった。第2回では、昨年度に引き続き、要望の多かった「投の運動 (遊び) ～遊び・ゲームを通して投力向上につなげる授業づくり～」をテーマに講習会を行った。ドッジボール協会のインストラクターの講師をお招きして、遊びやゲームを楽しみながら、投げる力を高めていく指導法を具体的に教えていただいた。

今後も今年度のような猛暑が訪れる可能性がある。一層の対策を講じ、選手の安全、そして、選手の力を伸ばしていくような大会になるようにこれからも取り組んでいく。また、水泳記録会が休止となった後も、新潟市児童の泳力向上に向けて、水泳指導の実技講習会を開催し、市内教員の泳指導力向上に寄与したい。

(文責 新潟市小学校体育連盟事務局長 沼垂小学校 菅原 知昭)

〔2〕新潟市中学校体育連盟の活動

1 運動部活動部員数の推移



生徒数の減少とともに、運動部活動部員数も減少（10年間で約2,500人）している。今年度、運動部活動に所属している生徒数は、13,148人で新潟市全体の生徒数の約66%にあたる。

2 令和元年度 第60回新潟市中学校体育大会及び新潟市中学校新人大会

◇ 東地区：北区・東区・江南区・秋葉区 全29校

◇ 西地区：中央区・南区・西区・西蒲区 全32校

(1) 主催 新潟市教育委員会 新潟市中学校体育連盟

(2) 期日 第60回新潟市中学校体育大会

東地区・西地区合同開催

令和元年6月18日（火）・19日（水）

【陸上競技・サッカー・テニス（18日のみ）】

令和元年6月24日（月）・25日（火）・29日（土）

【他競技（最大3日間開催）】

第60回新潟市中学校新人大会

令和元年10月4日（金）【陸上競技：台風接近により中止】

令和元年10月10日（木）【西地区】

令和元年10月11日（金）【東地区】

3 令和元年度 第50回新潟県中学校総合体育大会

(1) 主催 新潟県中学校体育連盟

(2) 期日 令和元年7月13日（土）・14日（日）・15日（月祝）

【サッカー・軟式野球のみ3日間開催】

令和元年7月25日（木）・26日（金）【水泳】

(3) 会場 新潟県内の体育施設（新潟市開催は、4種目）

(4) 参加人数

新潟市	1,633名	下越地区	851名
中越地区	1,590名	上越地区	848名

4 令和元年度 第40回北信越中学校総合競技大会

(1) 主催 北信越中学校体育連盟

(2) 期日 令和元年8月6日（火）～9日（金）

(3) 会場 新潟県内各地

(4) 参加人数 新潟県：1,051名

新潟市	430名
-----	------

(5) 入賞(3位以上)校・選手一覧

競技	種目	順位	氏名・学校名
陸上	男子 400m	2	小田嶋 大夢 (五十嵐)
	男子 800m	3	石山 智也 (大江山)
	男子 3000m	3	佐藤 蓮 (松浜)
	男子 110mH	2	見山 大翔 (坂井輪)
		3	鈴木 彰吾 (木戸)
	男子走高跳	2	三浦 大地 (坂井輪)
	1年男子 100m	3	圓山 倫生 (新津第一)
	3年男子 100m	1	関口 裕太 (木崎)
	女子 100mH	1	吉田 明永 (新津第一)
2年女子 100m	2	植木 明音 (高志中等)	
水泳	男子総合	1	高志中等教育学校
	フリーリレー4x100m	2	
	メドレーリレー4x100m	1	
	男子自由形 50m	3	齋藤 利明 (高志中等)
	男子自由形 100m	1	
	男子バタフライ 100m	2	羽生 朝喜 (岩室)
	男子バタフライ 200m	1	
	女子自由形 200m	3	植田 希乃 (坂井輪)
	女子自由形 400m	1	杉本 妃鞠 (新潟第一)
	女子自由形 800m		
	女子平泳ぎ 100m	2	坂爪 晴 (東石山)
	女子平泳ぎ 200m	3	
体操	男子あん馬	1	相田 陸真 (小新)
	男子跳馬	2	佐藤 唯斗 (小新)
バスケットボール	男子	1	新潟柳都中学校
		3	横越中学校
	女子	1	新潟柳都中学校
		3	東新潟中学校
サッカー	男子	2	山の下中学校
バレーボール	男子	3	下山中学校
	女子	2	中之口中学校
ソフトテニス	女子団体	2	巻東中学校
バドミントン	女子シングルス	1	菫澤 百羽 (新津第二)
柔道	男子 60kg 級	2	榎本 慎太 (新潟第一)
	男子 66kg 級	3	筒井 直也 (巻西)
	女子 70kg 超級	2	花木 実友 (白根北)
		3	櫻井 綾乃 (小針)
剣道	男子団体	2	小針中学校

5 令和元年度 全国中学校体育大会夏季大会

- (1) 主催 日本中学校体育連盟
 (2) 期日 令和元年8月17日(土)～25日(日)
 (3) 会場 近畿ブロック
 (4) 参加人数 新潟県：259名 新潟市：120名
 平成30年度 新潟県：232名 新潟市：112名
 平成29年度 新潟県：193名 新潟市：98名
 平成28年度 新潟県：274名 新潟市：119名

(5) ベスト8以上校・選手一覧

競技	種目	順位	氏名・学校名
水泳	女子800m自由形	3	杉本 妃鞠 (新潟第一)
	男子4×100mメドレー リレー	7	高志中等教育学校
バスケットボール	女子	8強	新潟柳都中学校
バドミントン	女子シングルス	8強	菫澤 百羽 (新津第二)

(6) 参加選手名

陸上

○ 男子16名

関口 裕太 (木崎)	大湊 柊翔 (小針)	三浦 大地 (坂井輪)
北原 大輝 (新津第五)	佐藤 蓮 (松浜)	見山 大翔 (坂井輪)
鈴木 彰吾 (木戸)	今野 雄介 (木戸)	田宮 虹道 (木戸)
小林 優汰 (木戸)	渡辺 蓮音 (木戸)	星野 雅空 (木戸)
松柴 諒 (木戸)	小田嶋 大夢 (五十嵐)	石山 智也 (大江山)
門間 大翔 (亀田)		

○ 女子7名

多田 響音 (小針)	橘 音羽 (小針)	岡 菜々美 (小針)
緒方 陽菜 (小針)	西海 香音 (小針)	竹中 結唯 (小針)
吉田 明永 (新津第一)		

水泳

○ 男子6名

吉川 航介 (高志中等)	高橋 叶和 (高志中等)	上之山 匠 (高志中等)
齋藤 利明 (高志中等)	羽生 朝喜 (岩室)	藤田 優 (附属新潟)

○ 女子1名

杉本 妃鞠 (新潟第一)

バスケットボール

○ 男子 新潟柳都中学校15名

栗田 光	北見 凜太郎	長谷川 立樹	宮下 紫瑛	金子 大和
堂口 悠晟	田中 嘉幸	渡辺 一大	大河原 漣	藤田 照瑛
郷 雄太	澁谷 利心	小林 優斗	阿部 日向大	古畑 和晃

○ 女子 新潟柳都中学校15名

中川 梨花	阿部 希鶴南	稲村 朱音	阿部 泉舞希	山田 あお
若杉 杏	古山 美優	高杉 桧奈	木村 未空	程田 怜那
伊藤 さくら	西間木 咲那	奥山 奈津	前田 彩那	川崎 小珠

サッカー

- 男子 山の下中学校 18名

長谷川 翔太	風間 樹	中野 大己	細貝 偉生	渡辺 拓海
竹野 陸	上野 裕次郎	櫻田 大希	近藤 雄太	竹内 愛翔
藤原 優真	藤原 拓海	岩波 優希	橋本 亮真	芳賀 耀
渡邊 侑之介	西脇 優	馬場 裕人		

体操

- 男子 1名
相田 陸真 (小新)

バレーボール

- 男子 下山中学校 12名

西田 弘志	佐藤 遥斗	池上 龍	高橋 蒼	坂上 嘉浩
若山 泰斗	岩森 敦弘	林部 永聖	佐野 陽喜	井嶋 凜一
齋藤 寿明	森 達也			

- 女子 中之口中学校 12名

相田 未来	五十嵐 乃彩	伊勢亀 心和	小林 初香	杉山 希歩
伊藤 采音	大矢 真白	岡島 愛心	金子 夏穂	高橋 葵
高野 未来	佐々木 涼香			

ソフトテニス

- 男子 2名
高橋 拓己 (巻東) 上田 泰大 (巻東)

- 女子 巻東中学校 8名

石山 実来	吉田 華純	諏訪 明日香	小林 智恵	渡邊 彩楽
小林 くるみ	今井 七葉	阿部 桜子		

バドミントン

- 女子 1名
葦澤 百羽 (新津第二)

柔道

- 男子 5名
今井 悠稀 (山潟) 筒井 直也 (巻西) 間 柚稀 (新津第一)
藤田 亜門 (亀田) 榎本 慎太 (新潟第一)
- 女子 1名
久保田 彩香 (巻西)

6 令和元年度 全国中学校体育大会冬期季大会

- (1) 主催 日本中学校体育連盟
- (2) 期日 令和2年2月1日(土)～4日(火) 【スケート】
令和2年2月5日(水)～8日(土) 【スキー】
- (3) 会場 長野県 【スケート・スキー】
- (4) 参加人数 スケート 新潟県： 2名 新潟市： 1名
スキー 新潟県： 52名 新潟市： 0名
- (5) 参加選手名
スケート
○ 女子 1名
伊藤 領那 (関屋)

7 令和元年度 部活動指導者研修会

	開催日・会場	内容	講師
第1回	7/19(金) 新潟県スポーツ 医科学センター	○ 開講式 ○ スポーツフォーラム (スポーツ傷害の防止 と成長期スポーツ選手 のセルフチェック等)	新潟医療福祉大学 大森 豪 様 塙 晴雄 様 菊元 孝則 様 中村 絵美 様 大塚製薬 根本 諒 様
第2回	9/13(金) 市陸上競技場	○ 優秀指導者実践発表	山の下中学校 梅津 雅史 様
第3回	11/22(金) 新潟会館	○ トレーニング理論 ○ 閉講式	江戸川大学 星川 精豪 様

8 今年度を振り返って

県中体連の組織改編により、佐渡市が下越地区へ、燕市・西蒲原郡が中越地区へ編入された。新潟市が各地区と同等の扱いになり、新潟市中学校体育大会は、県大会の予選になった。2年前から東西同日に開催してきたが、今年度からは東西合同開催(最大3日間)、ゆとりをもった学校生活を送れるよう、会期は6月中旬～下旬になった。各競技ともに県大会への出場枠も見直された。悪天候により、順延する種目(ソフトテニス・軟式野球・ソフトボール)もあったが、無事に終えることができた。

県大会は、軟式野球・新体操・バドミントン・剣道の4競技が、新潟市で開催された。昨年よりも60人多い430名が、北信越大会への出場権を得た。

今年度の北信越大会は、新潟県開催。陸上競技・新体操・バレーボール・バドミントン・ソフトテニスの5競技が新潟市で開催された。専門部を中心に新潟らしい『おもてなし』で大会を運営し、他県から好評を得た。新潟市選手の活躍が目立ち、多くの優勝・入賞を勝ち取った。バスケットボールにおいては、新潟柳都中学校が力の差を見せつけ、男女アベック優勝を果たした。

全国大会は、近畿ブロックで開催された。特に、水泳競技で活躍が目立った。昨年に引き続き出場した杉本妃鞠さん(新潟第一)は、女子800m自由形で3位に入賞、男子4×100mメドレーリレーでは、高志中等教育学校が7位に入賞した。

新潟市中学校総合体育大会は、新潟市中学校新人大会に名称を変えた。台風接近に伴い、陸上競技大会は中止となった。持続可能な生徒輸送システムを検討し、屋外種目の実施判定を前日の夕方に行った。

新潟市中学校体育連盟史上、最大の改革の実施年度であったが、みなさまのご理解・ご協力により、大成功を収めることができた。いつも当連盟の諸事業に対し、温かくご支援いただいている市教育委員会・関係競技団体・各中学校の皆様へ深く感謝申し上げますとともに、これまで積み重ねてきた72年の歴史と伝統を大切にしながら、『社会の流れに対応しつつ、部活動のよさを実感させながら、競技力の向上を図る』活動をこれからも続けることを誓い、令和元年度の報告とする。

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業打合せ

令和元年5月30日

新潟市教育委員会学校支援課

1. 事業の趣旨

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機に、オリンピック・パラリンピック教育を新潟市においても推進する。これにより、新潟市の児童、生徒のスポーツの価値や効果の理解、国際・異文化への理解を深める。

2. 事業の目的

主な目的は、外国人選手と接することによるスポーツのすばらしさや他国の文化や言語を学ぶことと、パラリンピックの種目を通してスポーツのすばらしさを学ぶこととする。場合によっては、海外での競技経験のある日本人選手を講師とする場合もある。

3. 当該年度における事業実施計画

- ・推進校として小学校及び中学校10校を指定し、各校に2回講師を派遣し、授業を行う。教科や内容は各校で決める。
- ・対象とする授業の教科は、体育・保健体育、外国語活動・外国語及び英語、総合とし、推進校の実態に合わせて推進校が選択する。
- ・講師の一人は、外国人選手とし、スポーツのすばらしさや他国の文化や言語を学べるようにする。外国人選手とは、サッカーJリーグ、バスケットボールBリーグ等の、新潟県内在住選手とする。もう一人の講師は、パラリンピックの種目の選手とし、スポーツできることのすばらしさや喜びを学べるようにする。パラリンピック種目の選手とは、車いすバスケットボールや陸上競技等の新潟県内在住選手とする。
- ・推進校の希望があれば、海外での競技経験のある日本人選手を講師とすることも可とする。
- ・2020年2月に、市内の小・中学校に成果を発表する地域ワークショップを開催する。

4. 選手派遣期間

- ・令和元年9月～令和2年1月（別紙参照）

5. 事業実施体制

- (1) 事業推進コーディネーター 新潟市教育委員会 指導主事 門倉 純一
- ・推進校の事業推進リーダーへの指導や助言を行う。
 - ・実施日の調整，講師の調整を行う。
 - ・全国中核拠点との連携を行う。全国セミナーに参加し，取組の成果や課題を共有する。
- (2) 各校の事業推進リーダー
- ・推進校において，各校1人事業推進リーダーを決定し，事業推進コーディネーターと連絡を取り合いながら，協力して事業を推進する。
 - ・授業計画や学習資料の検討及び作成などを授業者と協同で行う。
 - ・児童生徒のノートやアンケートの分析により事業の成果をまとめる。
- (3) オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業推進校

【小学校】9校

学番	学校名	学番	学校名
1102	南浜小学校	1112	岡方第二小学校
1303	鏡淵小学校	1312	山潟小学校
1315	笹口小学校	1501	新津第一小学校
1506	荻川小学校	1607	大鷲小学校
1611	月潟小学校		

【中学校（中等前期課程）】1校

学番	学校名	学番	学校名
2802	西川中学校		

6. 事業実施計画

実施時期	事業計画	備考
2019年 5月	<ul style="list-style-type: none"> ・推進校の決定 ・全国セミナーへの参加（事業推進コーディネーター） 	
6，7月	<ul style="list-style-type: none"> ・各推進校での実施計画立案 ・コーディネーターによる各校の講師派遣の調整 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域セミナー（事業説明会） ・各校の実施計画の完成 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・各推進校での授業に向けた準備 ・講師を活用した授業実践 	
10～	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を活用した授業実践 	

1月		
2020年 2月	・各推進校における成果のまとめ ・地域ワークショップの開催	
3月	・全国ワークショップへの参加（事業推進コーディネーター） ・コーディネーターによる事業全体の成果のまとめ ・2021年度推進校の募集	

7. 経費予定額

諸謝金（1回当たり）

- 選手 11,300円×3時間=33,900円
- 随行者 2,600円×3時間=7,800円

旅費 全国セミナー，ワークショップ参加
新幹線等 東京 ⇄ 新潟

5月：9,950円×2=19,900円

3月：9,950円×2=19,900円

旅行雑費 1,300円×2回=2,600円

借損料 物品借用運搬費・・・実情に応じて

消耗品費 1校当たりの内訳

- ・授業の資料作成のためのプリンタインク

黒3本 7,000円×3本=21,000円

カラー 6,400円×3本=19,200円

- ・授業の掲示やグループワークで使う用紙に使用する拡大用紙

14,000円 消費税 5,420円

※ 1校当たり合計：59,620円

推進校10校分 59,620円×10=596,200円

|

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 新潟市 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ, Ⅴ 】
2 実施対象者	新潟市立南浜小学校 第5学年 13名 第6学年 8名 計21名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合, 体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○ パラリンピックスポーツを体験したり、選手から直接話を聞いたりする活動を通して、障がい者スポーツについて理解を深め、生涯を通じてスポーツや体を動かすことに喜びを感じる児童を育成する。
5 取組内容	(1) 事前学習 「障がいを抱える人についての知識を深め、パラリンピックスポーツに対して理解する。」 ・障がいを抱える人の生活、道具（器具）、思いや願い等について調べる。 ・オリンピックとの関連から、パラリンピックについて調べる。 ・パラリンピックの競技に使用されている器具等について調べる。 (2) 車いすバスケットプレイヤーによる講話・ワークショップ ・障がい者スポーツプレイヤーの生き様を感じたり、競技に対する思いを知ったり考えたりする。 (3) 車いすバスケットプレイヤーによる実技指導 ・器具操作の難しさやゲームの難しさを体感する。 ・個々が抱いていたイメージとのギャップから、新たな一面を発見する。 (4) 学習のまとめ ・プレイヤーの意識の高さについて理解する。 ・障がい者スポーツの楽しさ、すごさ等についてまとめることで、障がい者スポーツの世界について理解を深める。

<p>6 主な成果</p>	<p>○ パラリンピックスポーツの種目やルールについて知識を広げるとともに、障がい者スポーツに興味・関心をもつことができた。また、体験を通して、器具を操作する難しさを実感すると同時に、楽しさを味わうことができた。</p>   <p>○ 怪我をしたときの気持ちや、車いすバスケットに対する思いから、夢や希望を与えるスポーツの素晴らしさに気付けた。まとめの活動では、「少しでも、パラリンピックや障がいを抱える人のためになりたい」「体験したら、予想以上に楽しかった。他のパラリンピック競技も見たり体験したりしてみたい」「もしも、自分が障がいを抱えることになっても、人とのつながりを意識して障がい者スポーツで楽しく体を動かしたい」と振り返っている児童が多く、障がい者スポーツや生涯スポーツへの意識が高まった。</p>  
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○ 二度の取組内容を車いすバスケットボールに統一したことで、プレイヤーの思いや願い・競技の楽しさや難しさなど、一貫性をもって学びを深めることができた。</p> <p>○ 車いすバスケットプレイヤーである講師に、直接動きを見せてもらったり教えてもらったりすることで、選手の凄さを肌で感じさせることができた。</p> <p>○ 講話前に児童から質問を募り、事前に講師へ伝えていたことで、児童が知りたい内容で講話を進めてもらえた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○ 車いすの運搬（日程調整、車両の確保）</p> <p>○ 事前の調べ学習や事後のまとめ作業など、時数の確保。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○ 体育、道徳、総合的な学習の時間等で教科横断的に学習を関連付け、スポーツの素晴らしさを実感させ、生涯にわたってスポーツを楽しむ心の育成を目指した指導を行っていく。</p> <p>○ オリンピック・パラリンピックの基礎知識の習得に向け、参加国や条件、器具やルール等について調べ学習を取り入れる予定でいる。</p>

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 新潟市 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	岡方第二小学校 4年生 15名 5年生 19名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間 道徳 体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○ 県内で活躍しているスポーツ選手との交流を通して、オリンピックパラリンピックへの関心を高めるとともに、障がいをもつ人や他国の人への理解を深め、自分たちにできることを考えることができる。
5 取組内容	○ 事前指導 ・パラリンピックについて映像資料の視聴や調べ活動を行い、興味をもつ。 ・簡易ルールで、ボッチャなどのパラリンピック競技を体験して、競技する側の気持ちを考える。 ・選手を迎えるにあたり、必要な準備などを考え実践する。 ○ 交流学习 ・車いすバスケット選手 車いすバスケットの実演、体験活動、選手の話 ・プロスポーツ選手 実演、体験活動、選手の話 ○ 事後指導 ・交流活動を通して考えたこと、学んだことをまとめる。 ・学んだことを実生活に結びつけて自分でできることを考えたり、発信したりする。 ・パラリンピックの競技について、調べ学習をしてまとめる。

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車いすバスケの選手との交流を通して、障がいをもっていてもそれを乗り越える努力をすれば何でもできる姿を目の当たりにし、子どもたちの傷がいのある方に対する意識が大きく変化した。 (何もできなくてかわいそう→障がいがあってもそれは少しの違いで、みんなと同じである) ○ 障がいのある方や外国からきたスポーツ選手と触れ合うことで、いろいろな人と交流することの楽しさや、新たな出会いの喜びを知ることができた。これまで以上に、お年寄りや障がいのある方、外国の方との交流に意欲をもつ姿が多く見られるようになった。 ○ 車いすバスケの体験を通し、障がいのあるなしをこえ、いっしょに楽しめるパラスポーツの面白さを実感し、パラリンピックについての関心が高まった。 	  
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な学習の時間と道徳の題材を関連づけて学習を進め、意欲が高まったところで、交流学习を迎えられるようにした。 ○ 車いすバスケ選手を迎えるに当たって、自分たちにできることは何かを考えることで、主体的にかかわろうとする意識がもてるようにした。 	
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ アルビレックスサッカーチームの選手との交流では、練習時間と授業時間との調整が難しかった。(予定変更があり、5限下校の日に、急遽6限実施となった。) ○ アルビレックスサッカーチームの選手との交流は、1時間だったため、もう少しゆっくり交流する時間があるとよかった。 	
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4年生の総合的な学習の時間の年間計画に「パラリンピック調査隊」という単元として位置づけ、できる範囲の体験学習を取り入れながら、実施していく。 	

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

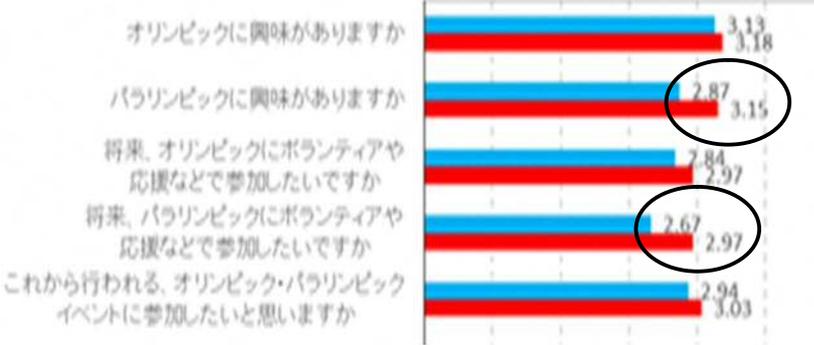
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 新潟市 】

1 実践テーマ	【 I, III 】
2 実施対象者	新潟市立鏡淵小学校 第5, 6学年（5年生35名, 6年生31名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 体育・総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○ パラリンピック種目の「ボッチャ」や「車いすバスケットボール」の体験を通して、スポーツを通じたインクルーシブな視点と社会の構築を図る。 ○ オリンピックとパラリンピックに対する興味・関心を高め、生涯を通じてスポーツや体を動かすことに親しむ児童の育成に努める。
5 取組内容	<p>(1)9月12日(木) 6学年 事前学習 (2)9月20日(金) 5学年 事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツをすること、 ・オリンピック・パラリンピックについて。 ・日本国内で活躍する外国人スポーツ選手 ・生涯スポーツについて <p>(3)10月 1日(火) 車いすバスケットボール 講師 松川 和彦 様</p> <p>(4)11月 7日(木) ボッチャ 講師 長谷川 寿史 様</p> <p>(5)児童会祭りの出店(桃リンピック) 出店 ・全校児童が楽しめる形に工夫して体験型アトラクションを設置した。</p> <p>(6)委員会活動による校内掲示物作成とクイズ大会 ・インクルーシブな考えを浸透させようと様々な取り組み</p>



<p>6 主な成果</p>	<p>【アンケート結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パラリンピックへの興味関心が向上した ○ パラリンピックへのボランティアや応援に参加したいという思いが向上した。  <table border="1" data-bbox="507 241 1321 586"> <thead> <tr> <th>質問</th> <th>前</th> <th>後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オリンピックに興味がありますか</td> <td>3.13</td> <td>3.18</td> </tr> <tr> <td>パラリンピックに興味がありますか</td> <td>2.87</td> <td>3.15</td> </tr> <tr> <td>将来、オリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか</td> <td>2.84</td> <td>2.97</td> </tr> <tr> <td>将来、パラリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか</td> <td>2.67</td> <td>2.97</td> </tr> <tr> <td>これから行われる、オリンピック・パラリンピックイベントに参加したいと思いますか</td> <td>2.94</td> <td>3.03</td> </tr> </tbody> </table> <p>【児童のふり返りから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 車いすバスケットボールの体験を通して、ルールを知ることができた。障がいのレベルに合わせて試合にでられる人が決まっていることに驚いた。 (A子) ○ 障がいがある人のために競技が開発されたのはすごいと思いました。まだ、開発されていないものもあると思うので、みんなが楽しめるためにいろんな競技を開発したい。(B子) <p>【授業の様子から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育ではみんながより楽しめるようにルールを工夫したり、寄り添ったりする姿が以前よりも多くみられるようになった。 ○ 写真は、特別支援学級在籍児童もバレーボールが楽しめるようにルールを工夫したり、活躍できるように試行錯誤したりする様子。 	質問	前	後	オリンピックに興味がありますか	3.13	3.18	パラリンピックに興味がありますか	2.87	3.15	将来、オリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか	2.84	2.97	将来、パラリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか	2.67	2.97	これから行われる、オリンピック・パラリンピックイベントに参加したいと思いますか	2.94	3.03
質問	前	後																	
オリンピックに興味がありますか	3.13	3.18																	
パラリンピックに興味がありますか	2.87	3.15																	
将来、オリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか	2.84	2.97																	
将来、パラリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか	2.67	2.97																	
これから行われる、オリンピック・パラリンピックイベントに参加したいと思いますか	2.94	3.03																	
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の実態(通常級 特別支援 院内 通級)から、パラリンピオンを招待する授業を2回行った。 ○ ゲストを招く前に、事前学習を行い、児童の関心意欲を高めた。 ○ 他学年とも一緒に行い、より多くの児童にも学習ができるようにした。 																		
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車いすを亀田の新潟県障がい者交流センターから運搬するのに、ハイエース1台、ミニバン2台が必要だった。 ○ 車いすの運搬に関わって級外職員が3人も搬出入に関わり、学校内が手薄になった。 																		
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>当校周辺地域は、都市の空洞化に伴い少子高齢化が進んでいる。また、高齢者を含めた生涯体育に関する意識も少ないように感じる。まもなく開校150周年を迎える当校の周辺住民は、学校を愛する気持ちが強く、学校に協力したいという意識も強い。</p> <p>そこで、当校では、来年度改変する教育課程見直しの中で、小学校3年生の総合的な学習の時間に福祉教育を位置づけ、パラスポーツを中心に学習を展開していく予定である。「I'mPOSSIBLE」を活用し、まず児童たち自身がパラスポーツを学び、地域の高齢者とともに活動することを目的として位置づける。児童たちに目的を持たせることで学習に対する意識を高めていきたい。</p> <p>さらに、小学生が高齢者を含めた地域住民にパラスポーツの意義やルール等を紹介することで、興味をもってもらい、自分たちのコミュニティの中にパラスポーツがレガシーとして位置付けていくことを願う。</p>																		

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 新潟市 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	新潟市立山湯小学校 5年生（74名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○ 2020年東京大会に向けて、オリンピック・パラリンピックへの関心を高める。</p> <p>○ スポーツの価値や効果の再確認を通じて、国際的な視野をもって世界の平和に向けて貢献できる人材を育成する。</p> <p>○ オリンピック・パラリンピックにかかわって、外国人選手と交流したり、映像を見たりしながら、自らの夢に向けて何事にも挑戦する意欲を高める。</p>
5 取組内容	<p>(1) 事前学習</p> <p>○ 基礎的知識の理解として、オリンピック・パラリンピック憲章、歴史、競技種目、出場選手、参加国などについて、DVDを利用して学ぶ。</p> <p>(2) サッカー外国人選手との交流</p> <p>○ アルビレックス新潟のサッカーチームの外国人選手の体験談を聞くことや交流することで、スポーツについての理解を深める。</p> <p>○ サッカー運動等を対象学年が体験する。</p> <p>(3) パラリンピックの意義・歴史学習と競技種目体験</p> <p>○ パラリンピック（オリンピック）の歴史や意義競技種目等を、新潟市中央区社会福祉協議会の人から、講演してもらい理解を深める。</p> <p>○ ボッチャを対象学年が体験する。</p>
	 

<p>6 主な成果</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>○ ボッチャを実際に体験することで、障がいのある方でもそうでない方でも、どのような人でも楽しむことができることを実感することができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>○ プロサッカー選手の講演では、サッカーに対して関心の低かった児童も興味を持って話を聞いたり、メモをしたりしていた。</p> <p>○ 祖国が韓国であるチョ・ヨン Chol選手が、日本でどのように過ごしているのかや苦労話などを聞かせてもらった。国際交流という観点から、言語や国籍など関係なく、サッカーというスポーツでつながっていることを理解した。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○ 本単元では、スポーツに興味を持っている児童とそうでない児童で学習意欲に差があることが予想された。「スポーツを頑張る人・頑張ろうとしている人」に対して、「どうして頑張るのか」という疑問をもたせ、「夢に向かって挑戦し続ける人」と今の自分を重ね合わせるようにして、学習をスタートさせた。</p> <p>○ 対象学年児童が学んだことを、ポスターにまとめ発表する機会を設けた。学年内発表だけでなく、学校内に掲示し、オリ・パラの輪をより広めようとした。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○ サッカーアルビレックスのチョ・ヨン Chol選手と通訳の方の人が来ていただいたのだが、基本的にはこちらの質問に対して答える形だった。そのため、MC 役は教師が担い、児童の考えた質問と重ならないように質問をしたり、広めたりすることが大変だった。</p> <p>○ 選定した講師の講話内容とオリンピック・パラリンピックのムーブメントのねらいや関連を結びつけることに苦慮した。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○ オリンピック・パラリンピックの年は観戦への意欲付けをし、目的をもって応援ができるようにする。</p>

6 主な成果

○ スポーツ選手との交流前に、オリンピックとパラリンピックのそれぞれの意義や歴史などについて事前学習を行った。スポーツ選手との交流も含め、児童の興味・関心を高めることができた。



■とても興味がある ■興味がある ■あまり興味がない ■興味がない

○ スポーツ選手との交流では、体験を通してスポーツに親しむことができていた。また、選手の話の聞いたり質問をしたりすることで、自身のこれからの考え方や生き方についても学ぶ事ができたと振り返る児童が多かった。

○ 事後学習では、オリパラ教育から学んだことを振り返り、自分に何ができるかを考えた。「応援をしたり家族や友達に広めたりして、東京2020を支えていく」「これからもスポーツを続け、スポーツ選手のように何事にもあきらめないで挑戦する」など、今までの自分を見つめ直し、これからの生活に役立てようとする姿が見られた。



7実践において工夫した点(事業の特色)

○ オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料(スポーツ庁)やI'mPOSSIBLEの映像資料等を活用し、基礎的知識の理解を図った。

○ 選手との交流では、スポーツに関する興味関心の向上・スポーツを楽しむ心の育成を目的とし、体格や運動能力の違いを比べたり、ミニゲームを行ったりするなど、目的に応じた活動を行った。

○ パラリンピックの事前学習の中で、クラブ活動として行っているボッチャについても取り上げ、競技のルール特徴を説明したり、実際に体験したりした。

8主な課題等

○ 来年度の東京への修学旅行の際、どのようにオリパラ教育を生かしていくかを計画する必要がある。

○ 特定の学年での体験活動となってしまったため、その他の学年の児童が体験できなかった。オリンピック・パラリンピック関連の講師の確保を含め、全校がどのようにオリパラ教育を進めていくかを検討しなければならない。

9来年度以降の実施予定

実施対象とした学年は、来年度の修学旅行でオリンピックミュージアムなどの東京2020に関連のある施設を見学する予定である。また、その他の学年でも、学年の実態にオリンピックやパラリンピックの意義や歴史について学ぶ時間を設けたり、他教科と関連付けて指導したりしていく。

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

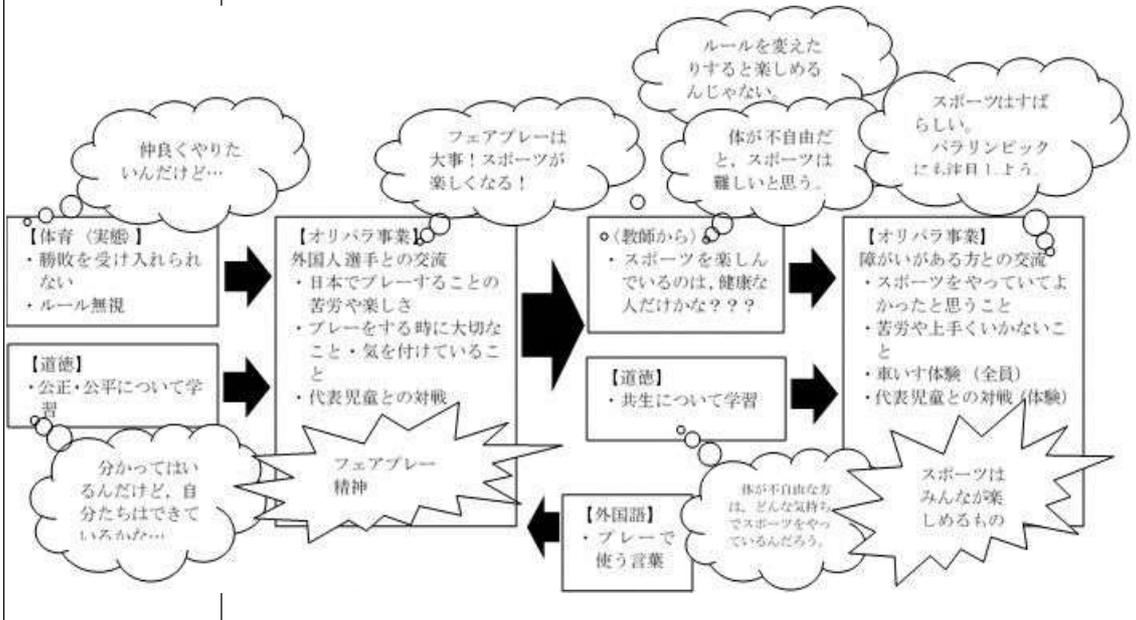
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 新潟市 】

1 実践テーマ	【 V III 】
2 実施対象者	新潟市立新津第一小学校 5年生（男子49名 女子20名 合計69名） 6年生（男子42名 女子34名 合計76名） ※6年生は、講演会のみ参加
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 体育 道徳 外国語 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	スポーツの意義や共生社会の構築について、外国人選手と一緒にプレーすることや障がいのある方がスポーツを楽しんでいる話を聞くことを通して、フェアプレー精神を学んだり、障がいの有無に関わらずスポーツを楽しむことができることを理解したりすることができる。
5 取組内容	【体育】 ・自学級の実態の振り返り（ゲームをしても上手くいかない等） ・外国人選手、障がいのある方とのプレーや講話 【道徳】 ・公平・公正についての学習 ・共生についての学習 【外国語】 ・プレーをする時に使う言葉の学習 【オリパラ事業】 ・外国人選手との交流を通じたフェアプレー精神の学習 （10月16日【水】実施） ・障がいのある方との交流を通じた共生社会の構築 （11月29日【金】実施）

【取組内容】



6 主な成果

- オリンピック・パラリンピック教育全体を通して、多くの児童が、オリンピック・パラリンピックに興味、関心をもつことができた。【図1】



【図1 オリンピック・パラリンピックについてのアンケート】
※アンケート結果は、日本体育大学の調査より

- 多くの児童が、スポーツをするうえで「フェアプレー精神」が大切であることを理解し、学校生活において実践しようとする気持ちをもつことができた。

【児童の感想】

「仲間とコミュニケーションをとりながらゲームを楽しむことが大事だということが分かりました。」
 「日常生活の中では、挨拶をすることでフェアプレーが実現できると思いました。」
 「(ゲーム中のファウルなど) 駄目なことをしたけれど、試合中に謝れない時は、試合後に伝えるとよいということを学びました。」

- 道徳の授業や講演会を実施することにより、多くの児童が、障がいがある・なしに関わらず、スポーツを楽しむことができるということや、日常生活において障がいのある方との接し方を理解することができた。

【児童の感想】

「松川選手から来ていただいたことで、車いすバスケットや車いすラグビーに興味がありました。また、見てみたいです。」
 「車いすバスケットの大変さと楽しさが分かってよかったです。」
 「車いすで行動していると、いろいろなことができないんじゃないかと思っていたけれど、松川さんを見て、何でもできると思いました。」

	「障がいのある方には、積極的に声を掛けることも大事だけれど、見守ることも考えて接してあげるといいんだなと分かりました。」
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2名の講師の方それぞれにおいて、「講演会+体験」とし、「真剣に話を聞く場面」と「盛り上がる場面」を明確にした。 ○ 講演会の時に、「質問タイム」を設定して、児童と講師の方とコミュニケーションを図ることができるようにした。 ○ 車いすに乗る体験を全員ができるように車いすを10台借用した。 ○ 学習参観日に道徳を実施し、オリンピック・パラリンピック教育について保護者に公開した。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全員に「体験」の時間を確保すると時間が掛かる。 ○ 講演会等を実施していない学年や低・中学年への支援等が必要である。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学びを指導する。 ○ 運動会などの行事等で、全校でできるオリンピック・パラリンピック教育に関わることを取り入れる。 ○ オリンピック・パラリンピック教育に関わる地域の人材を活用できないか検討をする。

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 新潟市 】

1 実践テーマ	【 III IV 】
2 実施対象者	新潟市立荻川小学校 6学年 3学級 95名 (1組31名 2組32名 3組32名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○ 高齢者や障がいのある人、外国の人、スポーツ選手など、様々な人たちとふれ合うことで、その人たちの思いや願いを知り、これからの地域とのかかわり方や自己の生き方について考える。
5 取組内容	(1) 「バリアフリー」という言葉から課題意識をもつ。 ・バリアを感じている人はどんな人？ ・どんなバリアが存在し、どんなことを思っているのか。 ・バリアを取り除くための工夫や取組、そこに携わる人。 ・オリパラの意義・歴史 (2) 車いす体験 (ゲストティーチャー：秋葉区福祉協議会) ・車いすの使い方について ・校舎内の車いす体験 ・身の回りのバリアフリーについて (3) 車いすバスケットボール選手との交流 (オリパラ事業) ・車いすでの生活について ・車いすバスケットボール体験 (4) 義足体験 (池田選手) ・義足での生活について ・義足体験

	<p>(5) 盲導犬ユーザーさんのお話を聞く会 (ゲストティーチャー：ハーネスの会 赤塚セツさん) ・盲導犬との生活について</p> <p>(6) 認知症サポーター養成講座 (ゲストティーチャー：秋葉区福祉協議会) ・高齢者や認知症を持つ人の特徴について ・ロールプレイによる認知症を持つ人とのかわり方</p> <p>(7) デイサービスセンター訪問 ・高齢者と遊びを通しての交流</p> <p>(8) 個人テーマの決定・課題の追究</p> <p>(9) 総合発表会（学習参観） ・自分の学びを地域に発信</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>○ パラリンピックの学習や車いすバスケットボール選手との交流を通して、児童はパラリンピックを身近に感じることができた。</p> <p>○ 外国語の学習でパラリンピックを取り上げた際にはパラリンピックの種目について意欲的に発言することができた。</p> <p>○ 総合学習のまとめで興味をもったパラリンピックの競技について追究する姿が見られた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○ 車いすバスケットボール選手との交流を実施する前に、車いす体験を設定した。</p> <p>○ 実際に日常用車いすに乗ることで車いすへの興味関心を高めさせたり、日常生活用の車いすと競技用車いすの違いを感じさせたりすることで、パラリンピックへの関心を高め、理解を深めた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○ 車いすバスケットボール選手との交流にあたり、競技用車いす20台を借用した。借用できる施設と距離もあり、運搬に手間がかかった。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○ 障がい者スポーツの視点から共生社会について考えることは、児童にとっては取り組みやすい。当校では、例年車いすテニス選手の方との交流も行っている。今後も、様々な障がい者スポーツに携わる方とのつながりを持っていきたい。</p>

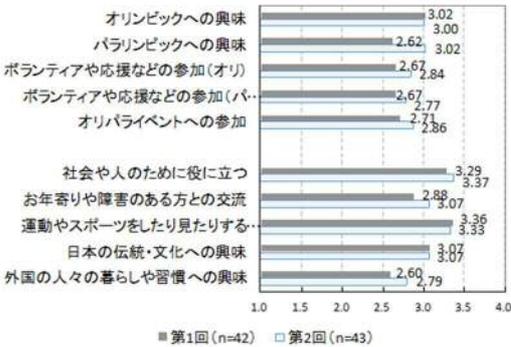
令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

都道府県・政令市【新潟市】

1 実践テーマ	【I, II, III, IV, V】
2 実施対象者	新潟市立大鷲小学校 全校児童（87名）
3 展開の形式	学校における活動 教科名（総合的な学習の時間・体育・道徳・特別活動）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国籍プロスポーツ選手とか関わり、これまでの生き方の話を聞いたり共に運動したりする活動を通して外国のスポーツ文化に関心を持ち、スポーツを通じて自分自身も高い目標に挑戦しようとする思いを育てる。 ○ 障がいをもつ人と関わって、障がいや障がい者スポーツ（パラリンピック目）について知り、障がいを持つ人の思いに触れたり、共に活動したりすることで、パラリンピックに関心を抱いたりインクルーシブな社会を自ら構築しようとしたりする態度を養う。
5 取組内容	<p>【1次】 オリンピック・パラリンピックの意義を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第1時「オリンピック・パラリンピックって何だろう」【オリパラ①スポーツ、オリパラの意義、歴史に関する学び】 教科：特別活動（学活） <p>【2次】 プロスポーツ選手から学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第2時「招待選手の国ってどんな国」【オリパラ④日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性の尊重】 教科：総合的な学習の時間 <ul style="list-style-type: none"> ○ 第3時「招待選手から話を聞いたり一緒に運動したりしよう」【オリパラ⑤スポーツ志向】 教科：体育（全校） <p>【3次】 障がいについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第4時「障がいをもつ人とどのように関わればよいのだろう」【オリパラ③障がい者理解】 教科：特別の教科道徳『公平』 ○ 第5時「どんな思いでスポーツに臨んでいるのかな」【オリパラ③障がい者理解】 教科：特別の教科道徳『希望と勇気、努力と強い意志』 ○ 第6時「車いすの人が校内で困ることはどんなことだろう」【オリパラ②ボランティアマインド】 教科：特別活動（学活） <p>【4次】 車いすバスケットプレイヤー・松川選手から学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第7時「障がいのあるとはどういうことか」【オリパラ③スポーツを通じたインクルーシブな社会の構築】 教科：特別活動（全校）



	<p>○ 第8時「車いすバスケットどんなスポーツ?」【オリパラ⑥スポーツに対する興味・関心の向上, 楽しむ心の育成】</p> <p>教科：体育（全校）</p>																																		
<p>6 主な成果</p>	<p>○ 子どもたちは、一連の取組を通じてオリンピック・パラリンピックに関心を持つようになった。</p> <p>○ サッカーや車いすバスケットを楽しみながら取り組むことができた。</p> <p>○ オリパラ教育で目指す「ボランティア・マインド」「障がい者理解」に関する項目に向上が見られた。</p>	 <table border="1"> <caption>オリパラ教育に関する興味・関心の向上</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>第1回 (n=42)</th> <th>第2回 (n=43)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オリンピックへの興味</td> <td>3.02</td> <td>3.00</td> </tr> <tr> <td>パラリンピックへの興味</td> <td>2.62</td> <td>3.00</td> </tr> <tr> <td>ボランティアや応援などの参加(オリ)</td> <td>2.67</td> <td>2.84</td> </tr> <tr> <td>ボランティアや応援などの参加(パ)</td> <td>2.67</td> <td>2.77</td> </tr> <tr> <td>オリパライベントへの参加</td> <td>2.71</td> <td>2.86</td> </tr> <tr> <td>社会や人のために役に立つ</td> <td>3.29</td> <td>3.37</td> </tr> <tr> <td>お年寄りや障害のある方との交流</td> <td>2.88</td> <td>3.07</td> </tr> <tr> <td>運動やスポーツをしたり見たりする</td> <td>3.36</td> <td>3.33</td> </tr> <tr> <td>日本の伝統・文化への興味</td> <td>3.07</td> <td>3.07</td> </tr> <tr> <td>外国の人々の暮らしや習慣への興味</td> <td>2.60</td> <td>2.79</td> </tr> </tbody> </table>	項目	第1回 (n=42)	第2回 (n=43)	オリンピックへの興味	3.02	3.00	パラリンピックへの興味	2.62	3.00	ボランティアや応援などの参加(オリ)	2.67	2.84	ボランティアや応援などの参加(パ)	2.67	2.77	オリパライベントへの参加	2.71	2.86	社会や人のために役に立つ	3.29	3.37	お年寄りや障害のある方との交流	2.88	3.07	運動やスポーツをしたり見たりする	3.36	3.33	日本の伝統・文化への興味	3.07	3.07	外国の人々の暮らしや習慣への興味	2.60	2.79
項目	第1回 (n=42)	第2回 (n=43)																																	
オリンピックへの興味	3.02	3.00																																	
パラリンピックへの興味	2.62	3.00																																	
ボランティアや応援などの参加(オリ)	2.67	2.84																																	
ボランティアや応援などの参加(パ)	2.67	2.77																																	
オリパライベントへの参加	2.71	2.86																																	
社会や人のために役に立つ	3.29	3.37																																	
お年寄りや障害のある方との交流	2.88	3.07																																	
運動やスポーツをしたり見たりする	3.36	3.33																																	
日本の伝統・文化への興味	3.07	3.07																																	
外国の人々の暮らしや習慣への興味	2.60	2.79																																	
<p>7実践において工夫した点</p>	<p>○ プロや障がい者スポーツで活躍している方をゲストティーチャーとして招き、スポーツへの思いを話してもらったり一緒に運動したりしたことでそれぞれの選手の思いに直に触れることができた。また、卓越した技能を間近で見せてもらい、努力の成果や技術の高さを感じる事ができた。</p> <p>○ オリパラ教育のイメージ図や指導案をもとに、全校で理念を共有しながら指導にあたる事ができた。子どもたちが、ただ運動に取り組むのではなく、障がいについて考えたり、夢を叶えるために努力することの大切さを感じたりしながら互いに関わり合って活動することができた。</p>	 <p>「主体性』がわかる力』を育む大蔵小学校のオリパラ教育の推進</p> <p>【主体性】「わかる力」</p> <p>1. ボランティア活動 「自分たちのために、自分の役割を果たす」という意識を育てる。ボランティア活動を通して、社会貢献の大切さや、他者への思いやりを学ぶ。</p> <p>2. 社会や人のために役に立つ 「社会や人のために役に立つ」という意識を育てる。ボランティア活動を通して、社会貢献の大切さや、他者への思いやりを学ぶ。</p> <p>3. お年寄りや障害のある方との交流 「お年寄りや障害のある方との交流」という意識を育てる。ボランティア活動を通して、社会貢献の大切さや、他者への思いやりを学ぶ。</p> <p>4. 運動やスポーツをしったり見たりする 「運動やスポーツをしったり見たりする」という意識を育てる。ボランティア活動を通して、社会貢献の大切さや、他者への思いやりを学ぶ。</p> <p>5. 日本の伝統・文化への興味 「日本の伝統・文化への興味」という意識を育てる。ボランティア活動を通して、社会貢献の大切さや、他者への思いやりを学ぶ。</p> <p>6. 外国の人々の暮らしや習慣への興味 「外国の人々の暮らしや習慣への興味」という意識を育てる。ボランティア活動を通して、社会貢献の大切さや、他者への思いやりを学ぶ。</p>																																	
<p>8主な課題等</p>	<p>○ 意識の継続 集中的に実施した期間が終わると、子どもの意識は薄れていく。オリパラ教育を年間教育に位置付け、継続して子どもの指導にあたる事が求められる。</p> <p>○ 車いすの手配 今回、教育委員会から「ふれ愛センター」を紹介してもらい、車いすを手配することができた。どこで借りられるかという情報やそれを運ぶ方法を事前に検討する必要がある。</p> <p>○ オリパラ講師の確保</p>																																		
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○ パネルやDVDを活用しながら教科横断的な学習として、障がい者理解・運動意欲・日本人としての自覚と誇り・豊かな国際感覚を育てていく。</p> <p>○ オリパラ講師から直接学ぶ機会を検討したい。</p>																																		

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 新潟市 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ、Ⅴ 】
2 実施対象者	新潟市立月潟小学校 4年児童 29名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育、総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<保健体育> ○ 新潟で行われているプロスポーツを知り、その選手と一緒に運動をすることで、スポーツを行ったり観戦したりすることの楽しさに新たな視点で気付くことができる。 <総合的な学習> ○ 車いすバスケットボールチーム選手との交流から、自分の考えや行動を見つめ直し、今後の生き方について考えることができる。
5 取組内容	<事前学習> ・オリンピック・パラリンピックの種目、出場予定の日本人選手について ・新潟で行われているプロスポーツについて <サッカー外国人選手との交流> ・一緒にゲームをする。 ・テクニックを披露してもらう。 ・日本での生活について教えてもらう。 <車いすバスケットボールチーム選手との交流> ・道具や技の紹介をしてもらう。 ・車いすバスケットボールの体験をする。 ・車いすでの生活について教えてもらう。 <事後学習> ・学んできたことを、学習発表会などで、地域の人や保護者へ伝える。

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ アルビレックス新潟の外国籍選手との交流を楽しみにして、事前にポルトガル語のあいさつや歓迎の言葉、ブラジルの文化などを調べて、異文化の相手を受け入れる気持ちを高めていた。 ○ パラリンピアンとの交流や、経験のない車いすバスケットボールを通じて、障がい者スポーツを健常者でも楽しむことのできる工夫があることを、体験しながら知ることができた。 ○ プロ選手とスポーツをすることを楽しみにして、体育での事前の練習も意欲的に取り組んでいた。アンケートによると、活動を通じてスポーツへの関心も高まり、「オリンピック・パラリンピックに興味がありますか」に対して、事前よりも高い数値になった。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <div data-bbox="845 649 1356 1093"> <p style="text-align: center;">オリンピック・パラリンピックについて</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>質問</th> <th>第1回</th> <th>第2回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オリンピックに興味がありますか</td> <td>27.6</td> <td>37.9</td> </tr> <tr> <td>パラリンピックに興味がありますか</td> <td>13.8</td> <td>20.7</td> </tr> <tr> <td>オリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか</td> <td>24.1</td> <td>27.6</td> </tr> <tr> <td>パラリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか</td> <td>13.8</td> <td>24.1</td> </tr> <tr> <td>オリンピック・パラリンピックイベントに参加したいと聞きますか</td> <td>17.2</td> <td>27.6</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">0% 25% 50% 75% 100%</p> <p style="font-size: small;"> ■ とても興味がある/ぜひ参加したい ■ 興味がある/参加したい ■ あまり興味がない/あまり参加したくない ■ 興味がない/参加したくない </p> </div> </div>	質問	第1回	第2回	オリンピックに興味がありますか	27.6	37.9	パラリンピックに興味がありますか	13.8	20.7	オリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか	24.1	27.6	パラリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか	13.8	24.1	オリンピック・パラリンピックイベントに参加したいと聞きますか	17.2	27.6
質問	第1回	第2回																	
オリンピックに興味がありますか	27.6	37.9																	
パラリンピックに興味がありますか	13.8	20.7																	
オリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか	24.1	27.6																	
パラリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか	13.8	24.1																	
オリンピック・パラリンピックイベントに参加したいと聞きますか	17.2	27.6																	
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前学習では、『I'm possible』を用い、自分たちと交流する選手に置き換え、どんな準備が必要か考えさせてから活動を進めた。 ○ 児童が自ら考えた車いす用のコースを選手に体験してもらい、普通の車いすとは違う、競技用の特徴を詳しく知ることができた。 ○ プロスポーツ選手と接することによるスポーツに対する意識の向上、他国の文化や言語を学ぶことによる外国の人や文化への理解の深まりを図った。 																		
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車いすの運搬にトラックを借りた。職員の車両(ミニバン)だけで10台の車いすを運ぶことができない。 ○ 新潟のプロスポーツ選手による講話の内容を、オリンピック・パラリンピックと直接関連させるのが難しかった。 ○ 今後、同様の活動を進めていく上での、プロスポーツ選手などの講師の確保、調整を学校が単独で進めていくことが難しいと感じる。 																		
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4年生総合的な学習の時間「福祉のためにできること」の活動計画に入れ、年間を見据えた学習を進めていく。 ○ 全校でオリンピック・パラリンピック憲章や歴史、意義などについてDVDを活用して学び、スポーツへの関心を高めていく。 																		

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 新潟市 】

1 実践テーマ	【 I III V 】
2 実施対象者	新潟市立西川中学校 全校生徒258名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (特別の教科道徳 保健体育)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○ 普段あまり情報が入ってこない障害者スポーツに接することにより、パラリンピックやオリンピックへの興味と関心を高める。また、困難に負けずに克服しようとする態度を育てる。</p> <p>○ 外国籍のプロスポーツ選手との交流から、スポーツ全般とその運動能力への関心を高めると共に、他国の文化を理解する態度を育てる。</p>
5 取組内容	<p>○ 9月30日(月)事前アンケート</p> <p>○ 10月7日(月)～10月11日(金)事前学習① オリンピックとパラリンピックについて(各学年保健体育)</p> <p>○ 11月13日(水)プロサッカー選手来校 講師：アルビレックス新潟 選手 シルビーニョ様 選手のお話 インタビュー 代表生徒とのパスワーク体験活動</p> <p>○ 11月14日(木)事後学習① 自己評価シート記入 感想記入</p> <p>○ 11月19日(火)～11月25日(月) 事前学習② 克己と強い意志(各学年道徳)</p> <p>○ 12月3日(火)事前学習③ NHKテレビ「パラ×ドキッ」視聴(車イスバスケの回)</p> <p>○ 12月10日(火)車イスバスケットボールチーム選手来校 講師：新潟県車イスバスケットボールチーム 松永哲一様 講演「障がい者と障がい者スポーツ」 ミニゲーム体験(生徒10名 対 松永様の5分ゲーム)</p>



	<p style="text-align: center;">質疑応答</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>○ 12月11日(水)事後学習② 自己評価シート記入 感想記入</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>○ プロスポーツ選手の技術を間近で見ることでサッカーをはじめ、プロスポーツの質の高さを実感することができた。</p> <p>○ 海外の選手が日本で活動することの大変さと意志の強さを学ぶとともに、文化の違いを学ぶことができた。</p> <p>○ パラスポーツ選手の話をお聴きすることで、困難に負けず、希望をもって生きていくことの大切さを学んだ。</p> <p>○ 本事業でおこなった2回の調査(事前・事後)結果においては、いずれの項目でも2回目のほうが肯定的な数値が大きく上昇した。</p> <p>○ 本事業で行った校内アンケート結果では、外国の文化・スポーツ、特にパラスポーツの関心が以前よりも高まったと判断する生徒の数値が増えた。</p> <p>○ 多くの生徒が『困難に直面してもそれに負けずに目標をもって頑張る姿』を感想に取り上げ、これまで接することが少なかった障がい者スポーツに関心を示した。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○ 事前に関連する内容を扱ったテレビ番組を見せることで、事業当日を迎えるにあたり、興味関心の醸成を行った。 番組名「パラ×ドキッ!」NHK BS1 『驚きのスキルと成長物語 車イスバスケットボール 鳥海連志』</p> <p>○ 事業で実施したマークシート調査とは別に校内でのアンケートを行い、生徒一人一人の考えを把握できるようにした。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○ 事業の趣旨を踏まえて全校体制で実施したため、体験活動が代表生徒に限定されたこと。 ※全校生徒が約250名と中小規模のため、学年単独でやるよりも効果があると判断して全校実施とした。どうしても体験活動を全員にさせたいのであれば学年実施だが、それでも今回よりは時間がかかると思われる。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○ オリンピック・パラリンピックの時期に合わせて今年度事前に実施した授業を継続</p>